六八　商工業者の職責は第二第三の戰爭に在り

愉快なる晩餐會

來賓閣下及び會員諸君。早川(千吉郎)新委員長の就任第一回の晩餐會に、今夕は種々の方面の變つた來賓を請上げましたのは、卓上の御料理の調味の具合と同一か別であるかそれは姑く別問題として、甚だ五味の調和の宜しきを得たるものと、先づ以て新委員長の御注意を感謝致します。而して臨場の諸閣下が、御懇切に吾々に向つて御銘々にそれ〴〵御調査御經歷の御話を下さいましたのは、誠に感謝に堪へぬ次第でございます。但し內田鶴原兩君は、或は吾々の耳の惡かつた爲か分りませぬが、何やら謝絕を受けた樣でございましたが、謝絕をされつゝ頻りに拍手喝采をしたのは、蓋し辭令の巧妙なる爲であらうと思ひます。どうぞ銀行者諸君は兩君に倣うて、嫌な取引先が來た時に、拒絕しても拍手されまするやうな巧妙なる辭令に御習ひあれかしと希望に堪へませぬ。吾々の此の晩餐會と云ふものは誠に無味單調なもので、殊に銀行者は何時も同じやうな仕事を繰返し〳〵、錙銖の利を爭うて室內に齷齪して居る者であります。せめて月に一回づゝ、耳目を千里の外か萬里の外か分りませぬが、馳せるやうな方法を講じたいと云ふことが、即ち此の倶樂部晩餐會の企てられた所以でございます。段々に其の方面が廣くなつて、既に今夕の如きは我が版圖中でも北は樺太から南は臺灣まで、甚しきは所謂火蟲氷を見ず、氷のある方の者は汗を見ず、汗のある方の者は氷を見たことが無いと云ふ御方が一室に集まつて、御互に御話が出來ると云ふことでございまして、是程愉快なことはございませぬ。また或は暹羅に御勤務の御方が、今度は西班牙に御出でになるとか、或は亞米利加に御在勤の御方が巴西(ブラジル)に御出でになるとか云ふやうな種々方面の變る御話を、一室に相會して伺ふことは、實に吾々共此の上も無く喜ばしいことゝ考へます。

眞正の擴張發達には必ず苦境の伴ふを免れず

稻垣公使は先刻頻りに、戰爭は唯一度に勝つたので滿足とは言はれなからう。其の最終の美を濟して始めて眞に戰爭に勝つたのである。故に今日の經濟力の勃興は、之を能く整理したらば即ちそれが第三期の戰爭の終局である。砲煙彈雨の間に勝を制するばかりが戰爭の大勝とは言へぬのである。而して第二第三の

戰爭は吾々商工業者の職責であると云ふ事を御誡め下さいましたが、御說の如く今日は吾々に取りては恰も旅順の攻擊と言はうか奉天の大衝突と言はうか、若くは黃海或は對馬海峽の海軍の時期と、一同苦心しつゝ居ります譯であります。唯其の間に於て、若しも蹶躓と云ふことがありはせぬかと氣遣ひますけれども轉ぶと云ふことは免れませぬと思ひます。轉ぶのが嫌だと言つて進まずに居る譯にも參りませぬと云ふ事は、人の世に處する常でございますれば、是亦據無いことゝ思ひます。稻垣公使は、壯者は未來を說くと言はれましたが、私共銀行者は實は其の中間に居つて或る場合には既往を談じ又或る場合には未來を說きたいと思ふのでございます。まだそれ程白髮になつたとは自分は思はないのであります。諸君は知りませぬが私は兩方面にありたいと思ふのでございます。頗る卑猥な比喩を取る樣でございますが、私は或る點からは傍の產婆から黑毛を拔けと言はれ、又一方の少女からは白毛を拔けと言はれるのであります。即ち或は國運の進步を急速にせねばならぬと云はれ、或は危險極る足下の爲に餘計に世間が騷々しくなると、斯う言はれます。甚だ繰言でございますけれども、自らも尙ほ迷ふと云ふやうな場合でございます。併し眞正の擴張發達は、どうしても此の苦境を切拔けねばならぬ。既往に依つて考へまするとは將來も左樣と思ひます。今日は種々なる事業に就いて、先づ相當と思ふことを經營しつゝありまするのです。どうぞ稻垣君の御示しの如く、第三期の戰爭で都合よく大勝利を制したいと思ひます。それに付きましても、斯く皆樣に尊臨を請うて耳新しい事を聽かして戴くことは、平日單調の吾々に取つては最も有益なることゝ考へまするで、茲に難有く來賓諸君に對して謝辭を申述べまする次第でございます。

終りに臨みまして、昨年來私が委員長として此の倶樂部に勤務したことを、新委員長から御挨拶を得まして却て恥入ります次第であります。新委員長に於ては、先づ開會第一に斯の如き好配劑を以て、所謂五味の調和宜しきを得た所の御料理を下さいました。併し杯盤の御料理は御褒め申す譯には參りませぬが、私は併せて委員長の御盡力を謝し上げまする。（明治四十一年二月二十日銀行倶樂部晩餐會に於て）

六九　米業私見

米商賣に對して直接關係少きも間接には其の關係深し

斯かる御會合に參上致しまして、全國の當業諸君と一堂の下に御會見を致しますのは、私の最も欣喜に堪へぬ所でございます。今日此の大會に參上致して、諸君に對して一言申上げるようにと、此の程中村恒川の兩君から御委託を蒙りましてございます。喜ぶことでございますから、御請を致して參上は仕りましたけれども、元來私は米商賣と云ふことには直接關係がございませぬ。諸君を益することを申上げるに殆ど困難を致すのでございます。此の米と云ふものは、日本の總ての人に關係の大なるものと云ふことは、是は申すまでもございませぬ。私も米に依つて生活を致して居る人間であれば、其の恩や蓋し大なり。故に米と云ふものに對しての觀念は甚だ厚いけれども、さて此の米を如何に耕作するか。如何に商賣するか。それに付いて斯くするが利益である等のことに付いては意見もございませぬ。實驗も乏しいと云ふ次第でございます。强ひて昔からの私の關係經歷を茲に繰返しますならば、根が埼玉の百姓の生れでございますから、十七八歳二十歳頃迄は炎天に出て田の草を採つたとか、水を引く爲に番をして大變腹を減らしたことを記憶して居ります。併しながら、是は餘程昔の話で、其の以來東京で實業界に關係致して居りますに付いて、平生經營致して居ります所の人造肥料、是等も尙ほ米と緣故が近いもので、米を耕作するに付いて缺くべからざるものと申して宜い。併しさう云ふことは總て間接である。又更に己の本領から申すと、米其の物は農業に依つて製造され、諸君の御手に依つて賣買されますが、其の米が土地を變へて運搬さるゝと云ふには、金融の便利に依らなければならぬ。即ち銀行が此の米に對して荷爲替等の取引を致しますのも、大に米に便利を與へると申しても宜い。私の銀行は一番古く成立ちましたので、近頃は色々商品の數も多くなりましたけれども、其の昔の銀行は先づ農產に多く依らなければならぬ。此の農產の重なるものは米と生絲である。今も尙ほ私の管理して居る第一銀行は、米に對しての取引生絲に對しての取引を本業中の重なるものと致して居ります。斯樣に申すと、肥料の廣告やら銀行事業の廣告でも申上げるやうに聞えて、斯かる御席を利用するやうに相成つては濟みませぬが、强ひて關係を茲に論じて參りますれば其の邊の事になります。假令諸君を益することは何等申上げ得られんでも、第一に日本人として米に依つて生活する者である。又今申す如く幼年の頃からし

て總て關係を有つて居りました。それて是非參上して諸君に御目に懸つて見ようと思つて出て來た次第てございます。

御集りの皆樣は、多くは此の米の賣買運搬等に直接御經營をなさる諸君と考へます。各地より御參會になつて、必ず此の米に對し或は農業上に付いて、種々なる御考案もあらつしやることてございませう。商賣に熟練せぬ私は、米に對して斯かる取引をしたとか云ふことの愚見は茲に提出しませぬが、私は一つ米と云ふものに對して、茲に腹藏なく愚見を申上げますると、他の事物の進歩に對して米其の物の擴張も少し、商賣の便利の進みも餘り著しくないと申上げる外無いと考へます。斯う申すと、折角尊來の諸君に對して苦情もしくは攻擊の言葉に聞えて、其の實況も知らぬ私は甚だ過言に當るかも知れませぬ。さりながら、維新以來四十年間に事物の發達と云ふものは、或る種類に付いては何十層倍も擴張致したことが頻々數へられます。然るに米と云ふものに對しては、全國の生產高を調べて見ましても……私は米と云ふものゝ統計は記憶しませぬ。茲に農商務省の御役人が御出てになつて居らるゝが、或る年は大に進んて來たが、又或る年は大に減じたことがある。十年前二十年前に比較すれば多少增して居りますが、さう何倍にも進んだとは申上げられませぬ。又其の耕作法も、商賣の手續等に至つても、さまて目を驚かす程の改良擴張の見られないのは、他の事物に比較して之に從事する諸君の御丹精が足らぬのか、知識がそこまて進まぬのかと云ふ疑問を起さねばならぬと思ふ。併し再び之を考へて見ますると、私が前に申述べた希望は頗る考の違つたことて、凡て物事は既に進んて來れば更にさう大に進むものてない。之を或る技藝に譬へて見ませう。例へば碁を打ち將棋を差す。四つ目殺しを覺えたゞけの碁てあれば、稽古がずん〳〵進んて行つて、聖目置かねばならぬ相手に、僅かの間に三目か四目と云ふぐらゐに上達することは容易てある。併し最早段入りてもすると云ふ場合になると、半目進むにも數年掛ると云ふことになつて來る。將棋の技藝に於ても尙ほ然り。其の他の事物も總て左樣てある。して見れば既に進歩したものに對しては、其の上の進歩は乏しいものてある。まだ進歩の遲々たるものが、何倍と云ふことに進んて行くのが物の常てある。物の條理てある。さうなると私が今申す米も、維新後四十年間の進みの左迄著しくないのは、蓋し米の事

何が故に遲々として進まざる

業が甚だ進歩して居つたと云ふことを證明するに足る。斯う申すやうに相成らうと思ひます。故に是は決して何も諸君の御丹精が足らないのでもなく、また其の局に當る御方の奬勵が乏しいのでもない。既に日本の米事業は、或は耕作に、或は收穫に、或は運送に、或は賣買に、總て大に進歩して其の宜しきを得て居るものである。故に今日に於て、斯の如く先に進んで行く世の中に、それと同じやうに進む譯にはいかぬ。即ち名人の碁は半石進むに大層暇が取れると云ふ時機であると解釋し得らるゝと思ふのである。故に此の進みの乏しいのは、今の如く解釋しましたならば寧ろ喜ぶべくとも憂ふべきでない。併し此の場合生産上若くは運搬上に若くは賣買上に、改良すべき餘地が無いかと云ふ論に至つたならば、是は大いにありと申さなければならぬと私は考へるのでございます。既に諸君に於ても此の事は充分に御注意になつて力を盡されて居られませうが、例へば此の農事の耕地整理、是は單に米ばかりでございませぬが、最も米の出來る田に關係が一番多いやうに私は考へて居ります。又種子を取替へ、其の種子を選ぶと申すやうなことも、業に私が申すのは素人説でございますけれども、充分に其の筋にても之を改良し之を奬勵して居りますが、蓋しまだ其の妙處に達したとは申されないのであります。又最も注意すべきものは、此の耕作に與へる肥料でございます。肥料の選擇は必ずや其の費す價より、得る所の利益は甚だ大と云ふことは、決して疑ふべきことでない。故に諸君は賣買に從事する方々と考へるが、生産の豐かなることと賣買の便利なることゝは、相俟つて進むべきものとするならば、各地方地方に於て相成るべく生産を豐かならしむることを、御努めが願はしう考へるのでございます。

運搬方法を完全にせよ

續いて私は更に此の運搬賣買に付いて、最も經驗の無い愚説を茲に申上げようならば、どうも日本の耕作物に對する運搬の聯絡が甚だ乏しいやうに思ふのでございます。蓋し其の地方の産出物が一つに纏つて甚だ巨大でない。切れ〳〵になつて居ると云ふ風が然らしむるでもありませう。悉くこれを大なる運送場へ持通ぶには、甚しきは人の力、一歩進んで馬の背或は荷車と云ふ位しか依れない。運送場まで鐵道を利用することは亞米利加に於ては多く見られますが、日本では何處へ行つても見ることが出來ない。もと此の運送をして果して私の希望する

如くに行くか行かぬか分りませぬけれども、鐵道を農業に利用することが出來たならば、必らず運送費を省いて、詰り其の生産費を廉くするのである。――斯う申上げて宜いと考へるのでございます。御集りの諸君の各地には、皆此の事が行はれ居るとは私は申し上げられませぬが、或る地方に依つては今數哩の鐵道を延したならば、馬が運び車が運び人が運ぶよりも大に廉くすることが、必ず出來ると、私は信じて疑はないのでございます。若し此の意念が強かつたならば、既に業に農業鐵道と云ふ形のものが日本の各所に現はれなければならぬのに、まだ現はれませぬのは、或は利害關係からして望んで行はれないことがあつたかも知れない。幸に今日は其の鐵道は國家の所有となつた。國家が此の鐵道を所有すると云ふのは、成るべくたけ生産力を進めたいのが趣意であると云ふことは、鐵道國有に付いての論旨に屬、拜聽したのである。果して然らば、今米産の多い地方には僅の費用を以て支線が出來るに違ひない。此の支線を以て米を運搬する方法を、是非是から先に各所に講ずるやうに致したいと私は思ふのであります。

米は必ず俵裝を要するや

更に一歩を進めて尙ほ希望を申し上げようならば、日本米の運搬は俵裝せねば運ぶことが出來ない。是は俵裝した方が便利であるかも知れませぬが、併し海外の有樣を見ますると、穀物を俵に入れると云ふことは或る場合に於ける運搬法であつて、重なる運送は多くはばら運送に依つて居るやうに思はれます。是等はどうしても俵裝せねば運送が出來ぬ、俵裝した方が運送に利益であるか、若しくはばら運送が遂に行はれる時代が生ずるか。今斯う申し上げても其の樣なことは出來るものかと云ふ御攻撃がありませう。併し亞米利加でも昔は種々な農産物を各地に運ぶ時は、あのやうなばら方法はやらぬに違ひない。試に他の例で論じて見ませう。日本に來る油ですが、是は大抵鑵に入れて函に入れて商つて居つたが、近頃では米で言ふとばらと云ふ工合に大きなタンクに入れて、馬で引張つて、一升幾らとか二升幾らとか言つて商つて居る。鑵に入れ函に入れるよりは、必ずあの方が大いに其の勞費を減ずる。目的は其の油を使ふに歸する。米は炊いて食ふに歸する。炊いて食ふに必要な方法だけに止まれば宜いのである。肥後米の俵は立派で見榮が宜いが、果して肥後俵を見れば米を食つた氣がしませうか。是は米が良く奇麗であつたならば、假令ばらで持つて來ても家で炊いて食つてうまけ

れば宜い。俵から釜に入れる譯にいかぬのである。故に私は此の運送に於ても、遂には今申上げたるばら運送と云ふことは一の攻究問題に上るものではないかと、斯う考へるのでございます。

米商賣の方法に就いて

續いて此の商賣の方法でございますが、私は最も此の事に付いては經驗が乏しい。又考も無いことでございます。併しこれも能く攻究熟慮して見ましたならば、今日は最う既に米に對しての御取扱は完備致したものであるとは申し得られぬかも知れぬのでございます。地方地方の模樣に依つて當業者の御申合せで、今少し其の商賣の信念を厚かしらむる方法、又其の商賣の人手を減ずる手段等は御考へなさつたら、私は必ずあらうと思ふのでございます。果して前の通り耕作上に注意し、又肥料に心を用ひ、此の運送に若くは俵裝に、愚說が其の宜しきを得ぬか知れませぬが、或は他の方法などに加へて、而して此の賣買方法に付いて今一層の御手段がそこへ生ずるやうに相成つたならば、詰り其の生產の費用も廉く出來ることになる。費用が廉いことになつたならば、獨り日本の人間が一年に五十萬殖えるから、其の殖える人が米を食へると云ふばかりを目的にせずに、若し此の割合が廉く出來ることになつたならば、海外に向つて善良なる輸出商品たることを得るでありませう。是迄も日本米の外國輸出は、或る場合には相當にあつたけれども價の關係からさまで擴張をせぬと云ふことが商賣上の事實と私は承つて居る。いかさまさうであらうと思ひます。單に食料にのみするでなく、米の需要の廣いことは宇宙甚だ廣大なものである。故に今陳述する如く、若し各種の改良進歩が行はれて行きましたならば、商品となつた割合が廉くなるに違ひない。商品となつた割合が廉くなつたならば、必ず大いに海外に輸出することになるは期して待つべしではありませぬか。若し果してさうなつたならば、それこそ四千萬石と云ふものが四千五百萬石になるとか、或は五千萬石なるとか、段々上つて行つて二十年前には三千萬石であつたが、二十年後には四千五百萬石になつて、三分の一增したと云ふ數字に上ることは甚だ難い事でないと申上げ得るやうにならうと考へます。

結論

斯く論じ來ると、既に進んで居ることであるから、進歩が鈍いと云ふけれども、既に進歩したものに對して更に丹精が加つたならば、又更に進歩する事が出來るの

てあります。如何に名人上手でも、怠つては決して進むことが出來ない。例へば五段の名人碁打でも、一目半目は勉强からして上ると申すではございませぬか。日本の米に對する事業も此の道理のものと、斯う考へるのでございます。單に此の處に御集りの皆樣に對して實驗に乏しい私の愚說。其の中運送上若くは俵裝上の事などは、少しく痴人の夢に語るやうな嫌がありませうが、私は數年前亞米利加に旅行をして見ました。亞米利加の耕地の廣き、亞米利加の農產物の盛なるを驚くよりは、其の農產物の運送に、俵裝に、甚だ力が入れてある方法を見た驚きの方が强かつたのでございます。他人の寶を數へるやうでありますが、幸に此の米に對して、而も日本の大要なる農產物に對して、玆に全國當業者の御集りに經驗の乏しい說でございますが、陳述することは少しく御參考の足しになりはせまいかと思つて愚見を申上げた次第でございます。甚だ淸聽を煩はして價値の無い事を陳述致して恥入つた次第でございます。（明治四十年四月十日、全國米業者大會に於て）

七〇　利を見て弊を恐るゝも弊を見て利を失ふ勿れ

閣下諸君、今夕の聯合手形交換所の會に、唯今大藏大臣から懇切に銀行營業上に就いて御訓示を下ざいましたが、其の初めは大分御讃め下されたので大に自惚れかゝつた所が、てつぺん飛車に御小言が出まして、何やら祝の席に御招きして、小學校生徒が、教師から訓誡を與へられるやうな感を起しましたのは、實に有難い仕合と申上げねばならぬのでございます。また松方伯爵からは極く奬勵的の御祝辭を頂戴し、松尾總裁よりは吾々共に十分に善惡を鑑別せいといふことの御注意を戴いた。總て吾々の現在若くは將來に厚い御訓示と一同辱う感謝致しまする。

二種の見解と積極論

手形取扱のみならず、所謂戰後の經濟なるものを丁度今の御訓示に就いて想ひ起しますると、總て物が二つに別れて居つて、或る場合には自らも疑を起すやうなことが生じますのです。例へば戰後の經營として十數億の外債も持つて居る。之を整理して金貨の內へ殘る樣にするのは甚だ困難である。想ふに未來の國の富を圖るには、唯普通日常の事務を整頓するばかりではいかぬ。第一に輸入を省

き輸出を進める爲に各種の事業を擴張せねばならぬ。事業を擴張するには、總てのものが皆必す利益あるといふ仕事のみを遣るといふ譯にはいかぬ。是までの例を以て論じても、其の間に種々の苦辛があるが、其の困難に打勝つて始めて佳境に達するといふのが事業を處するの常である。故に相當の人氣に向へば相當の事業を起すといふことは、此の戰後に對する國民の最も採らねばならぬ方針である。事業を進める方の側から云へば、なぜ默つておつとして居るか。又一方政治家などから云ふと、支那に對し朝鮮に對し、血を流し金を使ひ是だけの權利を伸張したが、日本の商賣人は手を出すことも出來ぬ。是ぢやあ困るぢやないか。土地を開いて遣つても種を播くことを知らぬと斯う言はれる。多くは皆奬勵的の御話である。只今松方伯爵が、大に進んだやうてはあるけれども、歐米に比べて見ると云ふと甚だ鈍いぢやないか。未だ世界的に手形交換が行はれて居らぬぢやないか。銀行者連中何をして居る。斯う言はれると、どし〳〵手形を殖したいやうな心持がする。丁度今日の事業を起したいといふ有樣も同じ事である。

又反對側から論ずると、事業熱株熱、或は權利株の賣買、泡沫會社が續々出來る。

從つて銀行者がそれに引込まれる。其の結果仕拂停止臨時休業といふやうなことが無いとも云へない。縱しさういふことが無いにもせよ、力を計らずに事業を起すは、却つて輸出入の不權衡を來す恐がある。事業を起して國利を增したいと思ふのに、焉ぞ知らん我が資本を海外に輸出せしむるやうな働きに終ることがある。故に努めて先づ內を整理して、成るべくたけ金貨の他へ出ぬやうにするが宜からう。然るを左樣な放縱の事をするは、誠に國家の經濟を誤るものであるといふ反對も大いにあるのです。此の見解から見ると、事業を起す者は殆ど國家の經營、社會の罪人のやうにも聞えます。丁度今大藏大臣は其の弊を論じられたことと思ひます。過日も大隈伯がさう言はれたてです。手形の進みは實力のみの進みと云へば誠に結構だけれども、或る場合に投機が手傳うて金高の合計が上つて行つたと云へば、恰も眞實の經濟てはなくて、脂肪が殖えたといふ樣なもので、其の脂肪の壓迫の爲に、却て完全なる身體の妨げをすることがないとは言はれぬといふ意味の御說がございましたが、此の進むといふが、其の弊が生ずる。退くといふが意氣地がないと言はれる。銀行者たるものも亦難い哉てす。銀行者たるものが

難いと同時に、事業者たるものも亦難い哉といふ觀念は皆起るてあらうと私は思ふ。

兩極は遂に一致す

併し斯く論ずると、松方伯爵の今晩の御祝辭と大藏大臣の吾々への御訓戒は、まるで、相背馳する如く解釋するやうになりまするが、私は決してさうてない。即ち一致して居るものと解釋する。前に申す如く樂觀を以て事業を起すといふも、唯單に樂觀のみに留まつて、甚だしきは權利株を喜ぶといふ論者であつたならば、それこそ誠に間違てありませうが、國の權利を伸張し國の富を圖るといふ方から、必要の事實に向つて融通を與へよといふ論は、決して泡沫會社を起せ、世間の浮氣に乘じて會社を經營せいといふ趣意とは違ふのてある。善い事業を勸め、良い手形の發達を圖れといことになれば、松方伯の御祝辭の趣旨に相成る。但し事物は總て利あるものには其の弊が伴ふ。善事ばかり單に行はれて行くことは出來ぬから、其の利に伴ふ弊を矯め、泡沫會社に注意して、權利株の賣買を蛇蝎の如く恐れよ。手形問題としても、銀行の經營としても、即ち松方伯の御祝辭も大藏大臣の御言葉も、一方面から云ふのと他方面から云ふのと差はありますが、鏡を合せて見ると矢張一致して居るものと云うて宜からうと思ふ。是に於て私は、松方伯の御祝辭、大藏大臣の御訓戒、松尾總裁の御注意は、御言葉の立て方は三方に別れて居りますが、今日の事業に對する權利伸張、國益增進といふ完全な希望を以て進める論者と、事業の困難に注意する論者との說が、詰り一致して同一の趣旨に歸著しまするならば、其の立論は大に違うて終には其の軌を一にすると解釋致してよからうと思ひます。故に吾々は常に其の利を見て其の弊を恐れ、其の弊に依つて其の利を沒せぬ樣に致したいと考へるのてございます。依つて諸君の御訓戒及び御注意の御答辭を申上げます。（明治四十年四月十二日、第五回交換所聯合懇親會に於て）

七一　經濟を論じ併せて甲州人士に一言す

會員諸君、私は御當地に參りまして斯くも盛大なる諸君の御招きに預りましたのは、誠に有りがたく感謝する所てあります。私は先達大橋家と若尾家の婚約の媒酌を致しまして、今度實は其の新夫婦の里開きに付き參りまして、始めて實地に甲府を見ました次第てあります。當地に著いたのは昨日てしたが、併し私は此の

山梨縣を知ることは久しいのであります。又山梨縣の御方とは久しき以前から交際したのであります。

甲州と余との關繫

私は幼年の頃歴史を讀みまして、武田信玄と云ふ大人物を非常に敬慕して居つたのであります。それに私の叔父が武州で出來まする藍玉を、信州から當地方に掛けて賣りに歩きましたのですから、少年の頃から此の甲州の風俗、人情、物産等有らゆる事を聞きまして、早くから當地の事を知りましたのです。其の頃叔父の話で聞きましたのは、甲州と云ふ處は武田の遺風があつて、總て豪氣で沈著な人々で充されて居ると云ふことでありまして、今尚ほ記憶に存してるのです。之は前に申す如く少年の頃聞いた實話でありますが、私は丁度明治十年に銀行業を始めましてから、只今此の席に居らるゝ栗原(信近)君や渡邊(信)君、又今夕は見えないが佐竹(作太郎)君、東京に居らるゝ小野(金六)君など多數の方々に御目に懸り、それから始終甲州の御方とは接して居るのでありますが、不幸にして只今迄一度も此の地に參る機會を得なかつたのですが、今日始めて參つたのみならず、斯かる大會に御招きを得ましたのは、誠に感謝の至りに堪へないのであります。

經濟上に就いて一言せん

所が私が實業界に身を委ねて居ります爲、何か全般の經濟界の觀察に就いて話せとの、只今當地の助役さんの御言葉でありますが、別に是と云ふ程の經驗もありませず且つ學識も無いのでありますから、此等の御話とありては甚だ出來兼ねるのでありますが、前申しました通り種々の方面から知つて居る甲州ですし、又斯かる大會に列する光榮を得ましたのに對し、まあ詰らぬ話ですけれども少しく經濟上の愚見を述ぶることゝ致しませう。

私が經濟界に就いて見まするのに、日本の商工業は今日こゝに四十年の間年々歳々進歩して來たのです。之は申す迄も無く御列席の方々の能く認識するところであります。從つて詳しく御話する必要は無い。唯私は久しき以前暫時官途に在つたのでありますが、其の當時に於きまして、國力の發展は如何しても實業の發達に俟たなければならない。政治と云ひ、外交と云ひ、軍事と云ひ、總て其の進歩し發展するには、先づ實業の發達と云ふことを基礎としなければならないとの考を起したのであります。それから一身を實業界に委ねましたが、まだ〳〵今日になりましても理想の十分の一だも達し得ないのは、誠に面目無い次第であります。私

が實業界の爲に盡しましたも、誠に力微に才拙にして、功績が少しも揚らないのてありますが、世の中は私の希望に添うて、實業は段々と發展し進歩したのてあります。獨り氣運の此に向ひしのみならず、物質的の進歩も非常なものてあります。私一人の成功として見るべきものは少しもないのてすが、私の希望は斯樣にして愈〻其の緒に就いたのてあります。四十年間の經濟界は申す迄もなく種々の變遷をなして來たのてありますが、多くは事變に因つて進歩して來たのてあります。例へば明治十年西南戰役の餘弊を受けた我が國は、非常に財界の窮乏を來しましたのて、翌十一年國立銀行を創立しまして、銀行紙幣を多く發行しましたものてすから、これが爲に却て經濟界に害毒を流しました。併し十一年十二年に掛けて商工業の發達致しましたことは、玆に御列席の少しく御老人の方の皆知つて居らる事實てあります。要するに此の現象は十年の戰役後に於ける變化てあります。次に日清戰役後の經濟界實業界は如何てある。將又日露戰役後の狀態は如何てある。其の廿七八年戰役後の有樣は、十年のよりも更に增大して進歩發展したのてあります。併しながら、現在は實にまだ一定の方針の下に總てが向つて居ないのみならず、事業が不秩序て更に整理せられたものがありませんから、今や御互が最も心を勞し腦を使つて居る所なのてある。

經濟界は戰爭に伴うて發達を遂げたるものなりや

試に十年前と今日とを比較して見ますれば、事物の進歩は非常な程度に達して居ります。斯く申しますれば、戰後の經濟界は戰爭の御蔭て自然に發達するかの樣てありまして、私自身も戰爭を好むかの樣てありますけれども、私は決して戰爭を好みません。大の嫌てあります。總ての事物は戰爭が無くとも時機に依つて幾らも發達するものてある。國家の發展も機會の宜しきに適すれば、丁度吾々人間が或る時機に發達するのと同一てあります。如何に戰爭があつたとて、其の經營宜しきを得なければ、到底經濟界の發展は出來ないのてあります。所が此の經營と云ふ事が中々經濟家の心を勞する所てありまして、吾々は例へば二十五や四十二の厄年に遇ひ、其の時代時代に處して宜しきを失はぬ樣に、身體の發達に注意せねばならぬと同樣てあると常に考へて居るのてす。

悲觀樂觀其の歸する所を知らず

幸にして明治十年、二十七八年の戰後の經濟的經營は先づ宜しきを得ましたから、今日の如き事物の進歩を見ましたが、今日日露戰後の經營は如何にすれば發展

するか。これが實に愼重の考究を要する問題であります。此の事に就いては新聞などにも私の意見が出て居りまして、古臭い言でありますが、今日の經濟界の處置に就いては、先輩諸士や學者先生は、或は積極主義を唱へ、或は消極主義を主張し、或は悲觀說をなしまた樂觀說を唱ふると云ふ有樣でありまして、歸一する所を見ませぬが、要するに皆一方面のみに止まつて觀察した斷言でありまして、私は只今此の問題に對し是ぞと斷言するのを難しとするのであります。斯く申せば何だか定說無き樣ですが、今日の場合積極主義に限るとか消極主義でなければならぬと云ふのは、是は極めて氣短の斷言でありまして、決して時宜に適したものとは思はれぬのであります。少しく財界を觀察しまするに、二十七八年日淸戰役後非常の膨脹として目せられし我が國費は一億であつたのに、近々十年後の今日では之が六億に增大し、更に戰役の關係より十餘億の國債を起し、今では通計三十億の國債を發行して居ります。そして卅九年度の我が外國貿易は辛うじて輸出が僅に多きを得たが、併し此の成績が何時迄も繼續するや否や頗る疑問である。併し每年外債の利子だけでも一億づゝも支拂ひつゝある狀態から考へて見ますれば、中

中未來が心配でなりません。又斯かる狀態の結果は兌換制度をも傷けはすまいかと、彼此今日の財界には心配の事が多いのです。

斯樣なる財界の情勢から觀察しますれば、或は事業の遲延等は最も時宜に適つた政策ではないかとも思はれますが、又翻つて其の反對の方向から觀察しますれば、日本の進步は進取的政策に依つて三十年も四十年も經過して來ましたのですから、先輩の經濟家の如きも外債や其の利子は兎も角、冒險の事ながら仕事は進取的にすべしと云つて居ります。私も外に對しては一年に一つの年を取るとしても、內に於ては働き上一日に二三日分の仕事をして經過すると云ふやうな心懸でやつたつたならば、宜しきを得ることゝ考へます。一例を擧げて申しますれば、京濱鐵道の如き之を敷設する當時にありましては、決して國家に餘力があつてやつた譯ではないのですが、一般に進取的の氣象が盛でありましたから、交通機關の進步を圖る爲に、一千萬圓と云ふ僅かばかりの金に大騷ぎはしたものゝ、遂に成功を見たやうな次第であります。斯く觀察し來りて種々考へて見まするに、政府の金箱には少しの餘裕もない。又官民の事業は何れも整然たる順序と云ふものが著

いて居ない。之から後は如何なるか。實業家に取りては又之が大に考へものとなつて居るのであります。

経済界に對する余が斷案

そして日本の今日は、境遇上自國の經營のみに滿足することが出來ませぬ。或は朝鮮を保護し或は滿洲を經營開發すると云ふことは當然の行動であると思ひます。朝鮮に對する設備經營と云ふことも、成るべく內を整へた上でなすべしと云ふ尙早論者もありますが、併し斯かる事は到底世の中が許しません。歐米列國は決して日本の事物の進歩するまで足を止めてくれないと考へねばなりません。內では樂觀的で急がない中に、外では直ちに何によらず著手すると云ふ樣な有樣であります。でありますから、今日の場合は事物が少し位不秩序であつたとしても、決して其の整頓をなした上で如何する斯うすると云ふ樣な時間はない樣な譯であります。例へば京釜鐵道、京義鐵道、若くは京仁鐵道の如き、また其の他の商工業の如きものも、滿足と云ふ上から申しますれば、早計の嫌が固よりありましたのです。獨り外に對するのみならず、內地の事業にも多少の早計はあつたに違はありませんが、併し國家の進歩は之に因つて出來たのであります。

今澁澤一個人の經濟上の考を披瀝しますれば、詰り斯うであります。能く事物を檢め、此なら確かだ。此は不安だ。未來の爲にせぬが宜いと云ふやうな鑑別をつけて、充分やれと云ふのであります。大に奇利を企てる事業の著手を排斥するのであります。滿韓の諸事業も此の立脚地からしてどし〳〵進めろと云ふのであります。內地の事業も固より斯樣にして進めるがよい。併し諸君が御承知の通り、事物に利弊相伴ふことは迚も免れぬ次第でありまして、宜いと信じてなしても弊害が起り、善いと信じてなしても惡の結果を出現すると云ふことは、人世の往々觀る普通の現象であります。左樣でありますから、私は弊害の爲に功績を沒却するは、人々の多數の有する弱點と思ひます。例へば馬が人を傷けたと云ふのて其の馬を撲り飛ばすと云ふが如きは、愚人の間に演ぜらるゝ普通の現象でありますが、これこそ弊を見て功を沒却するものであります。また會社組織の現狀から申しますと、權利賣買の大弊があるからと云うて、直ちに株式會社を嫌ふと云ふのは、これも前例同樣の愚の話で、至つて宜しくないことであります。兎角一方に誤があれば從つて弊害も强まるが、併しまた此の反動と云ふのも盛に起るのであり

ますから、今日の場合も強ち悲觀しなくとも宜いかと思ふ。無論心配はどこ迄もし、相當の事はどし〳〵やるのは人間の當に採るべき行爲たることは言を待たないのであります。でありますから、今日の財界又は企業界のそれも昔日の反動であつて、當時に於て深く經濟界の變動に注意をなしたなら宜かつたらうと思ひますが、其の注意の足らざりしと思ひし今日は、早や恐怖は恐怖を呼起すと云ふ樣な有樣に立ち至りました。事業も進んで來ました。相場も大分區々の變動を起した樣であります。だが確實の事業は株式の爲に何等の變化も來さないのであります。私の考は先づ此の邊であります。經濟上の觀察と申しまするのも、先づ以上で御推察を願ひたいのであります。

甲州人士に一言を呈す

就ては當地の有樣に對して更に一言したいのであります。丁度昨夜若尾一家の宴會の席上で、山梨日々新聞社長野口君の有益な演說を拜聽しました。其の一節にもありました通り、世の中は之から段々平和の戰爭のみになり、商工業の戰爭と云ふものは益〻激烈を加ふるのであるとは私も同感でありました。斯くして平和の戰爭は實に商工業の進步發達をなすのであります。所で往時を追想し古英雄の戰國時代に處した狀況を御話する事は、頗る興味のあることに思ひます。前に私は甲州と申す國は少年の頃から腦裡に武田と云ふ英雄が、あつたことを印象してあつたと申しましたが、實に此の甲州と云ふ國は戰國時代の政治家と見るべき武田なる英雄によりて開拓せられたのであります。が今日は又此の武田氏時代の人々にも劣らぬ多數の人が出身して居ります。武田氏の性格は軍略家としては、當時海內有數を以て目される程でありましたが、不幸にして其の當時の境遇の爲か鎖國的であつた。僅かに甲州の天地に蹋踏して、全國に發展の策を取らなかつたのであります。私は商人的に申しますれば、此の武田の性格はあまり好かないのであります。でありますが、甲州の地には平和の從軍者が明治の初年から中原に鹿を爭うて居ります。殊に私は山梨縣下の人の行動即ち爭ひ方は、一致して團結心が强いと思ひます。此の力は確かに武田の偉なる性格を享有して居るものと思ひます。果して然らば、丁度武田も內にのみ潛まず、軍略上外に發展せんとしたのであらうけれども、當時の境遇が之を許されなかつたのであります。

して見ますれば只今甲州の諸君には、武田氏時代の人々にも勝るのが澤山あり

と云ふことが出來ます。殊に今日私は御嶽に參りまして、其の明媚なる山水、優秀なる風景を觀まして、また當地方の總ての人の智識の狀態も、斯かる秀景に習うて進歩したことゝ思ふので、坐ろに羨望する次第であります。斯樣に私は總ての點に於て此の甲州の事物に敬服し推稱するのでありますが、唯一つ失禮の言草ですが敬服しないものがあります。それは初めて參つて見たのでありますが、此の地を往復する汽車が、これ程の好都府を控へながら上等室の設の無いことであります。鐵道院の注意の足りないのであるが、また當地方にそれだけの需要が無いとでもいふのか、これは考へものであります、何れにしても私が再び當地に參りまして、上等室の設備がある樣にして欲しいのです。此の點から申しますと、甲府もより以上の大都府たらしむべく尙ほ充分奮勵する幾多の餘地があると思ひます。誠に前後不首尾の觀察を長々述べ立てまして失禮致しました。終りに臨んで私は再び滿腔の謝意を表する次第であります。

（明治四十年四月二十五日、甲府官民有志歡迎會の席上に於て爲したる演說にして、山梨日々新聞所載に係る）

七二　實業界時事所感

自己が世話して育てた人に接する感がある

臨場の諸君、今夕は東京高等商業學校の出身諸君即ち同窓會の懇親會に當りまして、私も從來の關係から此處に御招きを頂いて御目に懸ることの光榮を得ました次第でございます。ちよつと打見ても百人近い御方の御集りがある位に、商業に對して十分の教育を御受けなすつた方々が會合し得る世の中になつたのは、實に此の上も無い嬉しい次第でございます。私は五年以前に海外旅行をしまして、始めて己が高等商業學校に永年御世話をしたに付いて、其の御世話が斯の如く一身に光榮を以て酬はれ來るものかと喜んだことがございます。それは紐育に於て、若くは倫敦に於て、又は里昂に於て、其の歸途香港に於て、殆ど前後五回程同窓會員の內でいらつしやいませう、高等商業學校出身諸君の御集りて、旅情を慰めると云ふ名の下に鄭重なる御饗應を受けて、愉快に且つ目下の事情を御話して、殆ど更の闌くるを忘れたことがございます。併し海外でございますから、今夕の如く多人數の御方と會することは出來ませなんだ。二十名乃至二十四五名。併し海外

に於て同窓の御方に、同趣味の人に、失禮ながら私から申上げると何やら自分が御世話して育てた御人の如き感情を持ちますと眞に愉快で、今でも尙ほ其の愉快を念頭に能く覺えて居るので御座います。今夕はそれとは數倍の御人が加つて、殊に東京に在り各地に在り、多くは此の御集りの諸君は實業界の事務に鞅掌されて居る諸君と思ひますと、斯の如くに一寸集つても百人の御人が高等商業教育を受けた御方にあるかと、……一體同窓會の名簿を見てもあることは分つて居りますが、それを面り見るのは唯數字を聞くよりは感念が大層强くなりますので、實に喜ばしく感じますから、先づ第一其の喜から御禮を申上げます。

斯く御集りの御席で、何か自分も今日時事問題に就いて愚說でも申上げて、多少御參考に、一歩進んで御利益になる事が申上げたいと思ひますけれども、あまり新說はございませぬし、又古い說は諸君の御耳にも御胸にも大低十分御貯へになつて居ることゝ思ひますから、餘り言うても益無いやうに考へます。さりながら商業學校の御方が多數と考へますと、此の未來の國本に就いて一言陳情して諸君の御參考に供するのは、或は無用の辯か知りませぬが、縱令無用の辯たりとも幾らか年取つた私の責務でなからうかと考へますで、今日陳腐な愚說を一言申述べて見ようと思ふのでございます。

經濟界の發達は災危の後に來る

日本の今日は、斯く諸君が集つても高等商業教育を受けた御方々が一堂に充ち溢れる程集はるゝと同樣に、商工業界の三十年若くは四十年以前を顧みますと、如何にも發達したと申して宜しい。而して此の發達には追々時期がありまして、四十年の間に每年同じ割合に伸びて來たかと申しますと決してさうでないので、丁度人の體格が若い時分には大に伸びるが、壯年に及んでは其の度を異にする樣なもので、總て此の殊に意識あるものゝ發動して參ると云ふことは、一年三百六十五日、其の日一日に成長することが極つて居るのでないと同樣に、我が經濟界も或る場合には大に伸び或る場合には少し躊躇して居る。又退歩する事が屹度ないとは限らぬだらうと思ふ。併し明治四十年の今日までに我が經濟界は決して退歩はせぬ。進んで居る。且つ其の進みが最もどう云ふ時期に能く發達したかと云ふと、國の困難な後に大に進んだと云ふことは歷々證據立てられるやうでございます。試に明治十年頃から以後を顧みて見ましても、十年以後に大に伸びて來た

のは十年戰爭が餘程與つて力があると云つて宜しい。又二十年に大に經濟界が發達したやうに記憶しますが、是は丁度十四年からして銀紙の差を是非無からしめる、即ち紙幣を兌換せしめるやうにしたいと云ふので、政府が鋭意之に努めた。一時は十五六七、此の三四年間の頃は大變困難したことがございます。併し其の事は幸ひ功を奏して、二十年に紙幣が兌換し得ると同時に大に事物が發達したやうに思ひます。紡績事業の發逢は最も二十一年が盛だつたと思ひます。但し其の代り發達の進み過ぎた結果二十三年に大分不景氣、殊に大阪などでは殆ど金融逼迫、就中紡績業者などは業務の繼續覺束ないと云ふ有樣を惹起しました。今、日本銀行にある擔保品、見返り品と云ふものゝ制度が立ちましたのは、蓋し二十三年に行つた方法であつたと覺えて居ります。これは戰爭ではなかつたけれども矢張財政に對する一の進歩、即ち前の苦みが事業の進歩を與へたと云ふ事に思はれます。それから後に大いに此の經濟界の發達を見たのは二十七八年戰役の以後でございます。但し其の當時例へば二十九年とか三十年とか云ふ年に、直樣其の有樣が見えは致しませなんだ。或る場合には甚だ膨脹に過ぎて、等しく二十三年の經濟界の悲境と同じやうな有樣を三十一二年には現はしましたけれども、其の實今の二十九年三十年頃の各種の發達は、追々に歳月を經て往つて其の功を奏したものと見えて、遂に三十六年の末若くは三十七年に至りまして、すは、更に重大な困難に遭遇すると云ふ場合に至つて、始めて二十七年以後に日本の富の進んだことを我人共に知つたやうな次第で、恰も己の力が平日分らなかつたが、火事があつて俵を擔いで見ると、始めて己は二千貫目の物は樂に持ち上げられるものだと悟つた位の譯である。

事業に伴ふ多少の危險は免れぬ

さて此の大戰役も都合好く終結後の今日であるからして、此の場合が御互最も重要な時期と云ふことは、今私が申し上げるまでもなく、誰も彼も共に戰後の經營大切だと論ずるは誠にさもあらん、又さうなければならぬと思ふのでございますが、さて此の間に甚だ喜ぶと共に憂ふべき事がある。私共は前に述べ來つた理由からして、即ち戰後の經營としては相當の事業には十分力を入れる樣にせねばいかぬ。今日尙ほ其の通りに考へて居ります。況や一方には滿洲に對し朝鮮に對し、……滿韓だからと云つて目的無い事業に、唯砂上に樓閣を築く樣な經營は好み

ませぬけれども、しかし所謂旅順の如き砲烟彈雨を凌いで殆ど國を賭して今日あるを致した場所に、吾々經濟界の者が唯懸念唯心配のみ考へて居りましたならば、何仕事も決して安心とのみ思ふ事はないのです。多少危險は凌いで其の宜しきを制して往く外無い。現に今日まで內地に爲した事業と雖も、成つた曉には成程あいやつて宜かつたと云ひますけれども、成らぬ前から云うたら或は無謀である とか或は輕率であるとか云ふ謗りは何事にも大抵聞いた事である。一二の例を言はうならば、例へば內地に起つた鐵道でございます。日本鐵道の如き大會社が、明治十四年頃は私は迚もあれが成立つ事を六ヶ敷からうと思つた。西本願寺の門主は其の株を持つて居て賣るに苦しんだ。私は頼まれて大變骨を折つて賣却の世話をした事すらある。十四五年の日本鐵道の株式と云ふものは其の位であつたから、彼の會社が後に百圓以上の株式にならうと云ふ事は誰も想像した人は無い。鐵道と云ふものは世の中に必要なもの。日本の未來がまさかに鐵道の一本位維持する事が出來ぬ事はなからうと、今日なら誰も想像するが、明治十四年はさう考へなかつたのは、其の株式の買手が無かつたのが確かな證據である。もう一つ近い例は京釜鐵道京仁鐵道も、御辭義するやうにして方々頼んだが、株式を持つて呉れる者が無かつた。若し力を入れて彼を架設すること無かりせば、三十七年の戰爭は如何であつたか。果して鐵道の爲に戰爭が勝つたと云はぬか知りませぬが、併し若し彼の鐵道がないと云ふ位の日本の人氣であつたならば、日露の關係何れであつたらうと云ふことは、蓋し多言を勞する迄もなからうと私は思ふのでございます。斯く考へ來ると鐵道事業でも、其の他紡績事業でも、或は銀行の如きに至つても、先づ以て比較的安全な事業でも其の始めに考へて見ますと云ふと、屹度大なる利益あるものとのみ指定めて組立てる譯に往くものでない。組立てる時には皆始てなければ成長する譯はない。どのやうな智者でも生れた時には、たつた一つに違無い天下を掌上に廻らす如き大英雄でも、生れた時には一つたることをどのやうな人も免れぬと同樣、始めての事業に多少危險のあることは決して免れぬことである。故に私共は民間の事業に就いては相當なる見込あることなら成るべく發達させたい。また著手も誘導もしたい。獨り滿韓の事業許りでございませぬ。內地の事業と雖も猶ほ然り。能く考へて見ますと云ふと、今日の

日本は貿易も進んで往つたわ、生産力も増して來たわ、國力も大に増進したわと申しますが、亞米利加とか、獨逸とか、或は英吉利とか云ふ國々に數字を以て又事物の物質的の比較を以て考へて見たら、遠く及ばぬと殘念ながら云はなければならぬ。而して東洋の潮流は甚だ急である。此の東洋の潮流が急であれば、優長に現在の安全許り考へて居られぬと云ふ論も、決して私は輕率でも輕舉でもなからうと思ふのでございます。故に自分等は昨年明治三十九年來種々事業の經營に就いては、稍道德ある仕事確實な事業と考へますと、成るべく成立に贊助して、頻りに苦心經營する所以でございます。

從つて生ずる弊害

さりながらそこに直樣從つて生ずる弊害がある。一方に於て事業が勃興すると共に、昨年などの現況を論じますと諸會社の株式は追々直を進めて往く。其の直の高くなると同時に新しい事業に同意贊成と云ふのは、其の實多數の觀念は實際に其の事業が望み其の事柄が希望といふのて成立つて來るのではない。之に就いて生ずる利益が望みて贊同する或は雷同すると云ふやうな種類が追々増して來る。人氣集る處段々に其の調子が進んて往つて、俗に申す船頭多ければ船が山に上る如き有樣。さうなつた調子は遂に途方もない有樣に往き走ります。昨年末當年の一月頃の景況は其の通りてあつた。さりながら是が惡いからと云うて最初起さぬ譯にいかず。さればとて遂に起して之を防ぐのが又甚だ六ヶ敷いのてあります。故にこれはどういても全體の智識が一般に進むより外、斯う云ふ場合に弊害を少からしむるの方法は無からうと私は思ふのてございます。併し自らに制裁があるものと見えて、甚だ無謀に進み過ぎることに付いての懸念は、先づ經濟界にも或は其の他の方面にも識者は皆考へて居ります樣てございますから、其の憂が直に事實となつて、一月の末か二月の初めてしたか、段々下落を引起した。併し此の下落を引起したのは目が覺めたと云ふ方てあるからてすが、今日の有樣を以て見ますと云ふと、丁度又其の下落を引起した勢が、上つた勢と同じやうに、甚だ道理以外に往き走るかと想像されるやうてございます。蓋し總てが皆怖い怖いと云ふ觀念を示して居るやうに、私には見えますのてございます。此の怖いと云ふ人は必ず、焉ぞ知らん一月まて一番强かつた人に違無い。一番强かつた人が一番今日怖がる人てある。

弊害除却の責任は諸君と共に吾人の雙肩にあり

先づ斯く論じ來りますと、どうしても自分の觀念では、事業は起さなければならぬ。相當の事業は、力ある限り起したい。併し此の弊害には成るべく近寄りたくない。弊害は力めて避けたいが、必ず此の事業に全く伴つた弊害ですから、之を取除くと云ふことは、其の當事者其の人に知識があつて防ぐ外無い。是に至つて、完全なる商業教育のある御方が世間に多く無ければ、之を防ぐことが出來ぬと云ふことが始めて證據立てられるのでございます。幸に今夕御集りの諸君などは、必ず石橋を叩いてゞなければ歩くものでないと云ふ如く、唯愼重に唯堅固に、と云つて世の進みをも察知せぬ如き無知識の御方でないことは明かに分つて居る。併しまた如何に進むからと云つて、輕率に雷同輕舉と云ふことをなさる諸君でないことも明かに分つて居る。幸に其の自ら分量を知つて進むべきに能く進み、而して其の弊害に陷らぬ度を計ると云ふ人が澤山此の商業界にございましたならば、經濟界をして斯の如くに或は進み過ぎ或は衰へ過ぎて世間に甚だ危まれるやうなことなくて、世の進みを爲し遂げ得るであらうと思ふのでございます。まだ今日かゝる弊害の免れぬと云ふのは、たとへ御互此處に集つた連中はさういふ者流でないにせよ、世間の廣きに較ぶれば吾々甚だ少數、少數故に未だ完全なる其の時期に至らぬと斯う考へますと、御互に今一層も二層も力を盡し心を勵して、更に後進者を誘掖して、追々尙ほ良い人を造るよう努めねばなちぬ。而して吾々其の職に居る者は今のやうに其の功を知り又其の弊を知り、苟も弊を見て功を沒することの無い樣にし、又功に乘じて弊を引起すと云ふことの無き樣に愼み、果して其の事がしつくりと出來上つたならば、或は經濟界が何時も危險――或は調子に乘り過ぎるとか、或は萎縮し過ぎるとかいふ不安固な聲を、世間に聞かせぬ樣に爲し得るであらうと思ふのでございます。決して其の責任は自分等も敢て負はぬとは申上げませぬが、茲に完全なる教育を受けられたる所の、而して實地に就いて居る所の諸君が御擔ひなさらなければならぬかと考へます。此處に御集りの御席で御馳走に預つて、責任を御與へ申すことになると、甚だ失禮千萬でございますけれども、決して私一人が其の責は免れると申しませぬ。私も共に負擔を充す積りであるが、併し此の御席の諸君は、今申す輕擧に失する、萎縮に陷ると云ふが如き商賣人たる事はなすつてはならぬ、といふ責任を有つてござることゝ御自信あること

を希望致します。（明治四十年五月十一日、東京高等商業學校同窓會懇親會の席上に於て）

七三　商業大學設置に就いて教育家諸君に望む

會員諸君、唯今御紹介を蒙りました澁澤でございます。此の教育家の大集會に參上致す光榮を荷ひましたのを、先づ第一に有難く謝辭を申します。御集りの皆樣は總て教育に御從事の方々と察せられまする。而して此處へ出ました私は最も無教育の人であると申さねばならぬのであります。頗る奇觀を呈する譯である。――教育家の皆樣へ教育の無い私が出て意見を申述べるといふは、釋迦に說法といふ事がございますけれども、それよりも尙ほ反對で餘程訝しい譯に相成りまするけれども、兎に角に御囑託を蒙りましたから罷出ました次第でございます。人を作出す教育家、又人を使用する實業家、――私は不肖ながら實業家の一人でございまして、皆樣の御作出しになる人を使用する位置に居りますからして、丁度物に譬へて云ひますならば、諸君は供給者であつて私は需要者である。其の供給者の御寄合に需用者が出て斯ういふ事を企望します。斯かる事に御注意下さいまし。斯ういふ意見で人を作つて戴きたいといふは、縱令釋迦の說法となるかは知れませぬけれども、無用ではなからうと思ふのでございます。右樣の趣意から私は此處に參上致して一言を陳述致す次第でございます。

今日の教育に就いて多少の不足を感ず

私が茲に申上げたいといふ意見は、商業大學の設置に就いて教育家諸君は如何に御考へ下さるか。十分御攻究なされて必要なら是非速かに設立せしむるやうに御盡力が乞ひたいと、斯く希望するのでございます。教育の事務が今日の如く進步して參りましたのも、當初から政治家教育家が大に力を盡されましたので、殊に唯今嘉納君から教育勅語の有難い御趣旨を御申述べになりましたが、私は教育界の人でなうても、勅語だけは今茲に暗誦しろと言はるれば、一字も間違はずに讀むだけは記憶して居ります。左樣に深い原因によりて、今日まで進んで參りました教育なれども、私は未だ此の教育に就いて多少の不足を感じて居るのでございます。蓋し斯く申上げたならば、澁澤は我田引水の說を多數御揃ひの所で申すとひよつと御小言があるか知れませぬが私は實業家である。商賣人であるから、爲

に我田引水を申上げる積りてございませぬ。今日は各種の教育も揃うて、殊に實業教育に就きましても現文部大臣又は其の先代先々代より頻に力を盡される樣に見えますから、最早唯靈心的教育ばかりてなく、物質的教育にも十分力が屆いて居るといふことには、決して不足を申す譯には往かぬてございませう。併しながら、以前はどうてあるかと申しますと、蓋し教育に力を入れたのは、多く政治とか、法律とか、或は兵事とかいふ方にのみ力が先へ進んて、商工業に對する教育は世間が甚だ疎んじたと云ふことは、二十年の昔を回顧しますると、事實が證明するのてございます。私は毎度申すことてございますから甚だ御耳うるさいかも知れませぬが、丁度記憶を喚起しますると明治十四年てありましたが、今日の東京瓦斯會社が未だ東京府の所有て瓦斯局と言つて居る時分、其の技師を詮索する場合に、大學出身の應用化學者を聘して瓦斯工場に頼まうとした時に、此の技術家が言ふには、若し吾々が官吏になり教育家になるなれば、其の位の俸給て行つても宜いけれども、民業に就くといふことてあれば、もつと俸給が良くなければ嫌だと云うて、瓦斯局の事業に就くことを、大層之を卑しんだ實例があるのてす。蓋し此の頃の學生は押並べて同樣の考を有つて居りました。私は之に就いて大いに憂慮を懷いて、其の時の帝國大學の總長加藤弘之君に面會して、頻りに嘆息の言を發しましたのを今も能く覺えて居ります。此の一事に依つて見ても、其の頃は法科とか、文科とか、又は政治經濟とかといふやうな靈心的學問よりも、事實に就いたる學問即ち物質的の學問は、甚だ階級の低いものだといふ、一般に觀念を有つて居られたといふことは、證據立てられるやうに思ふのてございます。

幕府時代の餘風

元來日本の昔時ずつと昔は私は知りませぬけれども、例へば德川幕府三百年間の政治の執り方、人民の階級の立て方は士農工商て、士から百姓それから工商といふ順序て、商といふものは一般の位地から最下級と定められて居つたものてございます。金錢の計算をするか利益の勘定をするとか云ふことは、人の世に處するに於て最も卑しい事業だと、其の時分の氣風は看做して居つたものてございます。商人は賤しい者だ。『武士は食はねど高楊子』といふ比喩がありますが、總て貨財に關係する事柄を社會の階級から最も輕蔑したといふ事は歴々證據がございます。其の餘風が維新に至つても尙ほあつた。前に申す如く東京瓦斯會社に從事

する技師が、民業であつては、同じ報酬では好まぬと云つたのは、即ち其の時分の氣風を、其の人に依つて寫し出したと申しても宜しいのでございます。私は此の風習が、日本の國富といふものに大に障碍するのであらう、此の氣風では日本をして萬國に雄飛するの、西洋を凌駕すると云ふやうなことは、事實出來ないものであらうと竊に憂へたのでございます。爾來一般の氣風は私の憂慮せし程のことはございませんで、前に申述べまする通り實業教育も大に貴重され、數代の文部大臣が力を極めて擴張整備を圖られるやうに相成りましたのは、實に喜ばしい次第でございますが、私は未だ此の商業に對する教育は、矢張第二流に置くといふことになつて居るのを、甚だ嘆息に堪へませぬのでございます、法律といひ、工業といひ、醫術といひ、農藝と云ひ總ての教育に對して大學の設がございますに拘らず、商業といふものには、單に高等商業學校といふに止まつて、これを大學たらしむるといふことは、今日に至りても尚ほ其の制度を見ることが出來ぬのであります。但し大學中に政治經濟といふものがある。經濟と云ふは即ち商科のやうなものであるから、經濟學を卒業したならば、商科と別に言はんでも宜しいと、或は教育家の說もあるが知れませぬが、併し高等商業學校といふものは、決して大學の程度には進めてないとして見ますると、商業教育だけは第二流に置いて宜いと定められた如き觀念が私には生ずるのでございます。

高等商業教育可否論

但し斯く申上げるからと申しても、私共商賣人が大に威張りたい、無暗に氣位を高めたいといふ意を以て述べるではございませぬ。縱令商賣人たらざるも、人たるものが世の中に立つて、唯自尊自負して、愛嬌も無ければ謙德も無いと云ふことは宜しいとは思ひませぬ。況や商業に就く人は所謂錙銖の利を爭ふ業體でありますから、なるべく緻密なる頭腦成るべくたけ精細なる才能を養はなければならぬのであります。決して氣位を高くして、尊大不遜を以て人に接遇することは好みませぬけれども、併し商賣人は人格が低くても宜しいとか、商賣人は總ての階級の最も劣等に置いても宜しいといふに至つては、甚だ私は了解に苦しむのでございます。或は今日商業大學の設置に就いては彼此と非難もあります。例へば今の六大學を七大學にすると云ふことは、既に政治經濟の科といふものゝある以上は、殊更に商科と云ふものを設ける必要がないといふ者もあるかのやうに聞き

ます。また近頃の教育は兎角に形の上の完備を求むる弊害が多い。商賣人の位地を進めるといふ政略上から、商業學校を商業大學にするといふことは異存はないけれども、教育が形式に陷るといふ弊害が多いから、其の場合に今のやうなる改正をするは甚はだ好まぬことであると云ふ非難も受けます。また或は前にも申述べました通り、商賣人は成るべく緻密なる手腕を持ち、成るべく愛嬌を持つて、腰低く人に接遇しなければならぬものである。これを餘り教育を高めるは、寧ろ氣位を高くして其の人の働きの伸びぬやうにする虞がある。商業者は左樣に高尚なる學問をせんても世務に達するには足りるものであるといふ如き、反對說を述べる人もあるやうでございます。私はこれ等の反對說も一理あることゝ思ふのでありますから、それ等に對して絕對的に不同意を唱へるのでございませんけれども、先づ最終に反對するところの、商賣人は氣位を高くせぬやうに、志を大ならしめぬやうにと申しまするけれども、前に申しました通り、如何に此の氣位を高くするというて傲慢不遜になるのと、自から賤しめぬと云ふのは大變な違であつて、商賣人は卑屈て宜いものだといふ道理は決してない。人に對して謙遜するとは

必要と認めなば斷行すべし

全く其の出處の違ふと云ふことを、殆ど忘れた議論ではないかと思ひます。

殊に商業者と云ひましても將帥になる人もあり、副官になる人もあり、又其の司令の下に或る部分の長となつて、部下を指圖すべき地位に立つ人もあります。又其の士卒の如く唯だ人の指令の下に奔走すべき地位の人もある。尙ほ三軍を使ふ場合に、大將もあれば中將もあり、聯隊長大隊長、下りては士卒もあるといふ程の階級はございませんても、相當なる順序を以て人を使役して行かなければならぬと云ふことは、商業上亦然り。果して然らば首腦に立つべき人に政治、法律、工業、農業、それ等の學ぶべきたけの程度の學問を與へるが、其の人をして氣位を高くせしむるのだから宜しくないと云ふことに至つては、殆ど理解すべからざる議論にはなりますまいか。私は其の前の非難に對して、例へば七大學にするが宜しいとか、高等商業學校に大學制度を設ける宜しいとか云ふ方法に就いては、勿論其の事に精しくない者でございますて、確定した注文は申しませぬのです。併し必要と見定めたならば、相當なる方法を設けられるものではあるまいか、維新以降教育が盛になつてから殆ど二十年以上の歲月を經て居る。吾々此の商業教育をして最高

等の位地にして宜しからうといふことを申出しましてからも、最早十年以上の月日を經て居りまするが、未だ以て其の運びを見ることが出來ぬといふことは、事實に於て必要が無いのか。抑〻此の昭代に相成つても、尙ほ舊幕府以來商業を卑しむ餘弊が未だ今日遺つて居るのかと云ふことを、教育家諸君に於て十分御攻究を蒙りたいと思ふのてございます。

國家進運の內助は資本にあり

凡そ國の進んて參ります有樣は、各種の勢力が好く權衡を保つて、所謂並聯進行して往かなければならぬことは、今茲に喋々する迄もございませぬ。例へば政治上に於ける勢力或は軍事上の勢力、是等は最も國家に取つて甚だ必要の勢力と思ひますけれども、併し是等の勢力をして內に十分の實力あり、外に立派な光輝を放たしむるには、資本の勢力といふものを藉らねばならぬと私は思ふのてございます。如何に外交手段が巧みであつても、如何に軍隊が勇武絕倫てあつても、饑じい身體ては十分な働きが出來ぬといふことは、敢て多辯を要せんて宜しからうと思ひます。果して左樣ならば、前に申す通り政治軍事の二大勢力も資本といふ一勢力を得て始めて光輝を發し、其の威力も伸び得られるものてないかと思はれます。

而して此の資本の勢力に尙ほ打勝つ勢力は何てあるかと申しますと、私は教育の勢力と申上げたいのてございます。教育の人を作り成すといふことは、若し其の方法が完全に行屆きませんなんだならば、決して國家の富も進まず、强さも增して行くことが出來ぬといふことは、多辯を要する迄もございませぬ。然らば今日此處に御集りの諸君は、今申す政治なり、軍事なり、又は資本なりに、尙ほ一歩增したる大勢力を持つてござると申上げて宜しい。此の大勢力を持つてござる諸君が、果して今の商業は最高等の教育を與へる資格ある者と御判斷になりましたならば、國家は其の趣意に從うて速に其の方法を講ぜられるだらうと思ふのてございます。卑近の例を申すやうてすけれども、曾て私は或る割烹に從事する者に聞きました事がある。世の中に一番調理上美味のものは何かと云うたら鹽てある。又一番不味い物は何かと云うたら鹽てある。私は茲に國家の盛なるものは何てあるかと云うたら人てある。國家の衰へるものは何てあるかと云うたら人てある。其の人を作り成す方々、即ち此の教育家諸君の勢力は頗る偉大てあるといふことを申すは、決して諛言を呈するのてはございませぬ。而し

て此の教育家諸君が吾々商業家に對して、私が前に述べましたのを必要と御觀察下さいましたならば、必ず御賛成下すつて遠からず之を事實に見るやうに爲し下さるであらうと思ひまして、茲に一言を呈した譯であります。

（明治四十年五月十三日、全國教育家大集會に際し同會の請に應じて）

七四　社會文運の進歩と博文館の功績

社會進歩と文運

閣下及び諸君、今博文館の創業二十年の紀念祝典に就きまして、私も茲に陪席の光榮を荷ひまして有難く存じます。嗚呼がましくも此處に立ちまして、一言博文館の既往の經過を觀察致したことを申述べまして、之を以て祝辭に代へようと考へます。

世の進運の著しい有樣は、歳月の經過をして或は大に長からしめたり、又或は大に短からしめるやうな感覺を起します。唯今新太郎（大橋氏）君が、二十年の經過を御申開けに相成りましたが、短く申すと頗る短日月に斯の如き長足の進歩をしたやうに聞えます。併し反對に其の經過の迹を細に調べて見ましたならば、これに應ずる方法經營又其の苦心勉勵する所頗る長いと申上げて宜からうと思ふのであります。詰り世の進歩は種々なる點にございませうけれども、第一に文運の開けると云ふことが國家の富を增し强を進めると云ふことは、是は論ずるまでもございませぬ。日本の今日ある所以は、教育の發達が重なる原因であると云ふことは、政事家も學者も、皆說を同じうして居る樣に考へます。而して其の教育を助くるには、即ち博文館の事業の如きものが與つて最も力あると申して宜からうと考へるのであります。私は茲に博文館の二十年の間に就いて、凡そ如何なる事が重なる趣意であつたらう。又其の博文館の活動が、社會に對して如何に洪益を示したであらうかと云ふことを、或は皮相の觀を免れますまいけれども、一言茲に申述べて見たいと考へます。

明識ある大橋佐平君

創業者たる大橋君は既に物故されました。私は生前に知遇を辱うしましたが、當代の新太郎君よりは甚だ淺かつたのでありますから、其の御履歴其の性行も精しくは存じませんなんだが、伺ひますと明治二十年に東京に事業を御興しになつた。其の前は越後に於て矢張同じ樣なる事業を御經營になつたと申すことでございい

ます。蓋し此の創業者たる佐平君は、世の中の文運の進歩と云ふことに早く著眼されたる、明識なる人と申して宜からうと思ふてす。明治の初年からして、人文の進歩に伴ふ紙の改良、或は印刷の改革、其の他總ての物の變りは爲して參りましたけれども、書籍等の改革はまだ十四五年頃には、大に著しい有樣は見なんだと云つて宜いてす。然るに、此の文運は如何にも進むに相違ない。果して然らば此の機運に伴ふには、總ての出版事業を如何にも迅速に如何にも奇麗に成立つやうにせねばならぬと云ふことに著目されたのが、博文館をして斯く成功せしめた一大原因てあらうと思ふのてございます。而して尙ほそれのみてはないてありませう。凡そ書物を著すとか若くは說を世の中に表白すると云ふ者には、多く自家主義と云ふ一の主義があります。蓋し學者發明家として世の中に論ずる場合に、惡くすると我が主義を逆に振舞ふ。多くの技術者は己が上手だと云つて、頻りに拵へて販路を客に强ふると云ふことがありますけれども、併しそれは世の中に弘からしむると云ふ方法には不適當てあると考へます。雜誌若くは書籍のやうなものを社會に弘からしむると云ふには、其の發表する者の自己本位を棄てゝ社會本位の主義に從ふと云ふことが、之を普及せしむる第一義てあると考へます。大橋佐平君は、早く此處に著眼されたと私は思ふのてございます。嘗て明治の初年と覺えて居ります。私は福澤先生に會うて、出版物書籍等に就いて御話を聽いたことがあります。私は其の時には半信半疑て居りましたが、爾來博文館抔の御經營に依つて成る程と感じて、今日此の事を申上げるのてありますが、福澤先生の說に、凡そ學者が書物を出版するに、唯己の嗜好を人に振舞ふと云ふだけて其の人の慰とするならば、見る人の無い書物を無暗に作出すのも宜いが、其の書物を以て世の公益を圖らうと云ふならば、多數の人の見るものてなくては決して公益とは云へぬものてあらう。故に書物を著述するとか學說を世に表白するとか云ふ人は、宜しく多數の解釋し易い、所謂極く分り易く書く主義を以て書物を作るやうにしなければならぬ、と云ふ說てありました。是は或は自家主義を失ふやうな嫌があります けれども、社會を益すると云ふには、成る程左樣てなければならぬと、其の時よりは後に至つて大に其の見識の高かつたことを發明致しましたが、博文館が此の社會本位に從つて自己本位を棄てたと云ふことは、蓋し此の成功を助ける第一回てあ

らうと思ふのでございます。

更に今一つ申上げて見たいのは、物の弘くなると云ふのは、早いのと、綿密なのと、今一つは廉いのであります。斯様な言葉は、斯かる御席では賤しいやうに聞ゆるか知れませぬが、多數に洽く行はれるには價が高くては行はれませぬ。佐平君此に著眼されて、成るたけ俗に申す數でこなす。努めて弘く、努めて廉く、努めて早くと云ふことに著眼されたのであります。果して其の效能は、遂に博文館をして斯く盛大に至らしめたと申して宜からうと思ひます。其の今日ある所以は、今申した二三點に止りませず。其の他勉强の力また卓識の助もございませうが、先づ私の觀察する所の重要なる廉々は、今の二三點に在ると思ふのでございます。

社會に及ぼせる博文館の功績

而して其の效能は社會の如何なる事に行渡つたかと申しますると、先づ第一に今の弘く廉く早くと云ふ主義からして、例へば教科書の如きものも國家が種々其の方法に苦しまれたが、博文館が之に應じて務めると云ふ爲に大に國費を減じて、而して其の事が容易に辨ずるに至つたのであります。蓋し博文館の務や大なり、博文館の功や多しと申して宜からうと思ふのであります。獨り教科書のみではございません。其の他一般社會に向つて、極く簡單に智識を增す如き『太陽』は勿論、『太平洋』其の他種々なる雜誌に於て、如何にも廉く如何にも便利に一般の智識を增さしめたと云ふことは、教科書に就いて國用を減殺して國家に貢献したと云ふ效能よりも、或は廣いと申して宜からうと私は思ふのでございます。殊に茲に一言申上げたいのは、故佐平君の御存生中から御自分の業務からして思立たれて、大橋圖書館と云ふものを立てられたのであります。此の圖書館の爲に、市内の書物を讀みたいと云ふ人の利益を得たことは少くない。其の圖書館の爲に費された所の金額も、殆ど二十萬圓に近い所の巨額に上つて居るのであります。而して此の圖書館に就いて、日々書物を讀む人が二三百人に計上される趣に承知致します。此等の事も博文館として大橋家として賞讃して數へなければならぬ事と考へます。

斯様に考へて見ますると、詰り文明を補翼する事實は、假りにこれを戰爭に譬へて申さうならば、教育に當る人を軍人……戰鬪線に出る人としたならば、博文館は即ち輜重とか兵站部とか云ふやうな位置に立つて、此の教育なる大戰場に立つて

大捷利を獲た所の軍人をして絶倫なる成功を爲さしめたのは、即ち此の輜重が十分に屆いたからであると申して宜いのでございます。果して然らば陳平張良ばかりて彼の天下を取つたものではなく、蕭何曹參の働きがまた國家に大なる功勞があると申さねばなりませぬ。即ち博文館の敎育の爲に力を竭したと云ふことは、丁度蕭何曹參の位置を務めたのと申しても宜からうと我々は考へるのでございます。

大橋新太郎君に囑望す

佐平君は創業の人、新太郎君は守成の御位置に在るやうに私は御交際上から觀察致します。其の有樣は今日は左樣でございますが、私は此處て守成たる新太郎君に、守成を以て御安んじなされたいとは言ひたくないです。如何となれば、此の世の中が今日を以て滿足すべき日本ではないであらうと思ひます。若し我が國が今日て滿足すべきものてないならば、博文館も今日を以て小成に安んじてはならぬと、御勸めせねばならぬ譯てあらうと思ふのでございます。故に二十年紀念祭の今日は、佐平君の昔日の發意を稱して、新太郎君には守成の位置を以て申上げますけれども、焉ぞ知らん、未來に對しては此の新太郎君がまた創業の人となつて、次の新太郎君に守成の地位を御讓りなさるやうになりたいと云ふことを希望するのてあります。故に博文館は前に申上げました通り、努めて早く、努めて精密に、努めて廉い雜誌もしくは書籍を弘めて、さうして社會に公益を與へたと同時に、社會から其の酬として博文館に希望を厚からしめて、彌增しに此の文運が進んて行つて、相俟つて又三十年四十年若くは百年の紀念祭を拜見致したいと思ふのてございます。之を以て今日の祝辭に代へます。

（明治四十年六月十六日、博文館創業二十五年祝賀會の席上演說にして雜誌『太平洋』に掲載されたるものなり）

七五　早稲田大學創立二十五年祝典に臨みて

學校と自分との關係

閣下、淑女紳士、斯かる最も紀念とすべき盛典に參上致す光榮を擔ひまして此の席に罷出ますのは、頗る愉快に感じまする。愉快に感ずると同時に又大に迷惑に感じまする。私は學問に緣の遠いものてございますから、斯樣な御席に參上して意見を申述べることがございませぬ。材料も知識も共に無いかも知らんてござ

います。さりながら此の學校の腦髓とも申すべき創立者殊に現在總長に居らつしやる大隈伯爵には、餘程久しい御懇遇を受けて居りまする。又學長たる高田君とは同郷の好みをも有つて居りまして、是以て極く久しい友人でございます。斯かる御目出度い席に、方面こそ異なれ罷出て一言の祝辭を述べよと云ふ御指圖に依りまして、未熟の者が此の壇上に登ります次第でございますから、言語の不束な程は吳々も御容赦の程を願ひます。

左樣な身柄故に、御目出度い席でも所謂賀頌のことを爲すことは出來ませぬ。殊に學問に對する意見、教育に對する思想などを申し上げることも甚だ困難でございます。唯殆ど此の學校の腦髓たる總長大隈伯爵とは、私は四十年の厚誼を辱うして居りまする。而して明治十五年に此の學校の始まる頃合からしても、勿論今日まで殆ど公に私に、或は慈善とか若くは他の學校とか、また社交上、政治、經濟等の大きな所は勿論でございます、始終其の指揮誘導を受けて奔走經營する身柄でございますから、此の學校に對する感想も、二十五年の間に例へ方面違ひの私と雖も、多少持たぬことは無かつたと申上げるでございます。故に學說とせず、唯外見の感を一言申上げて祝辭に代へようと考へます。

國民の共に感謝すべき成績

有體に申上げますと、明治十五年早稻田專門學校の開かれた頃合の私などの考は、眼の近かつた爲に決して斯の如く大規模に又盛大に擴張するものとは想像しなかつたので、詰り大政治家の、大英雄の、孟子の所謂『得天下英而敎育之三樂』と云ふ、例の『君子有三樂而王天下云々』と云ふ其の中の一に今のやうなことが書いてあります。伯の御高意は蓋し其の邊にあるだらうなどと云ふ皮相の考を私共は致して居りましたのでございます。又世間から評論する所をまゝ聞きまするに、或はそれ以外の想察を以て伯の高德を多少傷けることがあつたかも知らんと迄申したいのでございます。然るに此の學校の其の以後の發達と云ふのは、如何にも吾々其の時の想像以外にありまして、既に三十五年大學と改稱され、其の大學と改稱された以後の發展の有樣を唯今學長から伺ひましても、五年にして十倍の數字を擧ぐるに至つたと云ふことは、世運の學問に希望の厚くなつたと云ふことは勿論でございませうけれども、即ち總長たる、腦髓たる伯爵の厚い御力の入れ方、及び之を御助けなさる所の敎職員諸君の容易ならざる盡力が、此の大成功を見るに至

つたと、吾々厚く感謝をなさなければならぬのでございます。殊に私は此の學校に向つて別して謝意を表したいと思ふのは、唯今學長から御述べのございました通り、務めて學事と實際を密著させたいが爲め、此の學校を大學と改められた後の有樣を拜見しましても、大學部に商科を加へたなどと云ふことは、未だ帝國大學に見能はぬことが早稻田大學に見能うたのは、吾々商人の方から云ふと最も謝意を表されなければならぬことであります。而して唯今の數字を御述べになりましたことから觀察致しますると、費す所の費用と學問の普く及ぶ所の公益とが、或は政府の經營される、其の他種々なる學校に較べて見ましても、大に優る所あつて損する所がない。丁度善い品物を安い價で買得るとのことでございますならば、吾吾經濟界に居る者は最も雙手を擧げて此の學校に贊成する所で、獨り商業に從事する者許りでない、國民として共に同情を表さなければならぬ學校であると思ふのでございます。

遂に八百萬神を作り出さん

凡そ國光を發揮し國威を宣揚するの原動力は種々なるものがございませう。政治の力勿論必要である。軍人の働き最も肝要である。或は法律に、或は外交に、或は資本に、皆總て國威を宣揚し國光を發揮する要具に相違ない。併し是等の諸種の品物の勢力を十分に扶植せしむる原動力は何であるかと申したらば、是教育の力と言はねばならぬのでございませう。果して然らば此の教育の効能が國家に取つて如何に肝腎であるかと云ふことは、私の喋々を待つ迄もございませぬが、此の事を申上げるに就いて私は四十年の昔を思ひ起さゞるを得ませぬので、それは變つた御話でございますが、伯爵の御面前に於て古い記憶を茲に呼起すのは失禮になるか知りませぬけれども、私はもと靜岡の藩士の一人であつたので、明治二年十一月朝廷に召されまして大藏省の役人になりました。當時伯爵は大藏省大輔として大藏省の事務を執つて御出でなすつた。所が私は靜岡には多少の事務を經營して居つたに付いて、どうも大藏省へ入つて財務を取扱はうよりは寧ろ靜岡に居つた方が自分の利益と考へましたので、一旦召されて出ましたが、伯の築地の尊邸――其の時分築地の尊邸は梁山伯と人の稱した所である。尤も私は梁山伯の一人ではなかつた。魯智深でも或は九紋龍史進でもなかつたのですが、罷出まして己の意志に付いて意見を申上げました時に、伯が私に示された事がある。

御前は幕府から出て來たと云ふから、何か少し生きた考を以て世の中に立たれるか知らぬと思うたに、さう云ふ意見であれば誠に氣の狹い話だ。此の明治維新と云ふものは、先づ數千年の後の國家を改めて建造すると云うても宜いやうなものだ。彼の神官の唱へる『祝詞』と云ふものに『高天原に八百萬の神々が集まつて神はかりにはかつて神造りに造る』と云ふことがあるが、貴樣は知つて居るか。如何にも私は神主樣から聞いて其の位な事は知つて居つたから、さう云ふ言葉のあるのは存じて居ると御答をした所が、即ち今日我々が其の時代だ。八百萬の神を以て爰て日本を神造に造り神計りに計る。今に即ち御前の言ふ樣になるのだ。其の有樣から考へて見たならば、靜岡藩だ、薩摩藩だ、長州藩だ、――そんな馬鹿らしい話はないではないかと言ふ事を仰しやつた。此の愉快なる御言葉に因つて、私は意見を飜して朝廷に奉仕する考を固めましたが、其の時自ら思ふに、伯の識見の高遠なる、伯の意氣の活潑なる、甚だ私は愉快に感じましたけれども、其の實は少し奇矯に過ぎはせぬかと思つた。所が四十年後の今日になつて見ると、即ち此の原動力たる教育に斯の如く御力を入れて、さうして國家の富强を扶植する基を造るとするなれば、即ち八百萬の神々を作り出す御人と思つて宜からう。既に二十五年の間に五千の神を御造りになつたと見たならば、未來數十年には或は八百萬になるかも知らぬと思ふ。私は茲に此の學校の極く遠い將來を祝福して之を以て祝辭に代へます。（明治四十年十月二十日、早稲田大學創立二十五年祝典に臨みて）

七六　佛國銀行家フイナリー氏留別會席上演說

叙勳の光榮を感謝す

佛國大使閣下及び臨場の諸閣下諸君。只今大使閣下の御披露によりて、圖らずも私は今日佛國大統領閣下より『コンマンドル、ド、ラ、レヂヨン、ドノール』に叙勳せられましたことを拜承し、一身の光榮感謝措く能はざる次第であります。殊に閣下が此の叙勳の事を、私の敬愛する益友フイナリー君が其の使命を果されて近日我が國を發して歸國せらるゝに依り、其の留別の宴を張られたる席上に於て御披露ありしは、私の最も喜悅に堪へぬのであります。大使の御演說中に私を日本經濟界に於ける元老の一人とせられ、又フイナリー君の使命に對し其の成功を賛助せ

し一人とせられ、はたまた佛國と日本との經濟關係を更に有力に緊密ならしむることに協力したる一人とせられて、多くの賛辭を賜りたるは恐らくは溢美に過ぐるでありませう。併しながら、私が經濟思想を起しましたのは四十年の昔、即ち維新以前佛國に滯在せし時でありまする。當時の日本と佛國とは其の有樣が雲泥霄壤の相違であつて、佛國の銀行制度、公債發行の方法及び其の賣買手續又一面には官吏武人と實業家との交際狀態抔を見ましても、總て心に感じ肝に銘ぜぬことはなかつたのであります。是を以て私は明治初年より早く經濟界に從事して、今日尙ほ拮据努力して止まぬのであります。只今阪谷大藏大臣閣下は、佛日の協約成立に付いて政治上の協約は實業上の協約によりて更に其の光輝を增すと言はれましたが、私は全然其の言に同情を表します。故に私は向後佛日の經濟界の關係をして、今夕の主人公たるフィナリー君と協力して大に進步擴張する事に勉めて、以て今日の高賚に報答しようと思ひます。私は今夕此の盛會に於て四十一年前卽ち青年の時代を回想して、精神が活躍する樣なる感を生じました。茲に謹んで再び大使閣下に謝辭を陳上します。

余は昔日佛國に於て一念發起せり

（明治四十年十一月七日、フィナリー氏留別會に於て佛國大使が澁澤男爵のコンマンドルド、レヂョンドノールに叙勳せられたることを披露せる際の謝辭）

七七　フィナリー氏送別の辭

フィナリー君貴下、及び臨席の諸閣下、諸君。今夕は吾々が親愛する益友フィナリー君が其の使命を果されて、近日歸國の途に就かるゝによりて、同君及び其の一行を送別する爲め此の小宴を催したるに、御一行は勿論、佛國の貴紳及び我が邦の財政經濟に重要の地位を占めらるゝ所の諸君悉く賁臨せられたるは、私の光榮とする所であります。依つて私は茲に蕪詞を呈して謝意を表しようと思ひます。

私は四十年前佛國に留學致しましたから、ボンジュール、モッシュールの語は或はフィナリー君よりも先に教授を受けたかと思ひますが、修學の時間短かりしと、爾後の歲月長きとによりて概ね忘却して、今日佛語を以て我が意見を陳述することを得ざるは頗る遺憾とするところであります。さりながら私が滯在中特に精神に感觸を與へられたる佛國經濟界の狀況は、歸國後私が日本に於て銀行業を經營するの基礎となりたるのでありますから、私の經濟思想は其の源を佛國に發したと言

余は經濟思想の源を佛國に於て發はる

うてもよからうと思ひます。而して我が國の實業界も爾來三十有餘年間に於て漸次進歩發達して、昔日に比すれば大に其の面目を改めたるは、今日フィナリー君の如き有爲の銀行業者の渡來せらるゝに徴しても明かなることゝ存じます。フィナリー君の我が國滞在中、私は屢〻其の溫容に接して談話を重ね、自己の意見を詳悉したれば、同君も充分領意せられしことゝ思ひます。而して同君は其の敏活なる手腕と眞摯なる腦力とにより、各方面に向つて充分の視察を遂げ、我が國財政經濟の眞相を明晰に知悉せられ、歸國の後佛國經濟界の有力者諸君に報道せらるべければ、吾々は今日同君の發途を惜むと同時に、他日を期待するのであります。

徐々其の歩を進め著々其の實を占めよ

思ふに國力充實して資本豐饒なる佛國と、新進にして事業經濟に多忙なる我が邦とは、宜しく相呼應して各其の方法を講ずべきことゝ存じますから、フィナリー君の今回我が國に渡來せられたるは、殊に吾々の歡迎する所であります。併しながら、古諺に資本は從順にして水の如く能く卑に就いて流るゝと同時に、又頗る臆病にして懲り易き性質を有すと言ひますから、吾々銀行者は常に此に注意して其の安全を謀り、徐々に其の歩を進め著々其の實を占むることを勉むるを必要と存じます。茲に所感を述べてフィナリー君を送別するの詞と致します。

（明治四十年十一月十一日飛鳥山邸に催したるフィナリー氏送別會席上に於て）

七八　品川白煉瓦株式會社の由來

御主人公及び臨場の諸貴賓、私は一面には今夕御招を蒙つた客として、此の盛宴に列しましたる御禮を申上げなければなりませぬが、又一面には丁度今鄕君から、私が此の會社の相談役に任じました事に就いて御話がありましたが、其の相談役として爾來御厚誼を蒙つた臨場の諸君に謝辭を述べ、尙ほ將來厚き御引立を戴きたいといふの御願を申上げぬばならぬ位地に居りまするのです。一向これといつて學びましたこともございませず、殊に技術の事柄などは何も存じませぬ私が、此の品川白煉瓦會社の相談役に任じたといふことは、餘程奇觀とも申すべき譯で、色々の事に携はる澁澤だから、何でもご、ざれに引受けると定めし御批評もございませうが、併し聊かそれには理由がございまして、何か御申譯のやうでございますけれどもち、よつと一言其の事を先づ申上げようと思ひます。

耐火煉瓦製造の起原

今郷君が御話しなされた通り、此の白煉瓦製通事業の極くの起原は明治六年頃てあつたやうに思ひます。私が同僚の縁ある高松豐吉君なども此處に御列席てございますが、瓦斯會社が瓦斯局として東京府の管理に屬して居りました時、世話をするやうにと任じましたのが、明治七年の冬から八年の春に掛けてゞございます。其の頃既に西村君が此の耐火煉瓦製造といふことに苦心されかけたのてございます。當時私は屢〻瓦斯局に參つて、佛蘭西人のペレゲレンといふ人に瓦斯のことに就いて質疑討論をした際に、どうしても斯かる事業の發達に伴つて、日本に耐火煉瓦製造といふことの仕事が發達して來なければ、眞に化學工業の進歩を見ることは出來ないといふ事を說かれた。西村君も大に此の說に服し、――蓋し西村君と雖も其の時分のことて確かに調べた意見てはない、惡く言へば聞き學問てあつたてありませう。當時左樣な道理を實際に能く發明して、確乎たる意見を立てるといふ學識經驗を持つた人は、未だ日本には無かつたと言はねばならぬのです。爾來私は西村君が耐火煉瓦製造に苦心せらるゝ有樣を見て、當時君が靴を造る革を製造することに頻に困苦して居られたが未だ其の成功が十分てない。然るに今の耐火煉瓦の事に又苦しんて居らるゝが誠に其の熱心には感じたけれども、果して此の事が完全に成功するや否やといふ疑を持ちました。のみならず、瓦斯局といふものは東京府のものであるからして、個人の仕事として耐火煉瓦製造を瓦斯局の片手間に遣ることは宜しくない。眞實に御遣りなさる御考ならば、寧ろ引離して專心御從事なさる方が宜からう、といふことまて忠告したことを尙ほ記憶して居ります。其の後瓦斯局の方は今の明治八年から凡そ十年許りたちましてから、遂にこれは民間の一事業になり得ると考へて、之を民設會社に引渡したいといふことに自分主唱致して、今日の瓦斯會社が其の時から成立つて參りましたが、未だ其の頃には白煉瓦の方は十分なる成蹟を擧げることが出來なかつたのてあります。併し西村君の熱心、十年十五年の歲月を經て尙れ其の事に辛苦經營されて居るのを見て、誠に御奇特の事とは感じましたけれども、或は之が果して世の中の必要物とまてなり得るか否やといふことは、多少私共危みを以て觀て居つたのてあります。然るにそれより又十數年を經て殆ど三十年の後に至つて、始めて之を會社組織にしたいからして、どうぞ此處まて苦しんて來たから、多分の仲間

になつて呉れんでも宜いが、御前は昔の縁故もあるから一部分の合資者になつて呉れといふことを勸められまして、茲に始めて私も合資者の仲間入を致した。即ち白煉瓦製造に利害の關係を持つといふ身になりましたのでございます。續いて更に一歩進めなければならぬ必要があるので、合資組織では資本を增すにも不便であるから、株式會社に致し遂に追々事業も進歩して、殆ど今日は稍大きな會社とも唱へられるやうに相成つたのでございます。

故西村勝三氏の遺志を繼承す

唯今郷君が、故西村氏が病革まる場合に、頻りに將來のことに就いて苦心されたといふことを述べられましたが、此の事は今御目出度い席に之を言ふも甚だ心苦しいことでございますけれども故西村君の情を酌んで見ますると、一言諸君の御耳に達せざるを得ないのであります。故西村氏が危篤に陷る少し前でありました。此の白煉瓦のことに就いては、三十年以前より澁澤に酷く心配させて居たことだが、未だ本當の安全なる會社に立至らしめたとは言へぬ。然るに私はどうも此の病氣の爲に再び起つことは出來ぬかと思ふ。果して、さうなつたならば是から先々の會社が如何になるか。相當な人が十分な經營はして呉れるてあらうけれども、先づ年取つた人で大體の相談相手になつて呉れる人が無かつたならば未來は甚だ案じられる。三十三年以前に心を添へて呉れた澁澤であるから、今日は幸に小部分でも利害の關係を共にして居る位地にあるし、旁〻深い心配は掛けられんでも、どうぞ會社の後援者になつて、それから先の力添をして欲しい。それに就いては是非一度面會したいといふことを人を以て傳へられました。早速見舞に參りますと餘程衰へて、殆ど言語を發するも困難らしうございましたが、其の重き病床に其の事を言はれましたので、私も涙濺ぎて御引受をすると申したのでございます。これは先づ私が技術の事も何も存じませんでも、御斷の出來ませぬといふ一の理由であつたのでございます。

それから更に最一つ私が此の事柄に就て是非力を入れて見たいといふ觀念を持ちまするのは、段々日本も種々なる工業が進んで參りまする事は實に喜ばしい。併し之を歐米先進國に較べて見れば完全とは申されぬ。左樣に進んで來た事業中に、何が能く進み何が未だ足らぬかといふことを考へて見ますれば、私は學問も乏しゝ、廣い事柄は存じませぬけれども、どうも此の位化學工業が日本に於ては劣

つて居るではなからうか。之を劣つたなりて吾々實業家が安心して居る事は、宜しくない事ではないかといふ觀念が深いのであります。そこで此の化學工業に必要な事柄は何かといふと卽ち人間の働くに米が要る。人間の働くに米が要るやうなもので、此の耐火煉瓦は化學工業を發達せしむる重なる元素であると申しても、格別私が素人だからと申して――高山博士も此處に居られますが――笑はれる事は無からうと思ひます。果して斯う考へますると、未來の國富を增進する爲に、どうしても此の化學工業を盛にしたいといふことは私が希望するばかりでなく、滿場の諸君も必ず御望みなさるに違無い。既に然らば、折角これまで西村氏が三十有餘年の御苦心を以て此處まで發達しかけた事業でございますから、これを彌增しに發達せしむるといふことは、卽ち日本の化學工業を進步せしむる一段階にもなり得るであらう。斯く論じ來りますれば、日本の國富を增進すべき化學工業の進步を望む諸君、此處に御集りの諸君は多く其の方に緣故の近い諸君と思ひますが、皆兩手を擧げて當會社の事業に御贊成下さることゝ思ふのでございます。

向後の希望

今鄕君は、會社が金牌を貰つたことは名譽に相違無いから誇つても宜しい。併しながら私は此の金牌を貰つたのは、此處に御列席の皆樣が、品川白煉瓦會社に金牌を下さるやうにして下すつたと斯う思ふのです。決して白煉瓦が貰つたのでなくして、諸君が煉瓦會社に與へて下すつたと申して宜いのです。總て事業が進むといふのは、例へば呉服屋が流行を造り出すといふ事もございますけれども、要するに需用者があつて始めて其の事業が發達するのです。果して然らば此の煉瓦會社が今度幾層の繁昌を來すといふことは、卽ち化學工業に熱心なる滿場諸君の御力であると言はなければならぬ。故に之を反對に言ふならば、若し白煉瓦會社が衰微の非運を見ることがあつたならば、是日本の化學工業が進まぬのである。日本の富の進まぬのは日本の化學工業の進まぬのである。斯う申すと品川白煉瓦會社の振はぬのは、會社自身の罪でなくして卽ち皆樣の罪である。其の責任は御列席の諸君に歸せなければならぬのでございます。今日斯かる盛運に向ひましたのも、故西村氏が不屈不撓の精神と、これに加へて皆樣の御同情を得就中此處に御列席の高山君なり、手島君なり、阪田君なり、是等學者諸君の御力添にあること

を思ひますれば、實に喜ばしい次第でございます。茲に私は會社の爲に喜ぶと同時に、臨場諸君に尙ほ未來の御厚情を翼ひまするのでございます。

（明治四十年十一月二十五日、帝國ホテルに開かれたる品川白煉瓦會社祝賀會に於て）

七九　財政偏重と經濟界

前座ばかりの討論會

唯今委員長から、今夕の晩餐會に最も希望する正賓の松方侯爵が餘儀ない御差支から御臨場を得ないといふことの御申聞けがございましたのは、吾々共實に遺憾千萬に存じまするのでございます。幸に三井三郎助君は御臨場を得ましたけれども、益田君の御所勞の爲に御出席されないのも是亦殘念千萬でございます。唯今委員長の述べられた通り、御互に金融界に從事する者共が、外に內に未來の財政經濟を考察して見ますれば、大いに憂慮せねばならぬ點もあるやうに思はれまする。斯かる場合に財政界に重きを置かるゝ侯爵が御臨場下すつて、吾々に十分の御說明を下さるは金玉の言葉として拜聽したいと思うたのでございます。又益田君の海外の御視察は、定めし種々なる點もあらうと思ひまする。今夕之を聽くを得ざるは甚だ殘念でございます。尤も室田君志立君抔の遠來の方々から、大阪若くは其の他の地方に於ける景況又は經濟上の御意見も御述べでございませうから、先づ以て吾々聊か慰するには足りまするけれども、どうも委員長が今晩は半札的の御催てあつたやうで、何だが眞打の御缺席に就いて前座が討論會を開くやうな有樣がございますけれども、先づ以て仲間同志て極く腹藏の無い一の討論會として、私が或は此の席の年長かも知れませぬから、第一の前座を勤めて見ようと思ひます。

財政と經濟との關係

私の茲に申上げたいと思ふことは、矢張國家の經濟事情でございまして、是から先を如何にして宜いか。是れまでは如何なる有樣であつたか。御互にどう經營し來つたか。會同した御人々に就いて多少の違はございませうけれども、假りに澁澤だけの意見を申上げて見たならば、それは大に間違つた。それてはいかぬといふことの御批評を蒙ることも出來ませう。既往の過失を知るは將來過を再びせぬ利益がございまするて、十分の敎を乞ひたいと思ふのてございます。

元來國家の進んて行くといふのは、唯車の片廻りの如くに、一方だけが能く行く

といふことは決して出來るものでない。古諺にも鐘ばかりては鳴らぬ。撞木ばかりては鳴らぬ。鐘と撞木の合が鳴るといふことは、俗言ではございますけれども千歳不易の言葉で、總て世の中の事は色々の權衡平仄が揃うて進んで行くと言はねばならぬ。政治のみ進んで行つて決して其の國が文明とは申されぬ。軍事のみ發達するからというて、其の國が強いと自慢は出來ないであらうと思ふ。果して然らば此の經濟……經濟といふ中にも、大別しますれば自ら二つに區別を立て得られると思ひます。能く財政經濟と一口に稱へますけれども、私が文字の講釋をするも如何でございますが、經濟といふ字を財政と分けて、一方は政府の事、一方は民間の事といふやうに解釋するも可笑しうございますが、詰り此の兩者は自然に成立する。而して權衡が宜くなければ眞正の國の經綸は進まぬと思ひます。且つ此の財政經濟は國家に變化ある場合國力を擴張する場合、惡くすると其の適度を失する事がある。或は不權衡を來すといふことがございます。それ迄は程よい調子に經過して參つた國柄であつても、或る一の事變に際して其の權衡を失ふといふことが間々あるやうに見えまする。若し其の權衡宜しきを失ひますれば、所謂車の片廻りとなりて、一方に沈衰を惹起すやうになるは、是迄事實に徵して幾度もあつたことゝ思ひまする。我が國の三四十年の歴史に於てすら尙ほ然りですから、若し歐米の經濟事情を精しく取調べましたならば、一層明瞭に之を證據立てることが出來るであらうと思ふのでございます。それで自分等は此の經濟財政の調和を考へますると、成るべく經濟の方に力を向けて、財政の力をして經濟に打勝つて片廻りがするといふやうにならぬことを希望して居ります。經濟の方の力が進んで行つたら、財政は自然に進んで行くに相違ない。財政の膨脹から經濟を衰耗させるより經濟の發達から財政を擴張して行くやうにしたい、といふことを始終希望して居りますのです。

兩者の權衡宜しきを得たし

私は明治二十八年に東京商業會議所の會頭をして居りましたに就いて、丁度日清戰爭の終に於て名古屋の商業會議所に開かれた聯合會に出席して一の建議を致しました。其の趣旨は日清戰爭は連戰連勝の結果實に名譽ある、利益ある、媾和が調うて喜ばしい。併し此の喜ばしいと同時に、將來財政經濟が如何に變化するかといふことを想像せねばなるまいと思ふ。若し此の喜に乘じて餘り不相應な

財政を計畫されたならば、遂には經濟に沈衰を來すといふことなきを保たぬてはなからうか。幸に各商業會議所の諸氏同意ならば、どうぞ商工業者の力に依つて此の財政上に注意を與へたいと思ふ。これは唯素町人の泣言と謗らるゝものてはなからう。故に此の聯合會に於て、調査委員を擧げて充分に取調をするが宜からうといふことを申したことがございます。但し其の事は十分なる効を奏したとは申し得られないやうてありました。但し聯合會は此の建議を至極尤として其の調査を爲し、各地の會議所より其の意見を提出しましたけれども、二十九年の財政計畫は吾々の豫想よりは少しく超過したやうてありました。故に私は三十九年のことに就きましても同じやうな杞憂を抱いて居りましたけれども、三十九年の財政は戰後匆々の際てあるから、戰後經營とは言へぬといふ有樣てあつたから、其の以後は充分整理する樣に注意があることてあらうと、今尙ほ期待しつゝあるのてございます。若し今日の如き有樣て、財政が果ほて經濟と適應するものてあるか。吾々の經濟社會が現在の大負擔を能く咀嚼し能く耐忍して、決して維持に差支無いものてあるかといふことは、臨場の諸君と共に御互に充分之を考究し

師匠に御清書を直して戴く

し、深く考察を加へて見ねばならぬことてはなからうかと思ふのてございます。

帝國議會も近々開けるのてありまするし、四十一年度の豫算も既に重なる御評議は濟んだと聞きますけれども、併し政府の豫算は單に四十一年度に止まるものてはなからう。四十一年度の豫算は四十二年度の豫算を包含して居るものと思ひますると、其の如何に定まるかといふことは、吾々餘程考慮を要することてはなからうと考へるのてございます。それと同時に、又吾々經濟界は是から先どういふ風に心を用ひて宜いか。唯世の中を心配ばかりして、それは困るあれは困るといふ悲觀にのみ終つたならば、社會は益〻沈衰するといふ虞を持たぬとも申されますまい。殊に銀行者がさういふ者てあつたならば、其の響は愈〻强くなつて、遂には憂ふべき結果を惹起さぬとも限らぬ。故に或る場合には隨分勇氣を鼓して、唯悲觀にのみ終るといふやうな有樣には、どうぞさせともないと思ひまするけれども、悲觀にさせまいと思ふ爲に、財政如何に膨脹しても吾々は多々益〻負擔する、決して心配はございませぬと申して、財政の一方にのみ重きを加へるといふことになりましたならば、事實の上に困難を惹起すといふことがありはしないかと恐るゝのてござ

います。是等の懸念は、幸に松方侯が今夕出席せられたならば、自分は斯う思ふと判然明言せられぬまでも、其の御演説に依つて思ひ半ばに過ぎることがありやしまいかと、樂しみに致して居りましたが、前に申した通り、師匠を失うた弟子が、解らぬ文字を之は何と讀むか。此の木扁があつて旁に文の字があるは、枚と讀むのか牧と讀むのか。どつちも似たやうな字だと云ふやうな疑が起きはしないかと思ひますから、此の差違を御互に討論して、さうして師匠に御清書を直して戴くといふことにしたいと思ふのでございます。

三井君の洋行に就いて

三井君の歐羅巴御旅行に對しましては、定めて御觀察があるであらうと思ふのでございます。同君は丁度明治五年と記憶します。亞米利加に御出になつて、殆ど半年餘も御滯在であつたやうに思ひます。然るに殆ど三十有餘年を經て、歐米に喧傳する三井といふ御家名を以て御自身の旅行は、日本の名譽を歐米に傳播させたと吾々の喜ぶ所でございます。同君は大勢の中に出て演説することを御好みないやうですから、私が代言をするやうに聞えますけれども、必ず此の御旅行中には種々適切なる觀察もあらつしやいませう。又種々面白い御話もあるに相違無いと思ふのでございます。歐羅巴亞米利加に於て、三井といふ名は著く行渡つて居ります。其の三井の御一人が、而も益田君を御同行で御旅行なされたといふことは、日本の經濟界を海外に紹介なすつて下すつたというても宜い樣で、私共最も喜んで其の御歸京を歡迎するのでございます。吾々は其の中に又晩餐會を催して、益田君より種々なる觀察談を聞くことも決して遠くなからうと思ひまするが、先づ財政經濟に關する自分の愚見としては、今日の有樣に付いて頗る疑念を持つて居りまするので、若し私に忌憚無く此の疑を言へといふならば、成るべくたけ財政の重みを減じて貰ひたいといふに躊躇致しませぬ。若し自分の意見が誤つて居るといふならば、臨場の諸君どうぞ御腹藏無く御討論なり又御反駁を御願ひ申します。（明治四十年十一月二十六日銀行倶樂部晩餐會に於て）

八〇　日韓の親交に就いて

邸下、閣下、諸君今日は當銀行集會所の同業者が申合せまして、今般御渡來の完興君、永宣君兩邸下、其の他御一行の諸君、又皇太子殿下の御隨員として御渡航あられ

ました李、宋兩閣下、其の他の諸君を御招待を申上げまして、茲に小宴を開いた次第てございます。幸に兩邸下、諸閣下及び我が内閣の諸公の尊臨を賜りましたのは、一同此の上も無く光榮と存じます。依つて私は茲に有志者の總代と致して一言の謝辭を申上げます。

日韓の親交

韓國と我が帝國の交際の年久しいことは、今更申上げます迄もございませぬ。殊に今日に至りましては、兩帝室の親交も啻ならぬ有様てございまして、既に我が皇太子殿下(今上天皇陛下)も過般御渡韓になつて、皇帝陛下、皇太子殿下、其の他の貴紳より親しく歡迎を受けさせられ、又此の度は韓國皇太子殿下我が國に御渡來になるといふ如き、獨り政治上ばかりてなく、兩帝室の親交を進められるやうに至りましたのは、兩國民の歡喜措く能はざる所てあると信ずるのてございます。吾々は銀行業者てありまする。不肖ながら一國の資本を取扱ふ所の機關の位置に居ります。斯かる國運の進歩に就いては、未來韓國に對しまして、我が帝國との關係を益々密にして物質的の增進を謀らねば、政治上殊に帝室の左様に親睦遊ばされる聖旨に副はぬことゝ、吾々は恐懼に堪へぬのてございます。不肖ながら私は既に三回韓國に渡航致しまして、韓國の事情を銀行者仲間中ては比較的存じて居るのてございます。獨り其の事情を存じて居るのみならず、私の管理する第一銀行は、今日の所ては韓國の中央銀行の位置に居るのてございます。さりながら、未來の韓國の物質的發達を圖りまする爲には、決して一人一銀行のみの力を以て盡し得られるものてはなからうと思ひます。殊に韓國に對しましては、資本を注入する事が必要と考へまするから斯かる資本の機關たる銀行團體が同心協力する事は、最も望ましいことゝ思ふのてございます。蓋し尊臨を忝う致しました兩邸下及び諸閣下も、此の點に就いては必ず御同情を下されることゝ、私は信じて疑ひませぬのてございます。

兩國民の意志を如何にすべき

さて左様に事業を進めて參りまするに就いて、兩國民の意志を如何にしたら宜からうといふことが甚だ肝要てある。今日臨席を賜つた宋農商工部大臣が、昨日東洋協會に於て御演說のございました通り、過去に屬する我が國民の韓國に於ける行動は、或は道理に基かぬ、德義に背いたといふことが無いとは申されませぬのてございます。己さへ宜ければ、韓國民は如何になつても構はぬ。唯一攫千金を

目的とした商賣人が韓國に渡らぬとは私は申しませぬのでございます。併し兩三年前から伊藤統監閣下が韓國へ御越しになつて、其の政略とする所又其の處置される方法からして、決して左樣なことで韓國の進運を助けるものではないといふ主義を持たれて居ることは、私共深く敬服して同情を表して居るのでございます。故に吾々の將來に期待する所は、飽く迄も道理に基き德義を重んじて、我が帝國人民の利すると共に、韓國の國民にも等しく利益を與へ、所謂共に立ち並び進むといふことを目的と致さねばならぬのでございます。之が吾々の最も未來に希望する所でございます。故に斯かる機會に於て、兩邸下及び樞要の位地に居らる諸閣下の尊臨を乞うて、吾々銀行者は左樣な精神を以て韓國の事物に當る覺悟であるといふことを申上げまするは決して無用の言葉でなく、又諸閣下も御歸國の後韓國民に吾々の意志を御傳へ下すつたならば、大に兩國民の感情にも兩國の事業に對しても、裨補する所あると考へるのでございます。斯かる希望を以て今日の小宴を開きましたけれども、如何にも時の少いのと設備の不行屆なる爲め、折角尊臨を辱うしたるにも拘はらず頗る御粗末なる御饗應で、其の點は特に大使其の他諸閣下に陳謝致す次第でございます。茲に蕪辭を陳じまして殿下及び諸閣下の臨場を拜謝し、且つ其の御健康を祝し上げます。（明治四十年十二月二十四日、韓國特派大使招待會の席上に於て）

死力を普通力と見誤る勿れ

八一　嚮後の經濟界を如何にすべきか

年を取ると、來る春を待つといふ意念が薄いからどうしても歳月の經つのが早く感ずる。僅かの時間と思つて居る中に、最早一年を終つて又新年を迎へるやうになりました。未來の經濟界の觀察を申述べろといふ御依賴ですけれども、今日の事すら誤るのを、未來を談ずるといふは神ならぬ身の爲し能はぬことゝ言はねばならぬのです。けれども人は相當なる想像を以て物の判斷を著けることの出來るものである。又推理から論じて、斯く成り來つたから斯く成り行くであらうといふことは言ひ得るものである。それらの道理からして想像說を申述べるといふことは、或は無用の辯でもなからうかと考へます。

元來我が經濟界は、維新以來四十年の經過を以て次第に擴張し來つたといふことは言ひ得るのであります。殊に或る時變の度毎に其の進度が極く劇しかつた

といふことも、既往に就いて能く見得まするのです。例へば明治二十七年日清戰爭以後の經過などを見ますると明かに解ります。故に三十七年の大國難に際しても、國民一般が當初に懸念したよりは案外に相應なる力があつたので、容易ならぬ莫大の軍費を支へたといふことは、これは第一に限り無い皇運の然らしむる所、又陸海軍の勇武絕倫の働きもありましたらうけれども、一方に國民の力が大に增進して居つた故であるとも言ひ得らるゝ。併しこれがです、私は國力の大に進んだといふよりは、國民全體が實に一致して國家の大變と思ふ觀念で、所謂必死の時に際して有る限りの力を盡したといふことを忘れてはならないと思ふのです。

凡そ人は或る場合に必死の力を出すと、通常の程度からは數倍のことを爲し得るものであるけれども、それは一時の場合に屬することで、之をして永久に繼續せよといふならば、爲に其の人の生命までも絕つやうな悲境に陷らせるといふことになると思ふ。右の論理から考察すると今日の我が經濟界は、如何にも戰時に際して大なる力が見えたといふことは相違無いけれども、それは平時の力を程好き度合に用ひたといふのではなくして、實に有る限りの力を以て之に應じたのであ

生産力を進めんと企てたる結果は如何

る。故に若しも世間が其の必死になつて出した力を平常の力と誤解して、永く維持繼續すべきものと思ふならば、經濟界といふものは大に困難に陷りはせまいかといふことを、第一に私は氣遣ふのであります。

日露の大戰爭に就いて二十億に近い軍費を使つて、其の戰勝の結果一方にはナに國の勢力をも增し位地をも進め、押並べて國民に面目を揚げ得るといふ仕合せを與へて呉れたに相違ないが、是は政治家軍人の働きであつて、吾々國民は大に謝さなければならぬが、これと同時に又國民は大なる價を以て買うたものと覺悟せねばならぬ。即ち莫大の軍費は莫大なる國民の負擔と變つて、遂に前後の國債を合計すれば二十三四億の巨額を負うて居るのであります。此の大負擔を都合好く徐々に整理して行かうといふのは、經濟力卽ち生產力の發達に依らねばならぬからして、私共は昨年の秋頃からして成るべく事業の進歩を努めたのでございます。此の戰爭以後の財政經濟に就いて論の別れる所は、一は國家の經營の爲に、例へば軍備の復舊を圖るとか、或は更に之を擴張させるとか、又は種々なる政治上の整備を圖るとかいふことは、先づ吾々から言へば不生產的消費であるが、國家の爲

八一　戰後の經濟界を如何にすべきか

には矢張是も必要缺くべからざるものてある。又一方には國の面目の向上すると同時に、國の經費も段々增加するによりて、其の生產力を進めるといふことを努めねばならぬ。此の生產力を進めるといふことに就いては、商人が物の仕入をするのも卽ち生產を增す爲の放資てある。工業會社が機械を買うて事業を起すのも生產を增す爲の放資てある。是等は直接なる方法に依つて生產力を圖るのてある。又政治上の生產力を圖る方法としては、例へば海陸の聯絡を著ける。港灣を擴大し若くは整頓し、或は運輸の進步を圖り、交通機關を敏捷にするといふやうなことは、是は生產力を進める間接の方法てある。此の間接の方法は多く政府の力に依つて遣らねばならぬ。努めて不生產的の費用には節約を加へ、生產的の仕事を擴張して國力を進めて行くといふことに、吾々は努めたいと希望したのてある。故に昨年から本年に掛け、頻りにそれ等に就いて心を盡して見たけれども、一般の人氣がちよつと進んて行くと、唯空に走りて一方に傾くといふ弊害が生じて來る。例へば當春の株式會社の增設新設に就いても、眞に事業を企てるといふ念慮を以て著手する人が二三人あると、それを利用しそれに附和して無暗に會社を起し、企業熱てはなくして株熱と變じ、事業を經營するのてはなくして株券に生ずる差益を得るを目的とすると云ふが如き弊害に行走る。故に其の事業が十分に成立たぬ中に種々なる故障を起したり不都合を生じたり、殊に金融界の調子が少し變つて來ると、右等附和雷同の人々は直に豹變して、前には切に望んだ者が今は甚だ之を厭ふといふ有樣になりて、成立しかけたものも躊躇するし、或は既に成立したものも解散するといふやうにまて成行きて、遂に當年の全體の有樣を見ますると、善良なる會社の增設事業、卽ち機械を增すとか或は工場を殖すとかいふやうな方法に於ては相當なる成功を見ましたけれども、新設の會社に至つては、僅かに殘つたものは十中三四に止まつて、其の他は大抵泡沫に終つたといふ有樣てある。

此の原因は財政經濟の二者不調和にあり

吾々が國家の生產を勸めて、此の戰後經營を圖らねばならぬと希望した念慮から見ると、斯の如き經濟界の有樣に至つたのは實に嘆かはしい譯て、これては大に富を增さうといふ希望は滿足に達し得られぬかとまて思はれる。果してこれが滿足に達し得られねば、前に申す此の大國難の爲に大に增したる負擔に堪へ得られぬてはないかと恐れるのてあります。故に吾々今日の經濟界の不況に就いて

種々なる考慮をして見ますと、なぜ斯樣であるかといふ疑が生ずる。近頃こそ亞米利加若くは歐羅巴に恐慌が起つて、爲に生絲も賣れず其の他の貿易品も甚だ不振を來して居る。又生憎と銀の下落からして支那貿易に大打擊を受けて居る。是等一二の困難は昨年の十月頃から生じたのである。けれども春來の有樣から觀ますと養蠶は誠に豐作であつた。而して其の收穫も十分であつた。米も先づ豐年というて宜い。また春の農業なり秋の耕作なり、總て惡いといふものは無かつた。諸物貨は相應に賣買されて、農民其の他押並べて細い生活をする者は總て上景氣であつた。殊に細民生活の程度は年一年に進んで居る。著しく進んだのは日露戰爭の關係である。論功行賞などの結果である。例へば兵隊が入營するというても、或は病氣其の他で歸つて來たというても、相集つて之を送迎する。其の送迎の宴席には唯水ばかりで送迎はしない。ビールも飲まう。酒も飲まう。贅澤というては語弊があるか知らぬが費用が掛ることになる。其處に會合する人々も眞逆に不斷著の儘ではない。子供にも良い衣服を著せる。それも相競ふといふ風習を生ずる。殊に軍人が論功行賞に就いて得た所の賜金は、中には之を貯蓄する人もあらうけれども、多くは無用の事に消費する。是等の向は總て一般生活の度を高め、商業上の景氣を附けたに相違無いと思ふのである。是は勿論惡いといふのではない。右の有樣であるが故に總ての事業が繁盛になつて來る。或は物貨の運送を見ても賣買の景況を見ても、各都會の諸雜貨店又は飲食店の景氣から觀察しても、總て不況といふやうな有樣は見えぬのである。然るに昨年上季よりして、經濟界は引續いて沈滯して、春頃の株熱は全く冷めてしまうて、有價證券は日に增し下落に傾くのみであつて、前に申す如く一旦成立せし會社まで打壞すといふ程に人氣が沮喪して來た。是等は海外の關係も大なる原因を爲して居るであらうけれども、唯單に外部の出來事のみが左樣に我が經濟界を沈滯せしめたるものとは想像されぬ。これには何か他に原因があるといふことを考へねばならぬ。其の原因は何であるか。私は此の原因を財政が經濟と伴はぬといふに在つて存すると斷案せねばならぬと思ふのであります。

何れの國でも戰後には、必ず財政と經濟との權衡に就いて衝突を惹起するといふことは免かれぬ。これは日清戰後にもさういふ議論があつた。今日も亦同樣

既往已に然り將來亦憂慮せざるを得ず

の形勢を現出して居るというて宜からうと思ふ。客月二十六日の銀行倶樂部の晩餐會でも其の端緒を申述べましたけれども、二十八年の日清戰後に、私は商業會議所の會頭であつて、名古屋の聯合會に出張して戰後の軍備擴張を論じて、軍備の擴張は卽ち財政を膨脹する譯になる。財政の膨脹は經濟の力を殺滅する。財政の爲に經濟は段々に縮められて困難の場合に陷りはせぬかと恐れる。故に吾々商工業者は大に此處に注意すべきことであるというて切に之が防禦に力めた。當時各地商業會議所員の多數は皆同論で大に盡力したことがあります。今日も丁度同じ有樣である。三十九年の歲出も四十年の歲出も、財政の豫算は甚だ尨大に失したるものでなかつたかと思ふのである。既往已に然り。將來亦憂慮せざるを得ぬのである。故に四十一年の豫算も之を襲踏しはせぬかと恐れる。此の豫算案に就いては無論當局者も心配なされるであらう。又元老達もそれ〳〵心を添へられるであらうと思うて、先月二十六日の銀行倶樂部晩餐會に松方侯爵が出席せらるゝといふことであつたから、十分に其の御說を伺ひたいと思つて居つたけれども、不幸にして出席の無かつた爲に吾々の企望を達し得られんであつた。

然るに其の後承る所によれば、四十一年度の豫算も大體に於ては略定つた如くである。けれども併し未だ以て確定のものではなからう。想ふに三十九年四十年を繼續して、矢張吾々が懸念する如く、財政にのみ力を傾けて經濟方面を後にする算盤立ててはないかといふ事を恐れるのであります。直言すれば國力に過ぎたる財政案を立てるのではないかと思はれる。果して國力に過ぎたる財政案ならば、必ず一般の生產力を妨害し經濟を衰頹せしむるといふことは爭ふべからざる道理である。

歐米諸國に比較したる我が國の歲出額

假りに我が國の歲出額を歐米諸國に比較すれば、英國の千九百六年度の歲出豫算は一億四千二百萬磅で、其の貿易總額は十億六千八百萬磅。米國は歲出が五億六千八百萬弗で、貿易額が二十九億七千萬弗。獨逸は歲出が二十三億八千七百萬馬克で、貿易が百四十五億六千萬馬克。又佛蘭西は千九百五年の歲出三十六億三千八百萬法に對し、貿易高は百二億七千三百萬法に上つて居る。それで各國の貿易額に對する政府歲出額の割合を見るに、英國は一割三分、米國は一割九分、獨逸は一割六分、巨額の國債を有して居ると云ふ評判の佛蘭西でさへ三割五分にしか當

らない。然るに我が國はどうである。四十年度の歳出豫算額は六億二百萬圓に上り、昨年の貿易は極く多く見積つても十億圓を超えぬ。即ち歳出は貿易總額の六割以上に當る割になる。更に國民の政費負擔と其の國富との割合を比較したならば、我が國と歐米諸國との間に蓋し一層甚しい懸隔があらうと思ふ。斯樣に爭ふべからざる數字の上に徵しても、我が國の現狀は財政の方面に偏重し過ぎては居らぬかと思はれる。故に吾々から考へれば、四十一年の豫算に就いても已むを得ず增稅をするといふことを聞きますけれども、此の增稅は最も吾々の同意し難いことである。獨り增稅をせぬのみならず、曩に賦課したる戰時稅を整理して、其の惡稅を輕減するのが經濟上必要ではあるまいか。所謂千度に一度といふ戰爭の爲に國民は皆耐忍して之を負擔して居るのだ。故に其の千度一度のことが止んだならば、宜しく之を輕減するといふのが適當の道理ではないか。然るに之を輕減せぬのみならず、尙ほ之を增すといふに至つては、吾々は財政と經濟が權衡を得るとはどうしても思はれぬのである。若し吾々の觀察が誤でなく、又それが果して事實であるならば、將來國家の富を增すといふ方法に就いては、必ず妨害を

此の秋に於て唯一國民の努力あるのみ

與へるであらうと恐れるのであります。

斯く論じ來ると、どうも本年の經濟界といふものは、私共には甚だ悲觀せざるを得ないのである。此の悲觀を減じさせようといふならば、成るべく此の政費を節約して、さうして經濟界の力を增すといふことを努めなければならぬと思ふのであります。海外の出來事は吾々如何に考へても防ぐ工夫の無いことである。亞米利加の如き國柄で總ての仕事を突飛にする爲に生ずる恐慌などといふことは、日本の力を以て之を防ぐことはどうしても出來ない。又銀の價の上下することなども、とても我が國民だけで之を如何にしようといふことも出來ぬのである。併し是等のことはさう長く繼續するものでもなからうと思ひます。其の中に相應の回復期もあらう。例令銀は十分に其の價を回復せぬにしても、久しきを經たならば支那に對する輸出貿易も、亦相當に回復するであらうと思ひます。故に吾吾經濟界の者は、唯それらの事に怯ぢ恐れて落膽するやうではならぬ。兎角俄に活氣を生じ又俄に恐怖心を起し、冷熱甚だ速なりといふのが我が國民の狀態で、經濟界にも尙ほ其の狀態があるが、是は誠に歎はしい譯で、もう少し辛抱力を持ちた

いと思ふ。是等の點に就いては、詰り經濟界が未だ幼稚なる故に、特にさういふ變化に堪へる力が少いのではないか。元來國民の性質が然らしむる所もあらうが、經歷の少いのと鍛錬の足らぬが其の原因であらうと思ふと、我人共に其處へ注意して、此の經濟界を努めて穩健に擴張して行くやうにしたいと思ふ。縱令現に商工業は沈衰して居ると云うてもが、各其の業に勉強するといふ心は我が國民は皆持つて居る。國家を大切にして自己の事業を大事にするといふ觀念に於ては、國民皆同一であると考へますから、所謂努力といふ方に於ては決して缺けて居る所は無いと思ひます。故に前に申す如き困難はございましても、幸に國民全體が十分に勉強して行つたならば、此の困難に打勝てぬものではなからうと思ふ。

併せて政治家の猛省を促す

併し未來の我が經濟界は今日の財政を繼續されては實に困難は免れまいと思ひますからして、もう一層經濟界に重きを置くやうに、政治家の猛省を求めなければならぬと考へます。私は唯單に政治家さへ猛省して呉れるならば吾々は怠惰て樂をしたいといふ意味ではありませぬ。吾々經濟界の者共も飽く迄其の志操を確實にして、昨日考へたことを今日は忘れてしまふといふやうな不誠實の事柄は、自らも戒め人をも戒めて矯正釐革して行かねばならぬ。而して十分に腹を据ゑ十分に勉強をして行かねばならぬ。さりながら、其の根本が誤つて居つては、如何に思つても經濟界の病根を取除けることが出來ぬやうになりはしないかと恐れます。細事を論ずるやうになりますが、今日は大藏省證券を以て政府と銀行と預金の競爭をして居るといふ程になつて居ります。また各種の事物も段々に官營に傾くといふ按排になると、民業を自然に涸渇せしむるといふことに行走らぬとも言へぬのです。例へば鐵道國有の結果は、鐵道に關する總ての製作事業は自然國有になるのです。汽車製造なり客車製造なり、自分の都合を好くしたいと思ふならば自分で經營する方が近道である。又餘りに課稅を强めて行くならば、其の事業は永續し得られぬから終に官營を企望するやうになる。是等は政治を爲す人に餘程注意を乞ひたいことゝ思ひます。此等の言葉は誹謗愚痴に聞えますけれども、現況から論ずるとさういふ小言も自然と出るのであります。

これを要するに今年の經濟界は大に懸念すべきであつて、或は向後益々不況に陷りはせぬかと思ひますけれども、私は唯これを悲觀して落膽するものではないの

てす。前にも申す如く、飽くまでも勉强して行きますれば、或は之に堪へることもなし得られませうが、唯僅に堪へ得られるいふ程度に經濟界を置くといふのては進歩といふことは爲し得られぬから、實に歎はしいことだと思ふのてあります。

（明治四十一年一月十五日發行の『銀行通信錄』に掲載されたるものにして銀行集會所員の需に應じて爲したる談話なり）

八二　增稅と實業家の覺悟

私は名譽會員と云ふことに推薦を蒙つて居りまするが、何時も此の會に參上致さぬものて、今日罷出ましたのが初めてゞすから、多くは皆樣に御拜顏の機會を得ませぬ。唯今星野君から伺ひますと、今日の御會合は增稅の問題に就いて、營業上如何にも增稅が其の當を得ぬと云ふことを、其の筋に陳情なさる其の御協議の樣に拜聽致しました。細い事情を心得ぬものが、唯大體其の次第を如何にも贊成てござると云うて、極めて骨髓に立入つて意見が陳情出來ぬ譯になりますのは頗る遺憾てございますけれども、私共も總て增稅に對しては矢張反對の意見を持つて居りますのてございます。是は行政に對すると云ふ意見て、國家の經綸どうも宜しきを失つた處置てはないかと云ふことを、深く懸念致して居ります。但し己の身體が、御承知あらせられます通り餘り世の中へ出て左樣な事柄を喋々する、出て物を申すことを致し兼ねます若くは遠慮致す場合もございますけれども、斯かる實業上の御寄合に對しては、自分等の平生懸念致して居る點を申るのも、殆ど蛇足になりませうが一應申述べて見たいと思ひます。

財政經濟の二者果して權衡を保てるか

さて此の國家の進みは種々なる方面が追々に整うて參つて、國も富みもし强くもなると云ふことがございますれども、大別すると財政と經濟と云ふものが始終車の兩輪のやうに相成つて往くやうに考へます。而して財政と云ふ方面は多くは消費に屬する者を掌り、經濟と云ふ方の方面は生產に屬する方を務めると云ふことに極く大體が見えます。而して國家が進歩する間に或る事變、即ち二十七八年とか若くは三十七八年とか云ふやうな事柄の後には、必ず財政と經濟に一の衝突を惹起す。此の權衡を得ようと云ふに就いて、必ず穩和にはいかぬと云ふのが世の中に常に見えます。尙ほ其の事柄の大きい程、其の權衡を得るに對しての議論も亦强くなる。明治三十七八年の大國難に對して國家をして面目を揚げしめ

て、吾々國民をして名譽を得せしめたと云ふことも、今申す財政に關する不生産的の事業が、大に吾々の位置をも進め吾々の顔を好くしたに相違無い。けれども何ぞ知らん。それが又吾々をして大に苦しめると云ふ場合になると云ふ事を免れぬのであらうと思ふ。故にどうしても、さう云ふ時代に、成るべく均衡を得せしめると云ふ事を其の方面の人も考へ、吾々方面の人も考へ、吾々方面の人も能く努めて、さうして是が適度に歸する樣になるのですけれども、偖此の適當の度合が聲の高い方力の強い方に多く傾き易い。是が今日の通弊ではないかと思ひます。今日の增稅問題なども、歸する所夫から起つて來つたものと自分等が想像致しますれば、畢竟實業家が、即ち經濟界の力が比較的に弱い。弱いから一方の重みに突き上げられると云ふのであると申さねばならぬ。果して然らば、今日の此の御心配も今の重みを增すの働であらうと考へます。て自分等も最も同情を表して此の御心配を察し上げるのでございます。

反對は當然の理由なり

一口に物を申しても、此の戰爭に對して國家はどふ云ふ方法を執つて居つたか。戰時稅と云ふものは、吾々豫期以外の大なるものを負擔せしめてあるのでないか。それはどこまでも整理しなければならぬと云ふことを、政治家は皆其の時分に云うて居つた。昨年一昨年に如何なる整理をしたか。戰時稅はえらい惡稅でございます。其の惡稅も其の儘にして施行して、尙且つ足らぬので一方に增稅をすると云ふことは、殆ど政府は人民の休養は少しも知らぬ爲され方だと云つても宜いやうに思ふのです。また支那の戰爭に對しては、外國より負債などはせずに國家は經營が出來たけれども、これに引換へて三十七八年の國難には殆ど十億以上の外債を起した。其の負擔は皆國民がやつて居ることは申す迄もない。尙且つ之に加へて或は其の後更に募債もしなければならぬと云ふ。而して今日に增稅せねばどうしても歲出入の權衡が得られぬと云つては、蓋し財政を誤つて居ると申さるを得ないと私共思ひます。吾々はどうか成るべく國憲を重んじ、國家に從ひたい。餘り過激暴戾なことを言うて快を取るやうなことはしたくございませんけれども、如何にも、不權衡なりと云ふ財政に對しては、どうも非難の聲を發せざるを得ぬと思ひます。此の今問題になつて居る砂糖などに就いて增稅と云ふ問題が若し止んだならば、縱へ苦痛はあつても新しい增す苦痛は加へんで宜さゝう

なものと思ふ。既にこれを除かねばならぬといふ今日に除かぬのみならず、更に加へると云ふことになつては、勢ひ皆様の力を入れてこれに反對なさるゝと云ふことは至極御尤で、歸する所吾々の力が足らないから斯う云ふ困難を惹起したのだと思ひますと、努めて此の力を強めて、一方の重みは段々に彼をして輕くして此方へ引戻すやうにせねばならぬ。斯う云ふ機會と思ひます。若し唯或る一方の國家官營のみを起して、軍備さへ整頓して居れば國家はそれで起ると云ふならば、殆ど強と云ふ字はあるか知らんが、富と云ふ字は無くなるし、而して其の強も唯軍事を輕くすれば宜いと云ふ方てなくて、眞正なる國富を計ると云ふに相成るだらうと思ひまするから、努めて御盡力あれかしと希望致して止まぬので、私も矢張御同論てございますから、同論の趣意は斯く〳〵てあると云ふことは、分り切つたことを申し上げましても價値がございますまぬが、此處に罷出ましたので一言陳述致して置きます。（明治四十一年一月二十二日、東京實業組合臨時總會に臨席して）

八三　增稅案反對意見

臨場の閣下諸君、今夕の御會合は、現に貴衆兩院に御出席になりまする全國の御同業者諸君の東京に御集りを機會として、東京の銀行集會所の同業者が相會して懇親會を開かうと云ふので、此の宴會が開かれた次第でございます。而して此の會同は此度て三回に相成りましたが、別段規約もございませねば司會者もない。單に全國の同業者が相集つて懇親を厚うし、自然何等研究すべき事があるならば、御互に且つ談じ且つ議さうと云ふだけに止つて居りまするのてす。過日來地方より議會へ御出掛の諸君の御樣子を承知して、一日も早くと此の開會を企望しましたけれども、つい今日に遷延致した次第てございます。斯かる多數、殆ど全國有力銀行者が御集りになりたる場合てありますから、假令前に申す通り至つて單純なる懇親の會合てはございますれども、此の會合を利用して銀行業又は經濟上に就いて多少意見のある人は其の意見を陳述して、或は現在の問題ともし又は將來研究の材料とも致します樣にありたいと云ふことは、前回前々回から吾々も企望し諸君も御要求のあらしつたことてあります。

前會に於ける余が注文

昨年は二月の八日に此の會が催されたやうに記憶します。其の時にも此の會

合を機として、時事問題として特に良い意見もございませなんだけれども、經濟社會の事に付いて愚説を陳述したやうに記憶致して居ります。當時本席に在らつしやる千阪君から、私の言に對して貴案を御添へになりまして、且つ其の御言葉の中には多少御叱りのやうな事もあつたと覺えて居ります。私は一昨年からして斯かる御會合の時には、國家の財政と民間の經濟との調理を努めて其の權衡を得せしめたいと云ふことは、其の度毎に愚見を陳べましたが、要するに戰後の我が日本の經濟界は最も愼重に經營して行かねばならぬ。愼重と云うたとて、右を顧み左を慮り、唯心配ばかりして居るやうては相成らぬ。負擔が重ければ勉强を增さねばならぬ。勉强を增さうと思ふならば、成るべくたけ多く事業を仕掛けねばならぬと云ふことになる。唯其の事業が宜しきを失ひ度を過せば、誤つて害となると云ふことも顧みねばなりませぬから、千阪君の其の時の御心付は私共誠に御尤とは感じましたが、只々民間の經濟と云ふものが國家の財政に劣つて、財政と云ふものばかりが擴大して、國の兩輪が片廻りにならぬやうにと云ふ希望に至つては蓋し諸君も皆御同感であつたらうと思ふのでございます。

遺憾なる增稅案と之に對する吾人の態度

さて三十九年以降、我が政府は毎年戰後の財政經營として膨脹的豫算を提出されました。之を見る度毎に、吾々は未來が如何なるかと云ふことを懸念しつゝ今日に來つたと申して宜からうと思ふのです。但し三十九年に於ては戰後匆々のことであるから、戰時中の不完全な課稅を整理すると云ふことは、如何に速かなるを欲しても決して左樣には參るまい。併しながら四十年の豫算に於ては、大にそれ等に注意されるであらうかと期待致した。然るに昨年の豫算も吾々共期待致した如きとは思はれぬやうであつた。殊に本年に至つては最早相當な歲月も經て居るから、成るべくたけ國力の進步を努めて、精々不生產的費用をば節約されるところの財政案が提出されることゝ希望して止まぬのでございました。然るに先頃から拜見しますると、種々なる廟議の末遂に已むを得ず增稅せねばならぬと云ふことに一決されて、此の案が提出されると云ふことは、吾々共經濟界に居る者は實に遺憾に堪へぬのでございます。但し今夕に於ては此の意見を申述べまするも、最早六日の菖蒲たることを免れぬか知りませぬけれども、併し吾々は茲に今一つ申上げて見たいと思ふことがございます。果して總ての事が皆六日の菖蒲

てはない。或は九日以前の菊になるべき事柄もあるかも知れぬと思ふのてございます。

唯今申述べ掛りましたる增稅問題に至つては、既に大勢定つたと致しますれば吾々又何をか言はんてございますけれども、併し斯かる場合に、一體の國力が眞にこれに堪へ得るものてあるか或は過度てあるかと云ふことの考察は、詰り一國の未來の發達を障礙するかの關係大なるものと致しますれば、是は御互に經濟界の樞要の位地に居る銀行者としては、唯單に人が言ふから宜からう、議會が同意したから吾々も同意しようと云ふことだけに經過するのは、少し粗忽な考にならうかと思ふのてございます。蓋し今日の有樣が種々なる必要からして、歲出豫算が段段に增加して來ると云ふことは、これは國の進步と共に免れぬことてございまして、吾々此の大戰役以後一等國民となつたと云ふことを歡び迎へる心としては、申さば良い品物を買つて來た後に、代價が高いからと云つて其の支拂に不平を言ふやうな意氣地無い考を持つてはいかぬと思ふのてございます。畢竟大な價を出さねば良い品物は買はれぬ。さりながら一方から顧みると果してそれだけの品物をどれだけ買ひ得て、他日の懷中勘定が差支は無いのてあるか。十分に堪へ得るや否やと云ふことは精密に考慮せねばならぬ。果して一家の間口を段々擴げ過ぎて奧行を進めて行くのは氣遣はしいと云ふことがあるならば、場合に依つては此の間口を擴げることを躊躇して呉れと云ふことも、吾々奧行に關係する人民としては、努めて論ずるだけの權利もあり又考慮も無くてはならぬと思ふのてございます。

不動尊の利劍を揮へ

併し是等の觀察は、皆銘々に思ひ銘々に論ずることてございますから、縱令私が甚だ過重てあると申しても、否それだけの力があると云ふ御說も十分生じませう。此の御席上にもさう云ふ方々が澤山居らつしやいませうが、自分等の始終考へて居りますところでは、或る一例に依りましても如何てあらうかと恐れるのは、他の國々の貿易の高と歲出の高との比例を論じて見ても、我が國の有樣は甚だ多きに居ると云ふことを申すに躊躇致しませぬ。試みに英吉利に於ては、貿易の總計から比較して見ますと其の歲出が一割五六分てある。佛蘭西などが大層多いと云うても三割位になつて居る。然るに我が帝國に於ては、貿易の總計から比較しま

すと六割五六分、殆ど七割に近い。斯様に數字を茲に現はすとして見たならば、國家の力が平然と之に堪ふると云ふことは、或は言ひ難んじはしないかと思ふのてございます。故に吾々はどうしても此の戰時税の整理が必要てある。此の必要を先んぜずに更に增税と云ふことは甚だ宜しくないてはないかと、只管政府に反省を望みます。併し是は今申上げまする通り、最早大勢動かすべからざることてございませう。唯此處に御集りの諸君が、或は御一同此の説が眞に尤だと思召されたならば、十分なる利劍を持つて居られる不動尊の御揃てあるから、或は之を動かすことが出來ぬと云ふことも無からうと思ふのてございます。

金持征伐案か

而して更にもう一つ申上げたいのは、吾々銀行集會所中にございます手形交換所て、所得税法に付いて提案になつて居るものをも取調べて見ました。是はまだ前に申上げました通り十日の菊てはございませぬ。七日か八日の菊と申して宜からうと思ひます。此の案も大に經濟界の秩序を紊亂する案だと論ぜねばならぬやうに思ひます。蓋し私自身が金持てございませぬから、事に依つたら米國大統領に同意して金持征伐の旗を立てゝ出まいものてもございませぬ。さりながら日本の今日の有様は、若し政治家がルーズベルト氏を學んて金持を征伐しようと思ふならば、取りも直さず植ゑたばかりの木を、枝葉の繁茂を恐れて其の芽を摘むやうなものて、是から大に繁茂しようとするのを、枝が邪魔だと云ふのて其の枝を摘むに至つては殆ど馬鹿な沙汰だ。阿呆な所業と論じなければならぬ。果して然らば此の所得税案は、若し金持征伐と云ふ意味てあつたならば、まだ日本の金持は縱令三井や三菱が大いと申したところが、私から言へばまだ植ぇた木の芽生てある。此の芽生から直ぐ枝を摘まうと云ふ考は抑〻時勢を見誤つた考てある。恰も軍人社會などては、戰時に際して吾々が必死の力を盡して軍費を負擔したから、平日此の通りに日本人民の力が增して居るのだらうと思うて更に課税をするのと同じ誤解に陷つたと申して宜からうと思ふのてございます。

是實に銀行集會所の輿論なり

前に申上げました兩様の事は東京銀行集會所に於ける人々が多數一致して皆共に希望する、とまては申上げられませぬが、殆ど集會所の輿論と申して宜しうございますから、幸に御集りの諸君には隻手には經濟の劍を持つて居られる隻手には立法の劍を持つて居られる――此の立法の劍を持つて居られる諸君に向つて、

吾々の論ずるところは斯く〳〵てあると訴へる。蓋し或は素町人の泣言と諸君は思召すかも知らぬ。若し泣言と思召すならばそれは泣言てあるから、斯う考へて大丈夫だと云ふ事を御諭しを願ひたい。若し又其の御諭しが無いならば、大體に於て御同意下さるものと認めます。若し御同意下さるならば、其の御同意の方に御力を入れて戴きたい。以上は特に集會所の者共を殆ど代表の意味て、御臨場下すつた諸君に一言の謝辭を述べました次第てございます。茲に御臨席の皆樣の御健康を祝します。（明治四十一年二月五日、兩院議員中の銀行家並に東京組合銀行有志懇親會の席上に於て）

八四　經世家として見たる白河樂翁公

閣下並に諸君、今日報德會の御會合に於きまして、故白河樂翁公の事柄に就き何か申述べるやうにといふ、幹事方からの御委託を蒙りまして爰に罷出ました次第てございます。三上君の如く學問上年久しく御攷究のございました樂翁公の事に就きまして、素人の私が愚見を申述べまするのは頗る汗顏の至りてございます。併しながら假に今樂翁公を富士山に譬へますれば、駿河の方から見ても高し、武藏野から見ても高いのてありますが、私は方向の違つた方から樂翁公を見上げた所て一言愚見を申述べて見ようと思ひます。

樂翁公の性格

徳川氏の施政三百年の間には、種々なる人物が出て居られることは歴史にも明かてあります。初代の徳川家康といふ御方が、實に遠大なる政策を以て其の事を遂行されました。三代の家光といふ御方、八代の吉宗といふ御方、其の他の紀州の南龍公とか水戸の義公とか、代々の賢君名將が輩出して居りまするが、殆ど完備なる御方と申したならば或は樂翁公に第一指を屈せなければならぬと存じます。功業の分量から申しましたならば、地位の然らしむる所から德澤を汎く及ぼしたといふ點に於ては如何が知れませぬけれども、總ての方面に何れも滿足てある。是等の事に就いては、今日もこれへ出ますると取敢へず印刷物の御示しを戴きました。これは皆樂が御覽になつて居ることてありますから、今日見たことを此處て再應申上げても何の益もありませぬからそれは略します。私は特に天明七年に老中となられた時の覺悟に深く感じ入るのてございます。中村秋香先生が公の事を書かれた書物などては、御若い時分に頗る癖癖があつたとか短氣てあつたと

かあります。江間氏などは左様に云ふのが誤つて居るといつて居りますけれども、多少癖癖を持つて居られたかと想像するのです。その事の一つの證據として申しませうならば『宇下の人言』といふ書物がございます。これは江間氏から聽きましたが例の『撥雲秘錄』と『宇下の人言』といふのは、維新後になつて始めて松平子爵の御家にある長持が明いて人が見ることを得たといふ書物でございます。其の中に書いてあることですが、田沼出雲守意次が十代の俊明院に仕へて居つて頗る跋扈した。殆ど天下は田沼の天下と言つてもよい位で、老中の筆頭であつて我が子の意知を若年寄と爲し、親類の太田某を若年寄にするといふことで、内閣は殆ど田沼で持つて居つた。此の田沼を樂翁公が餘程憤慨されたことは、『宇下の人言』に明瞭に書いてあります。それを刺さうと決心せられたことも確かにある。あのやうに溫和敦厚の人でありながら左様に覺悟されたといふのは、蓋し少壯の鋭氣もあつたか知れぬが、若い時分に多少癖癖が強かつたか、或は其の場合が如何に堪忍强い樂翁公でも見るに忍びなかつたのであつたか、その邊はもう少し考究して見たいと考へます。

神明に誓うて其の職責に任ず

併し俊明院の薨去と共に亂れた幕政を一新せんが爲め、天明七年に樂翁公が推されて遂に其の職に就かねばならぬ場合になつた。公の御身柄は御承知の通り田安から出られたので、德川家には厚い御血筋を引いて居られますから、普通の譜代大名から出た閣老よりは人の受けも違ひましたらうし、また自身の覺悟も大に違つたやうに察せられるのであります。故に其の時に於ける樂翁公の覺悟がいかがであつたかと、今日も想像に餘るほどに思ひます。殊に天明の初めから六年頃までは、天變地妖頻りに臻つたやうに見えます。こゝに持つて參りましたが、馬琴の書いた兎園小冊にも明かにありますが、餘ほどひどかつたやうであります。天明の初年に日蝕皆既、それから續いて二年三年には大火洪水で、其の前安永まで が段々田沼の暴政で、賄賂は行はれる驕奢は長ずるといふことで、秕政限り無い所へ天も左様に災害を降した。此の跡を受けて幕政を改革せねばならぬといふのでございますから、樂翁公の自ら任ぜられたことは尋常一様ではなかつたと思ひます。故に其の職に就かれるときの覺悟が尋常ではないのです。先刻も彼處で拜見いたしましたが、一身を捧げて其の職に就かれたことは實に有難く感じます。

天明八年正月二日、松平越中守一命を懸け奉り心願仕候。當年米穀融通宜しく、格別の高直無之下々難義不仕安堵靜謐仕、並に金穀融通宜しく御威信御仁惠下下へ行屆き候樣に、越中守一命は勿論の事妻子の一命にも奉懸候事、必死に奉心願候事。右條々不相調困窮、御威信御仁德不行屆、人々解體仕候儀に御座候はば、只今之内に私死去致候樣に奉願候。生ながらへても中興の功出來不仕、汚名相流し候より、只今之英功を養家之幸並に一時の忠に仕候へば、死去仕候方反つて忠孝に相叶候儀と奉存候。右の仕合に付き、以御憐愍金穀融通、下々不及困窮、御威信御仁惠行屆、中興全く成就之義偏に奉心願候。敬白。

神に誓はれた此の決心は、至つて通俗の文面ではございますけれども、其の一身を犧牲に供せられたことの眞相がこれで分ります。殊に手の著け方に就いて其の跡を見ますると、これも江間氏に相談をして取調べて貰つたのでありますが、其の時分矢張田沼の一類で水野出羽守といふのが奥向の事を扱つて居たやうです。天明七年に公が老中の職を奉ずるに就いては、風紀を振肅して田沼の弊政を改めること、幼君の德性を涵養すること、近習を精選して驕奢遊惰の風を去ることを第一に任じて居られる。さうして丁度此の誓文と同樣の意味で、三家へ對して書面を呈して居られる。それで松平越中守に役を仰付けられて宜しからうといふ三家からの口添に依つて職を奉ずることになつたのであります。斯樣にして此の就職が定つたのであります、それですから七年の七月に直ぐさま出羽守の大奥勤務を廢めて、さうして第一に大奥からして節儉の改革に手を著けられたやうであります。私が今こゝに詳しい事を申し上げて見たいと思ふのは、此の節約方法に依つて樂翁公が幕政の改革をしたといふことで、それが最も善政の中での有力なる勤であつて、其の恩澤が今日までも著しいといふことを稱讃したいのであります。申すまでもなく樂翁公の善政美事は、決して唯財政を整理したといふの一事に依つて稱讃すべきやうな方面の狹い御方ではない。けれども他の方面の事柄は皆樣がそれ〳〵御辯じになることであるから、私は財政整理の事に就いて殊に公の遣り方を稱讃し、又事實その事柄が頗る感服すべきことでありますからその事に就いて少しく申して見たいと思ふのであります。

公が行はれたる財政整理

それは第一にあの通り貨幣制度を屢〻變更したり、租稅に就いても運上、冥加など

といふことを世の季になるほど强くして參りましたけれども、天明七年から寛政五六年頃まで、即ち樂翁公が政治を執られた數年の間には貨幣を改鑄した事が無いのと租稅を增したことの無いのが、公の最も國事に親切な取扱をせられた一證として私は稱讃したいのであります。殊に大體から見て、幕府の經濟を如何に料理せられたかといふ其の一端を知り得るのは、即ち江戸市中の制度に就いて大なる節儉法を布いたといふことで以て最も明かに分つて居ります。それですから東京市民たるものは、今日までも大に其の遺澤を蒙つて居ることを忘れてはならぬことかと思ふのでございます。その事柄は天明の七八年頃から企てられたのでございませうが、天明は九年で改元して寛政となつた。その寛政三年にその事が實行されて居ります。此の寛政三年に實行された『町觸』をちよつとこゝに朗讀して御聽きに入れませう。『今般町法改正に付、當六月中書出候町々減金の儀に付申渡候趣爲讀聞候間可承』。これは大勢の町役人を呼んで讀聞かせた書付であります。其の手續をいふと斯ういふことであつた。

一當四月町法省略被仰渡候節の通年番名主共、居町の地主家主一人宛、並肝煎名主總代、小口にて五人前日差紙遣し四月被仰渡の節は、御勘定奉行衆御立會無之兩町奉行衆計に候處、此度は御下金も有之候事故、御勘定奉行御立會有之候方可然に付、御立會候樣、前々日二十七日筑後守殿御讀相成候處、其儀及問敷由にて決著被致候に付、越中守殿被仰上候處御立會の方可然旨被仰候間、御立會の積相成候段筑後殿被仰聞候。

寛政三年の町觸

斯ういふので勘定奉行が立會ひまして、其の時寄つた人が、年番名主が四十七人、地主惣代四十七人、家主惣代で四十七人、肝煎名主惣代五人、都合百四十六人寄せて白洲で申渡したのです。で肝煎名主共惣代の者へは『町々積金の儀に付年番名主共其外承請候通申渡候間其旨可存』とあつて、それへ達したる言葉が

當地の儀は萬物諸國より入來候て自由をいたし候事に候得共、天明午未米直段甚引上候節貳拾萬兩御金御下被下、買米相渡候ても米には及困窮候程の事にて候。都て國々には諸大名圍穀を始として京大阪其外共夫々凶年の備有之といへ共、江戸表にては其の備も無之に付、此度町法改正の上町入用の費用を省き、右を以非常の備圍籾幷積金いたし置べく候。

一町入用減金の七分通りを以、町々永續の圖救、且積金いたし、二歩通は地主共増手取金たるべし。殘一歩は町入用の餘分として差加可申候。全體町入用減の儀は所々にて悉不同有之、惣町中へならし候ては餘程の減にも見え候得共、銘々地主共の所得に遣候ても纔の儀、又地代店賃等引下させ候にも軒別に割配候得者至て少分の事にて、からきものども渡世の一助に可成程にも無之、其上一旦の事は無詮義に候。一同永續の手當、金石圖置候にしく事なく候間、右の次第能々辨へ可申候。

但町入用に一歩の餘分を加る事は、臨時の入用有之時も、右の餘分を以可相辨ために候間、臨時の入用等有之候共、此度定置金高より不相増樣勘辨可致候。

尤右の内にても猶又減候はゞ、夫々家主共出精の事に付褒美として爲取可遣候。萬一右定の外入用多く相懸り、地主入用増候儀に及候はゞ、早々地主より可訴出、難儀ならざる樣取計可遣候。

一此度一統減書差出候得共、一體不同にて減方少なきも有之、又一向に減なきも相見へ候。再度糺も可申付處、町役人其外至て煩雜の事にも聞へ候に付、先凡糺の趣を以主法相立候事に候間、此上迚も無益の入用有之候はゞ早々地主共可訴出候。右減金は前書割合の通、積金手取増入用の餘分等に加へ可遣候。

但町々より番錢並錢と唱、家別に月々取集候金高も不少候。右は年來の仕癖宜からざる儀に付、右の分は地借店借よりは、向後出させ間敷候。

一右積金等の儀町々永續の備に相成候儀に候。從公儀も御金一萬兩惣町中に被下、右積金に差加、場所をゑらび、追米藏を建致圖救、年々餘金は積置、往々非常の備に相成候樣可致候。尤圖救は格別凶年、實に一同及困窮、飢にも至り可申時の手當にて、常に米價高成節々等渡遣候筋には無之候。割渡遣し候儀は奉行所よりの沙汰たるべく候。

但右積金は、素と地主共より差出候筋に候間、後々に至り惣高も連々多く相成候はゞ、地主共實に難立行災難等有之節は、糺の上にて時宜に應じ貸付、又は相應に金高見計遣し切にも可致候。或は店借の者、老年にて夫並に妻子にはなれ、幼年にて父母を失ひ、いづれへも可使方なく飢にも可及ものには、糺の上手當をも致可遣候。

一右積金取集方致世話候に付名主等へは積金高に應じ世話料相應に可差遣候。

一場末町々の内には地主共手取金無之程成も有之候由右體の場所は素より積金の沙汰には不及候。此度は町法改正に付聊にても手取金相增候分は積金として其七分を差出候儀にて多少を可論筋には無之候。積金無之程の町々は常とても難儀の事火災其の外に付ても困窮は尙以の儀に付右町々へも行屆候爲め旁御差加金も被成下儀にて一體積金の儀は利安貸付等の上可相成は右利分を以積金無之町にも非常其の外の御手當は同樣に可被成下候間左樣可存候。此段右體永續の主法被仰出候は難有儀に付若惣町々の内にも身元相應にて志有之積金に加り度と存候ものも有之候はゞ勝手次第の事に候間其段可申出候。

右の通町中御救として不時の備を立置候。猶取計方の儀は追て夫々へ悉敷可申付右は町方永續の基本に候間名主地主家主共精々申合せ此上町法たがわざる樣永々相守るべきもの也。右の趣町役人幷地主共店々のもの迄も不殘樣可申通候。尤町觸も申付候間其旨可存。亥十二月。

東京市の共有金の基礎

これが其の時分町方の入費を減じてさうして積金をさせました法度の手續でございます。寛政三年に之を定めたと書いてございます。

元來安永から天明あたりにかけて、前申上げまする通り餘程驕奢の募つたところから、一般に其の風習が行はれて、市中の人氣も餘程惡くなつて居つたものと見えます。故に第一に先づ幕府の大奥から改正を加へられた。表方の改正を加へられた事も勿論てございませう。現に樂翁公自身の衣服などは綿服ほか著なかつたといふことが書いてございます。さうして市中の未來までをも考へて斯の如き制度を布かれた。これが遂には東京市の共有金といふものゝ基を作られたのてございます。此の共有金が其の後どういふ有樣に相成つたかと申すと、これがなか〳〵の金高になつて居ります。初めには僅に三萬七千兩此の内からの七歩金は二萬五千九百兩といふやうな少額てあつたが年々是位てはなかつたてせうが追々積んて行つたのが明治五年になつて六十一萬八千百九十六兩其の外に錢若くは預金證書地所なども多數の者がございました。明治の初年に新任の東京府知事は段々此の共有金を府政の爲に使ひましたに就いて共有地所を賣拂つ

た代金が四十七萬兩餘。それから預金利子とか宅地料雜收入などで、明治七年頃には其の合計が百四十三萬兩となつて居る。更に其の後の收入が二十五萬兩餘ありますから、彼此通計すると百七十萬兩ばかりになります。維新後にはそれだけ積金の殘りがあつたのです。其の金は東京府と相成つた後に、東京府知事も市内の共有金といふのであつた所から、これを政府の事に使用するのは穩當でないと考へられて、先づ町會所といふものを造り、之を營繕會議所といふ名に致して、それから府知事の人選で以て今の委員といふ樣なものをこしらへ、共有金支出に就いては東京府知事もしくは其の他の役人だけで之を支出せぬやうにして、何時でも營繕會議所の人々が知事の諮問に答へ、其の議決に依つてこれを處分するといふことになりました。丁度是が明治十二年に府會が開かれる時まで繼續して、其の後は遂に東京府の共有物に相成つたのでございます。此の共有金の事に就いては、私が明治七年に共有金取締といふことをば府知事から命ぜられて、多少使ひましてからでありましたが、今の百何十萬兩といふ金の取締上にも關係いたしました。此の元の起りは何であるかと申すと、前申上げたこの樂翁公の七分金といふのが其の根源であつたので、其の頃からして賢相の善行は此の如く後にまでも大に恩澤を遺して居るものかと喜んだ次第でございます。

東京市養育院と樂翁公

不思議にも其の事が東京養育院と大變緣故が深いので、養育院の今日あるも殆ど樂翁公の積金が元を爲したと謂つてもよいのでございます。但し此の積金が養育院へ這入つた譯ではございませぬ。唯其の一部分を養育院の費途に充てたといふに過ぎぬのであります。養育院の起りをば、樂翁公の御話と混じて申上げるのは煩はしうございますからその事は申述べませぬが、丁度明治二三年頃から貧窮民を收容する所を他の金で設けることが出來なかつたので、今の共有金を使用しました。さうして今日の養育院が出來て、それからは寄附金なり醵金なりで成立つて居るのですが、其の初めには此の共有金で經費を支辨し來つた。右樣の緣故からして養育院は樂翁を最も尊崇いたし、即ち今日は丁度命日であるといふので聊か供物などを致し、被救民等が今讀上げました誓文に對して御辭儀をするといふやうなことに致し來つて居ります。

推察に餘りある公の苦衷

右は樂翁公の或る一部分が現はれて居るだけですから、是て以て樂翁公を稱讃

することは僅かの部分であらうと思ひますけれども、眞に此の賢相の心の用ひ方は斯樣にまで後世に功德が多いかといふことを思ふと、實に喜ばしい次第であります。殊に私は樂翁公が左樣に經濟上に力を致されて、幕政を改革し根本の財政を整理すると共に、其の他或は文學に若くは海防の事にも種々なる方面に力を致されましたのは、敬服の外が無いのであります。誠に能く〳〵の人と見えまして、其の職に在る間は殆ど安心して世の中の事を執られなかつたやうに見受けられます。されば唯々窘々蹙々の人であるかといふと、大に餘地を有つて居つて實に綽々として餘裕があるやうであります。文學風流なども好まれたのである。殊に德川の宗家と如何なる關係であつたかといふことに就いては私は餘程吟味したいと思ひますが、實は十一代の將軍と築翁公との間柄に就いて、尙ほ少しく穿鑿して見たらば、樂翁公の苦衷を更に推察するに餘りあるやうに存ぜられます。寛政五年でありましたが公は其の職を辭された。併し職を辭されましても、尙ほ殆ど十數年は矢張多少參與致して居られた樣に見えますが、全く風月を樂しんで政務に關係されぬやうになつたのはずつと後であつて、公が五十五歳の時でございます。其の時に文恭公は丁度四十歳ばかりになつて居られます。德川の秕政は是からであつたらうと思ひます。是までの間は矢張寛政の政治が行はれて居つた。併しもう文化文政となつては頻りに貨幣改鑄が行はれて居ります。此の文化の末文政の初には、例の水野出羽守が專ら政治を執つて、國帑の足らぬ所から貨幣改鑄といふことが屢〻行はれたのである。して見ると、公が文化九年に全く退隱するといふことには多少の意味があつたらうと思ひますが、其の間の事をば如何に研究のつんだ江間政發氏でも、少しもそれを知ることの出來ないといふのは、誠に眞正なる忠臣であると私は益〻樂翁公を褒めたいのでございます。若し之を地下の樂翁公に御尋ねしたならば、餘程此の間に苦衷があつたと言はれるであらうと思はれる。文恭院最終の驕奢は、樂翁公の心にはさぞ困難に思はれたであらうといふことを察するに餘りあるやうでございます。

安樂翁にあらず

斯う考へて見ますと、他の方面の總てに屆いて居るのみならず、其の職に在る七年間、又補佐に在られたは殆ど十數年間、此の間いかにも風月にも樂しみ、文學も頻りに嗜んで居られるけれども、其の心事にはいかにも安心といふことが無かつた

らうかと察し上げたいやうに考へるのでございます。樂翁公は眞の憂國の士である。卽ち樂翁といふのは天下の憂に先立つて、天下の樂に後れて樂むといふ所から號とせられたので、唯安樂に一生を送つた樂翁公ではなからうと思ひます。樂翁公に對して殊に自分等が餘澤を受けますのは養育院の關係でございますが、樂翁公の心事に就いては深く察し上げる點がございますので、その事を一言茲に申述べて見たのであります。どうか今日の財政界にも樂翁公の如き人を得たいと思ふのでございます。（明治四十一年五月十三日、築地水交社の參集所に開かれたる樂翁公紀念報德會の席上に於て）

大藏大臣の言に多少の懸念あり

八五　財政經濟に對して上下の同喜同憂を望む

大藏大臣閣下及び大藏省の諸各位並に會員諸氏。今夕の晩餐會は鄭重の御催で、大藏大臣、次官、各局長の尊臨を請ひましたのは、時節柄最も吾々が委員長の御厚配を謝する次第であります。殊に御多忙の大臣、次官、各局長、御打揃て此の晩餐會に尊臨を下さいましたのは、會員一同有難く感謝致します。只今大臣（松田正久氏）より財政と經濟と務めて相調和し、或は聯絡し、駢び馳せ、共に進むやうにしなければならぬ。今日此處に尊臨を賜つて、吾々實際其の間に從事するものと均しく會し共に語るは、此の上も無く喜ぶところである。現在は勿論未來も益〻調和し共に胸襟を披いて、此の帝國の財政經濟をして堅固に發達を圖るやうに致したいといふ懇切な御趣意は、吾々誠に御尤千萬、忝く感謝致します。唯其の御言葉の中に、頗る財政の鞏固と仰せられたことは、如何にも左樣でありましたならば、吾々共此の上も無く喜びまするが、若し吾々共の世間の物議の如く考へますると、或は其處までにまだ言ひ得られぬことではないかと、多少の懸念を持つたのであります。

物平を得ざれば則ち鳴る

併しながら大臣がさう懸念するに及ばぬと仰せられたのは、もう殆ど吾々共が雲霧を掃つて日光の輝くを見るやうな感がして、頗る喜ばしうございますけれども、併し凡そ財界の事物は唯うはの空のみに安んずる譯にはまゐりませぬで、定めて是から先追々に左樣の事實を拜見し得ることが出來るであらうと期待致すのでございまするけれども、時節柄兎角經濟界に於ては種々なる懸念說を唱へて、既

に大臣閣下へも或る方面から頻りに彼此と陳情を致し、また求めたといふことを新聞紙其の他で承知仕りまする。或る點から云へば、隨分困つたものだといふやうな物議無きにしもあらずでございます。併しこれは決して怪しむに足らぬと思ふのでございます。古人の言葉にも、『凡そ物其の平を得ざれば鳴る』といふことがございます。即ち今日の經濟界に種々なる聲の多いのは、多少平を失つて居ると云ふ事は事實であらうかと私は考へるのでございます。故に此の平を失へば必ずや其の聲を發する。其の發する聲を能く鳴らせるやうに致したいのであります。どうぞ惡く鳴らせぬやうにするのが、即ち爲政家の御心懸又御手腕であらうと思ふのでございまする。詰り其の鳴るや平調に歸したいと求めて鳴るに相違無いのでございますから、其の鳴る原因を能く察し、其の音の出所を審かにして、而して其の宜しきを制するやうに致したならば、其の鳴りや即ち能く鳴るのであつて、決して鳴り音が世間を騷し物を害することなく、鳴りを和げることが出來るであらうと思ふのであります。

唯々眞正なる同喜

唯今大臣は同喜同憂の位地に居りたいと仰せられましたが、如何にも同憂は吾

同憂を期せん

吾持ちまするが、同喜は今日迄に充分に得られませぬ。此の先吾々共が務めて此の鳴りを鎮めることを盡力致しまするが、又政治上からも大臣の御手腕とし又御經營として、充分に其の事を御盡し下すつて、而して始めて同喜同憂の位地に到りたいと希望するのであります。既に言論も開けて居り又上意も通じて居る聖代ではございますけれども、動もすると如何にも通ずるが如くにして疏隔するのは財政と經濟の間柄でございますれば、今夕の如く御互の存じ寄りは腹藏なく談じ合ひ、又閣下の思ふ所を充分承るといふのが、即ち最も能く上意の通ずる手段と考へますから、獨り今日に止らず、此の如く向後にまて上意の通ずることを希望して止まぬのでございます。果して然らば、眞正なる同喜同憂の位地に達するであらうと考へます。茲に尊臨を辱う致しましたるを陳謝すると共に一言を申上げまする。（明治四十一年五月十六日銀行倶樂部晩餐會に於て）

八六　外交と實業との連鎖

閣下諸君、今夕の晩餐會に井上大使其の他の外交事務に御從事の方々の

却て誹謗の中心に在る獨逸を羨望す

尊臨を得ましたのは、委員長の盡力を先づ以て陳謝します。大使閣下始め皆樣が、此の倶樂部に對して御懇切なる御演說を爲し下されたのは吾々の頗る感謝致します。而して其の御禮も冒頭に委員長から申上げ置きましたから、私が重複するの必要はございませんけれども、唯今井上大使閣下の御演說及び其の他皆樣方の御話に就いて聊か感じました事がございますので、私も一言陳上致したうございます。

井上大使の御言葉に、近來獨逸の諸外國に對する態度が、內にしては平和的に各種の利益を得つゝ總ての事業が進步するに拘らず、他方面から野心のあるが如く看做されるのは、要するに實業の發達が著しいために、他國の嫉妬心を來たすのではなからうかと思ふと言はれた。而して林大使も之に和して、支那に於て其の事實を證明するとまで申されました。吾々外國の事情の解らぬ者でも、或は然らんと察せらるゝことであります。私共は其の事を伺ふと誠に羨しう感じまする。左樣な誹謗なればどうぞたんと誹謗されたいと思ふのでございます。之に反して石井次官が吾々共に御注意爲し下さいましたことは、吾々共のみではない日本の國民は朝となく野となく心を用ひねばなるまいと思ひます。日本の現況に就きましては、兎角に外國の評判の宜しくないといふことは、幸に倉地君が一二の例を引いて商業社會を御辯護下されたやうでございますけれども、併し倉地君の二三の例だけでは未だ吾々滿足が出來ぬのでございます。商賣上の德義の足らぬといふことに就きましては、獨り戰爭以後にのみ言はれることとてなくして、戰爭以前に於ても猶且つ然りと言はねばならぬのでありますから、石井君の御注意は努めて服膺して、吾々未來に左樣な誹を無からしめたいと期待致すのでございます。

軍事設備も或は其の疑を增さしむるも一因ならずや

併しながら此の誹は、或は商業上の德義の足らぬといふ點もございませうけれども、私の辯護かは知りませぬが、林大使の言はれた、萬一の用意には相當の軍事設備をしなければならぬといふ此の設備といふことが或は其の疑を增さしめて、而して吾々にまで其の攻擊を下されたのではなからうかと思ふのでございます。是は敢て林大使に向つて攻擊の言葉を用ひるのではございませぬ。どうぞ惡しからず御聽なしを願ひます。吾々は決して戰爭を嫌ふものではない。軍備の擴張を阻むものではございませぬ。併し國の力に應じて、雙方共に進んで行きたい。

経濟と軍事は恰も車の兩輪の如き關係を持つて居るのでありますから、一方の輪だけ走るといふことは眞正なる進歩ではなからうかと、不斷信じて居るのでございます。林大使は是までの御苦辛に引替へて、多少御樂の位地に御就きなさるものではなからうかと察しまするけれども、伊太利の經濟狀況は吾々今日に之を研究し、之に見習ふといふ時代にありはせぬかと思ひますから、唯閑散になされずして、伊太利の財政現狀を成るべく審かに御調べ下されて吾々に御示し下され、どの程度が適當であるか、斯かる場合だから斯くなければならぬといふことを、實例に就いて見聞の狹い吾々に親しく御通知を願ひたいと思ひます。斯かる容易ならぬ時節でございますから、成るべく御身を閑散の位地に御置き申したくないと希望致すのであります。

伊集院大使に希望す

伊集院君は是から御困難の位地には御立ちなさることゝ察し上げます。併しは既に御自身にも御任じ遊ばして、多々益々辨ずるといふ御趣意と見えて、吾々にも成るべく求めろといふ御注文のあるは、誠に敬服且つ感謝に堪へぬのであります。私は不幸にして支那に向つての關係は甚だ乏しうございますから、伊集院君を煩はすことが或は少いかも知れませぬが、此の席に集まつて居る人々から追々に御願申すことがあるでございませう。銀行者としては少いか知れませぬが、國民として望む所は多いと思ふ。御主人が斯くの如くある以上は、依頼者も亦益々多くあらうと思ひますから、どうぞ未來に於て充分彼の國の有樣を吾々に御紹介下され、又吾々の希望を彼の國に御達し下さることを御願申すのであります。

遠くて近きは男女の間

今夕は外交に御從事なさる方々と、吾々内にのみ居る者と偶然にも御會合を願ひました譯で、一寸考へて見まするとの兩者の性質が違つて居るやうでありますが、其の實甚だ近い間柄と申して宜からうと思ひます。取りも直さず外交官は譬へて言へば男のやうなもの、吾々は内にばかり居るものですから女だ。所謂男は外女は内である。而してまた遠くて近きは男女の間で、外交家と吾々の間柄は甚だ近いと申して宜からうと思ひます。蓋し貿易の發達は外交の手腕に依りませうが、亦外交の活動も貿易の進運に依ると思ひますれば、男女の働きがどうしても國の富强に缺くべからざるものであるといふことは、茲に喋々を要さぬことゝ存じます。諸閣下の御親切なる御教誡を頂戴致しましたに就きまして一言の謝辭を

申述べます。（明治四十一年六月二十五日、銀行倶樂部晩餐會に外交官を招待せる席上に於て）

八七　北日本の旅行

（一）函館經濟倶樂部に於て

余が此の席に於て說かんとする所は我が帝國の經濟談なり。經濟談は余の生命にして、之を除けば他に何等說ある事なし。而して其の說は多く新聞雜誌に揭載せられ居るを以て、之を散見したる人には或は重複にして且つ甚だ陳腐たるを感ずるならん。されど這は余が從來抱持し居る所の思想を陳ぶるものなれば、此の點は豫め了知あらんことを望む。經濟上の話は、之を遠く言へば安政の昔、近くは維新以後に於て大に發達せり。而も其の發達は內に徐々として進みたるにあらず、悉く外部の刺戟或は壓迫に依りて來るものなり。例へば當函館の如きも、其の發達は安政條約の刺戟にして、即ち今より五十二年前、米國ペルリが浦賀に來り通商條約の申込を爲し、國民長夜の夢を破り開國鎖港の議論囂々として起りし結果、日本の將來は開國に如かずとて、林大學頭等遂に下田と函館を開港することゝ爲れり。此の開港にして無かりしならんには、函館今日の殷盛は或は之を望み得ざりしやも知るべからずず。是外部の刺戟に依りて發達せし一例とす。

商賈往來と塵劫記

然るに日本の商業は開國後稍覺醒したる觀無しとせざれども、其の實體は依然薄弱にして、英米まで商業區域となりし事を知らず。勿論當時の商人は教育の程度極めて低ければ、『商賈往來』と『塵劫記』一冊の外何物をも見ず。隨つて其の商業狀態は小賣商と手內職に過ざざれば細流に大魚棲まざると同樣、下田條約に依りて開國の名稱はあるも國內の商業遲々として發達せず。是に於てか明治の商業起らざる可らず。學校としては旣に大學の設備さへ成りたるに拘らず、其の卒業生は多く政治法律家にて、偶〻理科工科の卒業生あるも、此等は官吏或は教員を望みて實業界に入る者殆ど無く、明治十二三年に至る迄商業の振はざること依然として故の如し。

會社組織を見る

日本商業の稍萌芽せしは明治十二三年頃にして、當時外國に行きて歸朝する者は、何人も彼の國の商業を語り、外國に比較して日本商業の振はざることを慨し、或は銀行、或は會社組織を云爲して止まず。此等外部の刺戟が我が商業界に多大の

啓發を與へし機會となりて、銀行起り會社起り、漸次經濟社會に活氣を添へたるが、此の事實に徴し日本の商業發達は平和の時に於て或は展ぶることあるや知らざれども一に事ある後に於て擴張し發達するものなることを領解せり。

船渠製麻銀行

余は明治二年大藏省に奉職し、同六年辭職して實業界に入り、爾來第一銀行頭取となり、旁〻彼方此方と各方面に種々の事業に從事するを以て、他より嗤を受けたることあるが、當地にても船渠會社の組織と維持に與り、また二十銀行の營業に關與し、近頃又人造肥料にも關係を生じ、札幌にては製麻會社或は札幌麥酒會社に關係を爲し居るが、又此の事業も決して平和の中に時々刻々發展したるものにあらず。寧ろ或る機會に接して發達したるものなり。三井及び小野組が、維新匆々の際日本の金融界を支配せしは事實なるも、明治七年小野組は餘りに進み過ぎて破產したり。此の影響は當時の經濟界に非常の恐慌を與へたれば、一般市場は之に鑑みて大に注意を惹起せり。

不換紙幣と松方伯

越えて明治十年西南戰爭起り、軍備缺乏の結果として不換紙幣を濫發し、之が整理の爲め明治十一年より十四年以後の經濟界に多大の打擊を與へ、時の大藏卿松方伯は兌換制度を採用して不換紙幣を收縮せし爲め、十七八年までの市場は一體に沈衰し、十九年に至り兌換制度行はれたるを以て大に市場に活氣を呈したり。此の活氣は二十一年に及び、製麻會社麥酒會社も亦此の時を以て創業せり。然るにこれが反動として、二十三年には金利昂騰し金融甚だ逼迫を告げ、次ぎて二十六七八年には日清戰爭あり、國民は一般に其の戰捷を懸念し豫め警戒する所ありしかば、戰後の經濟界は大に發達し、其のまゝ三十四年に及びたり。併し其の結果は日露戰爭となれり。

日露戰爭

三十七年、政府は軍備の爲め國債を募集するや、內地に於て七八億の國債が立どころに成り、之ありたる爲め外債亦十數億を募集し得られたるは、一に內地に於ける應募成蹟良好なりしに因らずんばあらず。而して此の募債は實際我が國の實力なりや。はた一個のものが二回三回に運用せられたるには非ざるか。戰後財界一時の膨脹は四十年より四十一年に亘り、即ち昨今財界の不振金融の逼迫は、從來の徑路たる一起一伏に外ならねば、余は諸君と共に現內閣の財政方針に對する經濟界の調和に注意することを怠らざるべし云々。

（二）函館の紳士招待會に於て

（明治四十一年夏期北海道旅行中八月十四日、函館實小學校に開かれたる經濟倶樂部の會合に於て）

滿場の紳士諸君、此の暑氣にも拘らず御光來を煩はしたるは恐縮の至りなり。

余は北海道と實業上の緣故淺からず

余は本道に對し業務の上に於て多大の關係を有せり。然るに今日迄無沙汰に打過ぎたるは深く謝罪する所なり。今日の御光來を煩はしたるは、畢竟これが御詫を爲すの微志に外ならず。而して余は是迄本道を訪問して、親しく諸君と相見るを得ざりしと雖も、本道の事業に對しては常に可及的盡力し居りたりしを信ず。事業としては余の關係し居るもの製麻會社あり、麥酒會社あり、人造肥料會社あり、又船渠會社、二十銀行等あれば、自然工業界若くは商業界との緣故淺しと言ふべからず。今回來道せしは多年の宿望を滿たすと共に、昨今新に成立せし人造肥料會社合併の結果之を視察する必要より起れり。又船渠會社は其の成績甚だ憂ふべきものあるを以て、之を實見するを趣味ありとして是亦視察の一目的とせり。

人造肥料會社と船渠會社

元來一國の隆盛を圖るは、産業を興し商業を盛んならしむるにあり。されば余は微力ながらも、本道に於ては直接自家の事業として之を經營するに非ざるも、銀行業に緣故あり。工業而も運輸としては船渠會社に關係を有し、今回更に肥料を造りて農業と接近せんとせり。人造肥料の如きは農業地に非ざる當地には何等緣因なしと云ふ勿れ。當地は海港地なるを以て、單に商業本位となすべしとの意見を有するものあるべし。或は北海道は漁業地たるを以て、漁業を主とすべしと言ふものあるべしと雖も、而も商業地の開發進歩は一に生産品の集散に俟たざるべからず。人造肥料は當道の廣大なる地積を開拓して、巨額の生産品を擧ぐるの手段たるを得ば、同會社の繁榮は當區と何等關係無しと言ふ能はざるなり。また余は昨日船渠會社を視察せしに引上船渠は相當の收利あり。殆ど會社の會計を司るが如き觀あるに對し、乾船渠は甚だ寂莫たるを感ぜり。思ふに各人は共に乾船渠を厄介視し居るもの丶如し。而して同會社の經營に對しては、今日まで容易ならざる困難のありしは同席の松下君を始め諸人の知る所なり。故に或は多少此の感を懷く者あるべしと雖も、焉ぞ知らん、函館は他日二萬噸以上の汽船を入渠せしむる機會に遭遇する無きを。區民諸君は勉强隱忍以て此の時期を待たざる

渠會社

恐るべきは人心の凋落にあり

べかず。而して其の機會は數年後の短日月に來る無きを保せず。

又當區人士中、近來區が其の進歩の遲々たるを嘆ずるものあるを聞けり。元來事物の進歩は或る一定の時期迄其の度著しきものあるも、此の時代を經過せば其の度大に減少するは、恰も彼の圍碁稽古の如く、始は其の進歩著しきも益〻深くして益〻其の進歩の見るべきもの無きが如し。當區は今や此の時代に入りたりと言ふべく、されば非常の事無くんば俄に其の膨脹を望むべからず。然れども此の良港を擁して空しく其の盛衰を要する如きは吾人の取らざるところなり。之を區長に聽く。區は目下港灣修築の計畫ありて防波堤を築き、棧橋を架し、岸壁を造り、以て貨客の集散に便すべしと。果して然らば當區の繁榮日を期して待つべし。今日の時代は拱手空言を許さず。宜しく進んで之が實行の衝に當るべきなり。余老せりと雖も亦奮勵以て諸君と共に活動せんとす。故に今尙ほ實業界に立つて心潛かに微力ながら社會に貢献しつゝあるを信ず。殊に當地は火災の後を承け甚だ煩悶しつゝありと。それ地上の家屋の燒失するが如きは何の憂ふる所あらんや。折角の港灣を控へたる上は之を利用するの方策を講じ、貨物の集散益〻多きを加ふるに至らば、家屋の如きは容易に築造することを得べきなり。大火の打擊は少からずと雖も、人心の凋落は終に如何ともすべからず。唯奮進猛鬪するに在るのみ。是災後經營の秘訣なり云々。（八月十四日函館公園内共同館に同地の重立ちたる人士百餘名を招待したる席上に於て）

維新以來經濟界長足の進歩

（三）小樽歡迎會に於て

諸君、今夕は不肖の爲に斯かる盛宴を張られ、親しく諸君と見ゆることを得たるは感謝に堪へず。椿區長の余に賜りたる賛辭の如きは、殆ど溢美とも云ふべきものにして汗顏の至りなり。多年實業界に在りたる不肖の所感は、或は諸君の御參考になるやも知れざれば一言すべし。

維新以來我が經濟界は實に長足の進歩を爲せり。初め商工業を賤視せる習慣も漸次に打破せられて、政治軍事以外に實力の養成即ち實業の振興を必要とするに至りたるも、當分は充分なる實蹟を擧げ得ざりしに似たり。凡そ物は刺戟に由つて發達す。此の意味に於て戰時事變の如き、慥かに有力なる一動機なりと信ず。昨日來當港を視察して其の發展の著しきに驚きたるも、畢竟するに其の大部は皆

事變の賜なりと信ず。試みに經濟界の事蹟に徴するも、我が國は日清日露の二大戰役を經て、茲に驚異すべき大進歩を見るに至りたり。殊に三十七八年戰役の如きは曠古の一大事變にして、朝野の心勞一方ならざりしより、余は三十六年の秋より大患に罹り、開戰當時は殆ど世と離隔し居れるを以て親しく與れるにあらざりるも、當時鮟鱇の汁を啜りつゝ我が同業者と桂首相とが、三十七年の一月一億圓の戰費を國債に求めんことを相談したるに、何れも六ヶ敷き事に思ひたりとの事なりしが、それも無理ならぬ事にて、十二三年前の二十七八年戰役には、僅に三千萬圓の國債に苦き經驗を嘗めたる者が、十年を隔つるのみにて三倍以上の起債を試みんとする者なればその成否を疑はざるを得ず。斯く苦心せりとて今日尚ほアンカウ會は繼續されつゝあり。然るに其の實行の結果は忽ちにして第一回には約三倍の應募あり。引續き二回三回(余は此の時病氣回復)と重ねて、終に前後六回に七億圓てふ巨額を何程の苦勞も無く起債し得たるを見て、始めて我が經濟界の實力の侮る可らざるを自覺せり。抑、我が國債の嚆矢たる、明治十一年一千萬圓の事業公債を募集すべく大藏大臣の依囑を受けて京阪地を遊說し、辛うじて目的を達し

天下の事悦ぶ可くして悦ぶ可らざるもの多し

得たる當時と今日とを比較し來れば、眞に隔世の感無き能はざるまでに非常の進歩を遂げたるなり。勿論二大戰役の如きは、國民の實力以外に擧國一致てふ觀念の大なる力となれることあるべきも、要するに國力發展の結果に歸せざるを得ず。誠に悦ばしき事なり。

併し天下の事喜ぶべくして喜ぶべからざるもの多く、却て弊害の由つて生ずることあり。如上の結果より國力を過大視せる政府當局者は、尨大なる戰後經營の方針を立て、財政と經濟の調和を破り、甚しく實業界に打擊を加ふるに至れるは遺憾なり。國力の過信は獨り政府のみならず、民間に於ても同樣にて企業熱勃興し、彼の南滿鐵道の株式募集に十六倍てふ異例を示したるを始め、全國到る所事業の計畫を見ざるなく、株式價格の暴騰となり成金黨の跋扈となり、財界は甚しく亂調子を呈したる反動は、忽ち急轉直下經濟界を窘蹶して事業界を一時に萎縮したるを爲め、金利は昂り資金は固定し、遂に破產倒產を續出するに至れり。此の時に當り、過大の財政計畫は國民經濟を壓迫し來る。經濟界の前途殆ど光明無しと謂つべし。見よ軍事公債事業公債の加算は實に三十億圓の巨額に上れり。之を整理せ

んと欲せば、獨り內債若くは外債に偏倚せず、宜しく內外債を通じて長期償還の方法を確立し財政の基礎を强固にせざる可からず。而して內外の信用を回復し、商工業の活動に遺憾無からしめざるべからず。仄に聞く所に依れば、今回桂首相が躬ら大藏大臣を兼攝せるは戰後經營の過誤を自覺し、過大の計畫を縮少して財政の整理を斷行せんと欲するにありと。是或は眞なるべし。

此の際吾人の執るべき方針可き方針

此の際我々實業家の執るべき方針としては、我が國の進步は常に他の刺戟鞭韃を待つ迄もなく、自ら積極的行動の作れる機運に乘じたるを思ひ、飽く迄國家公共の爲に活動し盡瘁するの決心なかるべからず。是余の希望也。元來一人一家の爲にする富豪輩は、寧ろあらずもがなと確信す。彼の公債利子の坐食者、土地所有者の自然收入、ちび〳〵金を貯めて高利で貸付くるが如きは、余の大に反對し且つ嫌ふ所なり。口を開きて天を仰ぎ牡丹餅の落ち來るを待つが如き卑屈の觀念を去つて、飽く迄其の時其の場合に臨んで自個の知識と力とを充分に活用してこそ始めて眞正の富は得らるべきものなれ。

小樽も既往の如く將來も亦長足の進步を見るならん。然れども自家の利害のみに執著せず、克く本道否國家全體の進運に資すべく努力せられんことを希望す云々。（八月十八日小樽に於て爲したる演說の要旨にて小樽新聞に掲載されたるものなり）

早く視察せざりしを憾む

（四）札幌に於ける演說

私は明治四年より本道に關係致しましたが、爾來年々其の關係が多方面となり、且つ歲々密接となつて來たのでありまする故、是非一度は本道に足を入れて見たいと思つて居りましたが、何分多忙の爲め其の目的を達せずして茲に三十年。今回幸ひ寸閑を得まして、親しく本道の實際に接觸して年來の宿望を遂げたのは快事であります。尤も本道の事情に就いては、是迄各種の報告、又は人々の談話、新聞紙等に依りて承知致し、色々に想像して居りましたが、扨一度足を本道に入れて親しく其の實地を觀察致しますに、自分の常々豫想したとは甚だ異なる點が多いので、私は今、更の如く早く本道の實狀を觀察せなかつたのを深く遺憾に思ふのであります。例へば本道の富源である。木材の如きも處々に木材會社が設置されて居るから、餘程伐り竭されたであらうと思ひましたが、今回來て視ますれば、函館小樽等の入

口てすら尚ほ到る所鬱蒼たる森林を散見したのてあります。又小樽築港に就いも今春長官の意見も伺ひましたが、當時私は膨大に過ぎはせぬかと思つた位てある。然るに今其の實際を視まして、寧ろ其の計畫の遲きを認めました位て、同港は獨り本道の良港のみてなく、實に天下の良港てあると言ふも過言てはない。（中略）

將來有望なる北海道の農業

鐵及び石炭は世界の文明を振動致しましたが、此の鐵や石炭所謂自然の物貨は決して無限の物ては無い。而も人口の增殖は殆ど無限に增加し來たるのてある。本道に參りまして私は此の說の理ある所を實見致したのてあります。何となれば、本道は由來天然の石炭又は水產等の大富源はありますが、是は漸次採掘し又採取し竭さるゝのてある。然らば吾人は如何にして無限の富を得るかと云へば、農業より他に之を認むることは出來ませぬ。殊に本道の如き廣漠たる原野を有する土地に於ては益〻產業の發達を圖らねばならぬが、此の土地なるもの其の使用の如何に依つて生產に非常の多寡を及ぼします。幸に近年人造肥料の製造等益〻勃興して、土地の生產力を增長するのてあります。斯く申上げますと私は人造肥料會社を經營して居りますから、自分の營業を廣告する樣てありますが、決して自分一人の爲てありません。全く本道の拓殖を進め延いて國家の富を增進する者てありますす云々。（八月十九日札幌の紳士百餘名を同地の豐平館に招待したる席上に於て爲したる演說の要旨にして北海タイムスに掲載されたるものなり）

（五）札幌歡迎會に於て

今夕は自分の爲に盛宴を張られ、親しく諸君に見ゆることを得たるは感謝に堪へず。北海道の開拓は明治維新の際より著手せられたるが、昨日も述べたる如く明治六七年の頃より自分は北海道の事に關係し、二十年以後は事業上の關係ありしに拘らず、四十一年に至りて漸く來道したる譯なれば、何故に早く來道せざるやと諸君に責めらるゝことあらんと思ひしに、斯く迄招待を辱うするは、諸君が自分を愛せらるゝの深きに由るものと存じて一層感謝に堪へず。

其の進歩發達は乘組員一同の責任

さて先刻長官との談話中に最も趣味ある言葉を聽きたるが、そは外ならず。『北海道に於て開拓の事業に盡力する者は同一の船に乘つた樣なもので、其の水先案內とか或は船頭とか云ふものは長官てあつて、其の役目は充分に之を盡す積りだが、船の完全に航海するのは船頭のみの力てはない。其の乘組員一同が一致協力

して、各、其の事務に勉强せねばならぬのである。澁澤御前は北海道の事業に關係もあり、且つ折角來道したのは卽ち同船の人と成つたのである。長く引留めると は言はぬが、旣に同船の人たる以上は能く北海道の事情を調べて、歸京後も乘組員の一人として應援して貰ひたい』と云ふにあり。是誠に面白き說にして、地方の繁盛を期し、其の事業の擴大を現すは他人の庇護應援に由らざるを得ざるなり。是獨り北海道のみにあらず。日本の本國も亦同樣にして、現に外國の庇護應援に由りて事業の進步發達を期せんとしつゝあり。本國旣に然れば、北海道が他の力に由りて其の進步發達を計るべきも亦當然のことにして、之を爲すは一に乘組員一同の責任と云はざるを得ず。

北海道の金融事情は札幌の家屋に等しからん

昨日は農產的工業に就いて談話を試み、且つ農業工業に力を入れるは拓殖を進むる所以なりと存するが、事業を起すには必ず金融のこれを伴ふもの無かる可らず。當札幌區は市街廣く西洋風に出來て立派なれども、家屋の矮小なるは遺憾なりと昨日申したるが、北海道の金融事情も亦當札幌區の家屋と同じ例には非ずやと思ふ。北海道は事業多く其の前途は希望を以て滿たさるゝも、資金無くんば如何ともすること能はざるべし。幸に自分は銀行業者にして金融機關に關係あれば、成るべく之に付いての御助勢を致すべし。我が國の財界は戰後の膨脹に困難を極め、之を恢復するには財政の整理と軍備の緊縮に待たざる可からず。故に自分等は當路者に向うて其の希望を述べたるに、內閣に於ても亦輿望を入れて財政整理軍備緊縮を行はるゝ模樣なれば、財界の前途は旣に光明を認めたるものにして、實業家は之を悲觀し又は事業の著手に躊躇する等の必要あらず。唯金融の實際上に就いて如何に之を利用するか。又如何に有益に其の金は使用せらるゝかに注意するを要するのみ。

一人非成之也

函館到著以來實地の模樣を視察し、小樽に來つて其の港灣の良好なるを見當區に於て其の市街の立派なるを知り、田畑耕耘の事も商工諸事業の景況も多大の希望を屬するに足るとせば、船の乘組員は概ね能く働き、幸に船長も亦其の人を得たりと信ずるなり。乘組員一致協力すれば必ず好成蹟を擧ぐるを疑はず。併し事物は一朝にして成るものにあらず。多年の辛苦と多數の協力に由りて成るものなれば、速成を望まずして他日の大成を期せざる可からず。古人も『智者創事能者

述之、一人非成之也』と言はれたが、諸君の之を諒承あらんことを望む云々。（八月二十日札幌有志家の歓迎會席上演說の要領にして北海タイムスに掲載されたるものなり）

（十八）青森歡迎會に於て

この度は家族を連れて避暑かた〳〵北海道を觀光に參りましたので、去月（四十一年八月十一日東京を發し、二十日間各地を巡視して今日漸く御當地に著きました。青森も初めてゞありますから、市街の模樣を一見せんと思ひ一泊することになりました。

小樽に居りました時樋口商業會議所會頭より當地有志の希望なりとて、歸途一場の講話をしてとの御書面はありましたが、別に申上ぐる樣な御話もありませんが、互に談話を交換することは研究の爲ですから、若し一泊することにもなれば折角の御企を無にするも御氣の毒であるから……との御返事を出して置きました所が、皆さんは斯く多數御集りになり、盛大なる席に案内せられたのは實に汗顏の次第であります。

關係ある事業

二十日間北海道の各地を巡り、各事業を見て參りましたが、視察したる事業中炭礦會社、麥酒會社、製麻會社、二十銀行、人造肥料會社等は、過去又は現在に於て何れも關係を有して居る事業である。炭礦は皆さんの御承知の通り、北海道の開拓に與つて力あることは尠少ならず。麥酒會社も今では三社合併して相變らず盛んに製造して居る。製麻會社も今では產出高も多く、是亦盛んに各地に輸出して居る。人造肥料會社は東京の會社と合同して、函館のは東京の分工場となつて居りますし、二十銀行も樞要の地に支店を有して金融の便を圖つて居りまして、何れも相當に發達して北海道の民業を大に助けて居ります。

政府と北海道

私共の見るところでは、北海道を進歩せしむるのには、交通機關を發達せしめて民業を盛大にするにあると思ふ。彼も政府此も政府と、常に政府の干涉誘導を被りて居るうちは眞正の進歩は覺束ない。事物の眞正の進歩は自修的奮發にある。例へば教育にしても所謂注入的では駄目で開發的でなければならぬ。即ち外から引き伸ばさるゝのでなく、內から生長するのでなければならぬ。北海道も最初は唯政府の手で飴を伸ばすやうに伸ばして居たもので、其の爲め眞正の進歩、內部

からの發達を見ることは出來なかつた。

岩村長官の相談に應じた回顧談

明治十九年に道廳は成立して、岩村通俊氏は最初の長官になりました。其の時である。岩村長官は重なる實業家二十四五名を集めて相談があつた。私も其の中の一人で相談に與りました。其の相談といふのは、北海道の拓地殖民を發達せしむべく如何に經營すべきかといふ相談なので、卽ち幕府時代に於ても露國との關係上、又下田函館兩港の開港問題などに就いても北海道を等閑視しては居ない。明治政府も開拓使を置いて十箇國の富源を開拓することに努めたがどうも發達をしない。其の効果は實に少いやうだ。今度自分が行つて如何なる方針を取りて然るべきか、遠慮無く意見を洩されたいといふのでした。

其の際私共の陳べたる所見の大要は、鐵道を敷設して交通を便にすること。漁業稅を減じて水產を盛にすること。農業は麥と大豆のみでは困るから、規模を大にすると共に副業的工場を起すこと。其の他礦山牧畜等の民業を盛にして、北海道民をして自修的奮發せしむるにあり。約して言へば、從來の政府本位を變更して實業本意にするにありといふにありました。私共の北海道に對する所見は斯の如くなりし故に、先刻申したる炭礦會社、製麻會社、麥酒會社等を起したのも又關係したのも其の主意からで、卽ち北海道の民業を振興せしめて富源を開拓し、以て道民の獨立自治の念を發達せしめんとするにあつた。今回各地を視察したるに、或るものは想像以上に盛大に無つて居る。兎に角北海道の事業は順當に進步して居ると評して然るべしと思ふと共に、私共の最初岩村長官に陳じたる所見に大なる誤は無かつたと感じました。

北海道見聞

地勢上函館は北海道の咽喉であるが、小樽札幌等の發達の爲め、或は多少繁榮を減却せらるゝこと無きかの虞無きにあらざるも、而も函館は函館だけ蓄積したる力もあることゝ、函館區民にして能く世の進運に伴ひて活動し行くの覺悟だにあらば、何時までも其の首位を占むることは出來るであらう。但し昨年の大火災の如き大打擊を被りては特別であつた。小樽の發達は實に豫想以上であつた。昨年より不景氣の聲高きに拘はらず、小樽の地價は益〻騰貴して、町の上にも人の上にもなか〳〵活氣があります。惜むらくは未だ港灣は滿足でない。有志者は是非港灣を見てくれとて小蒸氣に載せて案內してくれましたが、若し第二期防波堤が完

成するならば實に立派なる貨物集散地となり、今日に數倍する繁榮を來すことなるべく、前途好望であります。札幌の道路は廣くして且つ平坦に立派なものですが、家屋は比較的粗末にして道路に伴はない。而して其の附近一帶は勿論のこと、石狩原野は旭川に至るまで能く開拓せられて居るといふべしで、こゝまで發達をすればもう後戻りするやうなことは無からうと思はれます。旭川から向ふ帶廣驛の手前に、私は一の農場を有つて居りますから其處に參りましたが、十勝原野は未だ石狩原野の如く開拓せられて居りません。若し此の廣漠たる十勝原野が開拓せらるゝに至らば、北海道の富を增すこと頗る大なるものならん。私は偏に此の原野の開拓を祈りつゝ釧路に出で、それより室蘭に至りました。

室蘭は前途多望の港灣で、私は愉快なる情を以て觀察しました。室蘭の繁盛に與つて最も有力なるものは炭礦である。實に石炭は室蘭繁盛の生命ともいふべきである。而して炭質の最も好いのは夕張炭である。過般新に石狩石炭會社が組織せられましたが、これも亦盛に經營をして居ります。是等の炭の十分の八は室蘭より船積にせらるゝのであります。同地に於て日英資本家共同の下に成る製鋼所が出來る筈である。而して此の製鋼所に供給する鐵を、噴火灣より收集する砂鐵を以て製出する製鐵所が、炭礦汽船會社の一營業事項として設立せらるゝ筈である。此の製鐵所及び製鋼所の愈設置せらるゝ曉には、室蘭の繁盛は著しき勢を以て增加するであらうと思はるゝ。日英同盟は我が國に多くの便宜を與へて居る。併しそれは政治事業の同盟であるが、我々實業界にあるものは實業同盟を實行して進歩を計らなければならない。我が國の進歩はペルリ來航以來の外國の刺戟に依りて得たるものと云ふべしである。能く外來の刺戟に發憤し、又能く外人と握手して事業の發達を計ることに努めなければならぬ。併し外人と事業を共にすることは、大なる注意と大なる思慮とを要する。若し一歩誤るときは彼等の奴隷とならぬとも限らない。故に何處までも對等の同盟の下に進路を計るやうにするにある。此の邊の呼吸を忘れてはならぬ。室蘭に於ても小蒸氣にて灣内を視察しましたが、矢張防波堤を設けて西北の風を防ぐつもりで設計しつつあります。棧橋は鐵道院にても、炭礦汽船會社にても、はた製鋼所製鐵所に於ても皆設くる計畫である。砂鐵を以て鐵を製することは昨今試驗中である。各地

を視察して室蘭に至り益〻私共の明治十九年北海道の經營に就いて岩村長官に陳述せる意見に誤りの無かつたことを確め、政府は能く吾々の希望を容れて施設されたりと愉快に觀察をしました。

前に申上げたる通り、御當地には初めて參りたるもの、先刻川田書記長の案内にて市中を瞥見したばかりにて、是ぞと御話するやうなることは未だ胸に浮びませんが、愚見をちよつと申上げて御高評を煩はしたい。

我が國の實業

我が日本の實業の進歩は途程に上りてより僅に四十年の歳月を經たばかりである。御維新以前の商工は、今の所謂實業の意味が成立して居ない。商業は小賣てある、工業は手職てある。誠に憫むべきものてあつた所が、歐米と交通の開けてより商工者氣込は一變して、其の範圍は擴大せられ、一般の力量も增加し、御互に品格は大に高められた。併し場所に依りては短所もあり、長所もあり、又實業家が自己の任務を自覺しない所もある。前に申上げたる通り、北海道も其の初めは飴を伸ばすやうに政府の手で引伸ばしてばかり居たもので、内部よりの發達は無かつたのだ。然るに近年實業家の自覺的發展の爲め民業は大に繁盛になり、内地よりの觀光者をして目を聳てしむるやうになつたのてある。元來我が政府の遣り方は、政治の力が勝つて民業は第二第三となつて居る。所謂頭重く脚輕しの弊がある。だから人民は何所までも自修的の發展をするやうにしなければならぬ。

御當地は海産もさることながら、林業は大に發達せしめなければならぬ。ところが此の林業に伴ふべき製材業は如何といふに大林區署てやつて居る。個人の資本て計畫したものに、これと比肩するに足るものは無いやうだ。元來此の官業といふものは餘りに世話燒き過ぎるもので、人民の企業心及び獨立心を消却せしむるから私は非常に嫌てある。ところが近頃は保險業も官業にしなければならぬの、銀行も官業にしなければならぬの、酒造も官業にしなければならぬの、何の彼のと總てを政府の手に營ませんとするものもある。若し斯かる有樣とならば、昔の小賣、手職に後戻りして、實業界の意氣は萎靡し、人民は盆池に飼はれた金魚同樣となつてしまふてあらう。右の理由に依りて私は官業を好まぬ。民と利を爭ふといふことは、政府たるものゝ行ふべき性質のものてはない。また民業にしても一人て富を集むるやうなことは好まぬ。相共に進歩し相共に富を得るやうにし

なければならぬ。

青森市民に警告す

先刻瞥見すると市内に煙突は見えない。尤も御當地は農産地であると云はるるか知れぬが、農業ばかりて此の地の繁盛を期せんとするは、それはちよつと出來難いことてある。前に申上げたる北海道の狀態に就いても、農業ばかりて發達することの出來ぬのは明瞭てある。それに附帶する工業は最も必要てある。內地人は北海道の開拓に對して相當なる負擔はある。殊に當地は內地の盡頭、北海道と相對するからには一層重い責任があるのだ。然るに却て諸般の點に於て北海道に劣るやうなことがあつては、皆さんは何の顏ありて新興地たるの北海道に對せんとするか。また當地に於て最も前途の有望なる林業に附帶する製材所の如きも、民業に依りて計畫をされずに官營てあるのは遺憾てある。政府も政府てあるが、手を拱して默つて見て居る市民の態度も、其の意氣稱すべしといふ方てもなからうと思ふ。御馳走に預りて惡口を言ふやうてあるけれども、御一考を煩はしたい。今申げたる通りの次第て、米と麥ばかりては仕方がない。大に工業をも起し、以て青森港として集散の途を講じなければならぬ。斯くして此の土地を富ましめんとせば、先づ此の土地と關聯する土地を富ましめよ。古語にも『己達せんと欲せば先づ人を達せしめよ』といふことがある。敢て愚見を述べて當市民の一段の奮勵を望む云々。（九月十一日北海道よりの歸途青森の有志歡迎會に臨みて爲したる席上演說の要旨にして東奧日報に掲載されたるものなり）

八八　實業上の日米親善

閣下、淑女紳士諸君。本日は片田舍の手狹き陋屋に尊臨を請ひし所、米國大使閣下始め遠來の佳賓打揃つて尊來せられたるは余の深く光榮とする所なり。

曩に我が東京外四箇所の商業會議所より、米國大平洋沿岸の各都市商業會議所に對し來遊の意を通ぜる際、余は大に之を贊同し欣喜に堪へざりしも、政治上經濟上多忙なる諸君なれば、果して來遊を得るや否や氣遣ひしに、今や斯く多數の佳賓と相見ゆるに至りしは深く喜ぶ所、我が帝國の光榮と云ふも過言に非ざるなり。

余は個人として特に感謝す

依つて余は茲に滿腔の熱誠を披瀝し、遠來の佳賓に一言歡迎の意を述べんとす。

抑〻各位の渡來は我が商業會議所の懇請に依ると雖も、又我が國の風俗人情を見且つ實業上の氣脈を通ぜんとの目的も存するならん。されど余は各位が更に大

なる意味を有し、特に來朝せられたることを信ず。故に各位の來朝は商業會議所の感謝する所なるのみならず、我が國民全體の大に感謝する所なり。而して余は個人として特に感謝する所以の者あり。蓋し余はもと不肖の身なりと雖も、我が維新以後世務に從事すること既に四十年、此の間明治六年官を辭し、國家の富强は商工業の眞正なる發達を計るにありと肝銘し、爾來實業界に身を投じ、歐米に行はるる合本組織の方法を學ぶの緊要なるを知り、之に依り今日迄商工業の爲に聊か盡す所ありたり。故に歐米の商工業家には努めて接近し、相互の情意を通ぜんと欲し之が歡迎を須臾も怠らず。銀行、鐵道、航海、其の他各種の事業に關係する外、東京商業會議所會頭として前後二十七年間其の職に在りて、貴國グランド將軍の來朝されし際も之が歡迎の任に當り、畏くも我　今上皇帝陛下(明治天皇)の上野御臨場を請ひ、尙ほ夜會演劇等に依つて歡迎したるを今尙ほ記憶す。畢竟余は相互の情意を通じ、彼我の利益を增進せんとするが故なり。唯それ商工業の事項に至つては、斯くするも尙ほ意の通じ難き恐あるが故、余は更に明治三十五年歐米旅行を企て、其の際我が國商業會議所聯合會の依頼を受け情意の疏通を計らんと欲し、貴國に赴いても紐育、桑港、市俄古、慕斯頓、費府等の商業會議所を訪ひ其の意を通じ、懇切なる待遇を受けたることを記憶す。爾來歐米との我が國交の進歩は種々の原因に依りしと雖も、其の商工業者との親善の增進は蓋し前述の効に依ると云ふも敢て溢美にあらざるを信ず。故に各位の我が國に渡來せられしは、己自ら之を請願せしに因るが如き感無くんばあらず。是今日特に此の小宴を開きて各位の光臨を辱うしたる所以なり。

日米兩國の親善

然り而して日米兩國今日の親善は實に既往に於て深き原因ありし事を忘るべからず。回顧すれば五十五年前貴國の使節ペルリ提督來朝せられ我が長夜の夢を破り、又ハルリス公使來つて通商互市に關し深切に懇諭指導せられ彼我條約を締結せられたる其の好誼は、今尙ほ我が國民の肝銘して忘る能はざる所にして、我が國民が衷心米國を以て先進國となし、常に師友の如き感想を抱持して、今日に至るも毫も渝る事無きは、余の斷言して憚らざる所なり。故に兩三年前貴國太平洋沿岸に於て就學兒童問題、移民問題、勞働者問題に關し厭ふべき風說を傳へ、事を好むの外字新聞紙は喋々不穩の記事を掲げしかど我が日本國民は聊も意に介せざ

國運の發展は貴我實業家の手腕にあり

りしが、今般各位の我が國に來航せられて、相互の懇情は事實に於て更に昔日に增すものあるを見るが故に、前記の風說の如きは雲散霧消して其の跡を留めざるに至るを余は確信して疑はざる者なり。

想ふに將來國運の進歩は實業の發展に待たざる可らず。而して其の之を發展せしむるは貴我實業家の手腕にありとせば、各位と余等とは其の責任重且つ大と謂ふべし。而して實業の完全に發達擴張するは、一に社會の平和に歸すべしとせば、自今以後貴我相提携して之に勉めざるべからず。蓋し黄金世界も極樂淨土も人の力によりて得らるべきものならん。今太平洋の水廣しと雖も、貴我兩國の力を以てせば之を一衣帶水と爲すを得べし。現に各位は我が國に於て製造せる天洋丸に乘りて、從來の航程より三日も早く我が國に到著せられしにあらずや。又日の丸の旗と連星の旗とは其の模樣同じからずと雖も、之を裁縫して衣服とせば頗る優美の觀あらん。現に各位は昨夜の横濱正金銀行晩餐會の餘興に於て、舞妓の演技に對して拍手せられしにあらずや。余は再び五十五年の昔に遡りて、明後日横濱港に進ませらるゝ貴國の艦隊を以てペルリ提督の率ゐられしそれに比すれば、今日會同せられたる各位を以て當時のトウンセント、ハルリス君に比せんと欲す。閣下、淑女紳士諸君、余は終に臨みて茲に杯を擧げて、謹んで閣下淑女紳士の健康を祝す。（明治四十一年十月十六日、飛鳥山邸に米國太平洋沿岸商業會議所代表者一行を招待したる席上に於て）

八九　米國實業團の來遊を歡迎す

閣下諸君。今夕は當東京銀行集會所の同業者が申合せまして、北米合衆國から遠來の佳賓を今夕此處に御招き申上げました次第でございます。御著京以後各位には種々御多忙の際にも拘はらず、吾々の懇請を御容れ下すつて今夕尊臨を賜はりましたのを、吾々銀行同業者は厚く感謝仕ります。茲に一同に代りまして私は一言の謝辭を申上げます。尊臨を賜はつた諸君は、合衆國の西部に於ける實業者の粹を拔いた方々である。吾々も銀行者として長く經營して居るものでございます。御互に實業者である。今夕は此の實業の御話を緩りと申上げ又伺ひたいといふのが趣意でございまして、吾々共此處に開きました宴會は禮式を省くのみならず、御互男子として平常最も親しむべくして或る場合には最も厭ふべきも

のをば、此の宴會には除きました次第でございます。故に諸君はどうぞ打寛がれて、充分に歡を御盡し下さることを希望の至りに堪へぬのでございます。

米國に謝すべき二つの意味

米國が吾々日本に對して種々なる恩惠を與へて下すつたことは、最早喋々を待ちませぬのでございます。又諸君の今般我が國に尊來せられたことも、各商業會議所が懇請を致した結果とは申す條、併し私は尙ほ外に深き御意味を含まれて居ることゝして最も深く感謝する所でございます。殊に吾々は昔に遡つて二つの意味を以て米國に謝さねばならぬと思ふのでございます。若しも五十五年以前にコンモンドル、ペルリが我が日本の眠を覺して下さらなんだならば、日本の文明の大に後れるといふことは論を待たぬのである。是は國民として深く米國に負うて居る所でございますが、私は其の外にもう一つ自家の本分として大に米國に感謝せねばならぬ事柄を申述べようと思ふのでございます。

元來日本の維新以前の有樣と申すものは、長い間封建制度が傳はりました爲に、總て世の中の各種の事業は多く政治の力を以て支配すると云ふ風習が强かつたのでございます。それ故に商業工業、又之を取扱ふ所の商工業者、何れも社會から頗る卑下されて居つたものでございます。私は最早七十に垂んとして居りますから、四十年以前のことを相當に記憶して居りますが、此の席に列つて居る同業者は多くは耳で聽いたばかり、目で見た人ではないのです。しかるに其の頃ほひの商工業と云ふものは第一に其の區域はどうかと申すと、日本より外へは出ることが出來ぬ。日本だけに限られて居つたのです。而して日本の重なる物産は皆政治の力に依つて運搬されて居つた。故に商工業者は、其の政治の勢力に依つて運搬された物品を、僅かに小賣をするに過ぎぬのである。又其の工業は僅かに手職業に過ぎぬと申して敢て過言ではないのでございます。故に此の商工業者が社會から卑下されたといふのも亦宜なりと申さねばならぬのでございます。凡そ國家の富强は物質的の發達、言葉を換へて申せば商工業の進歩にあるといふことは、亞米利加歐羅巴先進國の既に定論と申しても宜い世の中にあつて、前に申述べる如き日本の實際であつたならば、假令政治上の文明は一歩進むと雖も、眞正なる文明の域に達することの出來ぬといふ事は、多言を待たずして明かな譯である。而して其の位地に從事する商工業者としては最も之を痛歎せねばならぬのであ

ります。然るに第一に亞米利加、續いて歐羅巴の國々からして、國家の未來はそれてはいかぬといふ好い手本を段々に與へられたに依つて、吾々商工業の方面も大變に廣くなり、又吾々商工業者の經營すべき區域も大くなり、且つ其の商工業者の人格も高くなつたといふことが、是が第二に亞米利加に向つて吾々が大に謝辭を申さねばならぬ理由でございます。

日本に於ける銀行業の狀態

幸に、第一に亞米利加歐羅巴の先進國の實業を重んずる美風が、維新以後大に我が政治界に皷吹されまして、同時に亦吾々實業家それ自身も最も之を盛にせねばならぬと云ふ觀念が進んで參りました。其の以來の景況は言葉で申上げても或は明瞭を缺きまするで、茲に數十年の有樣を假りに統計に致しましたる數字を申上げて、諸君の御聽取を請ひたいと思ふのでございます。

第一に私が申上げねばならぬのは、其の事業中の最も吾々に適切な、卽ち此の銀行事業でございます。此の銀行事業が如何なる有樣で日本に開けたかといふことを申上げるは、多少興味あることではないかと思ふのでございます。日本には維新以前に稍資產を持つた人もあり、金の貸借といふことも無いてはなかつたのでございます。さりながら銀行として經營するといふ習慣は、未だ四十年前は無かつたのでございます。此の銀行の起りは明治二年十月に、伊藤公爵が亞米利加に參りまして、千八百六十年に制定されたる亞米利加の國立銀行法といふものを調査して歸られまして、それを一つの模範として遂に明治五年、卽ち今を去ること三十六年前(明治四十一年より起算)に銀行の制度が始めて日本に生れたのでございます。此の銀行の成立は、其の經營に就いて種々なる意味を含んで居りました に依つて、細い事情を申上げるのは、此の食卓の一場の演說には盡せませんけれども、蓋し日本に銀行の生れ出した時は、亞米利加の制度に則つたといふ事は、是は千年經つても爭ふ可らざる事實と申上げねばならぬのでございます。而して爾來十年を經過して明治十五年に至りまして、亞米利加式を聊か變更して今日の銀行制度は卽ち——此處に日本銀行總裁も出席されて居りますが——比較して見ますれば稍英吉利の制度に變更されたと申さねばならぬのでございませう。が併し源を質せば矢張亞米利加の式を先づ摸倣して、日本に銀行は生れ出たと申して決して差支は無からうと思ふのでございます。銀行の成立は右の如くでありま

すが、此の銀行が如何なる度合に依つて進歩して來たかといふことを茲に陳情致すのも、既往を知るの一端にならうと思ひます。其の初め今申上げましたる亞米利加式に依つて銀行の成立しましたのは明治十一年頃でございます。此の十一年頃迄に成立した銀行の數は漸く百五十一二でございました。然るに爾來十數年を經まして二十七八年即ち日本が支那と戰爭を致しました頃ほひの數を調べますると、丁度二十八年末の銀行の數が千十三行となつて、其の拂込資本が一億二千七百萬圓、又總ての預金が僅かに一億九千萬圓位の高でございました。然るに三十六年に至りますると、其の行數が倍して二千二百七十五と相成りまして、拂込資本の數も三億七千四百萬圓と相成りました。又銀行の預金の總數が七億七千萬圓まで進んで參りましてございます。而して此の四十年の總計を見ますると拂込の數が四億四千四百萬、總ての預金の合計が十七億九千萬と相成つて居りまする。

會社事業の概況

右は銀行資本の數字でございますが、各會社即ち船舶或は工業其の他總ての會社を網羅しまして其の進歩の度合を申上げますると、最初から細い數字を並べるのは煩はしうございますから、暫く日清戰爭の頃ほひと目下とを比較して申しても、即ち二十九年の會社の數が四千五百九十五であつて、其の資本が六億千九百萬、事實の拂込が殆ど四億でございます。然るに三十六年に至りましては、其の會社數が增して九千二百四十七と相成りまして、其の資本の高も十二億五千三百萬となり、拂込も八億八千七百萬と相成つて居ります。又現在の所では、會社の數が九千六、資本の合計が十二億六千二百萬、拂込資本が九億七千五百萬と相成つて居るのでございます。是等の進歩も殆ど銀行の進歩の程度と其の足並を同じうして居るのでございます。

日米貿易の有樣

又日米兩國貿易の有樣に見ましても、其の進歩の度合といふものは實に驚くべき有樣でございます。明治六年の貿易の數を調べますると、僅に輸出が四百二十萬、亞米利加からの輸入は百萬しか無かつたのでございます。然るに四十年の數字を調べますると、輸出が一億三千萬あつて輸入が八千六十九萬でございます。殆ど四十倍の增加を爲して居ります。其の間の年々の進歩は、茲に調べてはございますが、餘り煩はしうございますから略します。斯樣に銀行事業に致せ會社の

事務に致せ、また國と國との貿易の數に致しましても何十倍といふ進歩を見ましたのも、其の原因を質せば、詰り貴國が我が日本の長夜の夢を覺まして吳れたと同時に、實業が甚だ國家に必要なものだといふことを、强く皷吹をなすつて下すつた結果であると考へますると、吾々此の實業に從事するものは、最も深く諸君に向つて謝辭を述べねばならぬと考へるのでございます。

斯樣に日米貿易の數は、日本の全世界に對する貿易高の四分の一を占めて居りまして、而して其の重なる輸出入は如何であるかと申しますると、私の考へる所では甚だ好い狀態であるといふことを申すに憚りませぬ。我が國から亞米利加に行く品物は、多くは亞米利加に澤山出來ぬものである。又亞米利加から日本に來るものは、日本では頗るこれを望まねばならぬものである。即ち有無相通の法理に適うたる貿易と申して宜からうと思ひますれば、未來に此の事業の彌增しに進んで往くといふことは、御互此の席上で堅く申合せ得らるゝことゝ信ずるのでございます。既に前に申上げました通り、我が國を文明の域に政治上からも導き、又實業上の發達も四十年の間に斯く迄進めて吳れた亞米利加である。吾々に對して飽く迄も好意を持たれることは云ふまでもないことである。又亞米利加の御人々も左樣に考へて居られるのであらうと思ふのです。右の事情に依つて、吾々は厚く亞米利加といふ國を忘れんと欲して忘ることの出來ぬ關係があり、而して其の利害は頗る好都合の問柄にあるのに、日本が如何にして亞米利加に惡い感じを持つてあらうといふことは、亞米利加の御人々の胸にも浮ぶ筈が無からうと考へるのでございます。

私は銀行者でございますから、自身其の位地に居りませぬけれども、聊か工業のことにも關係を持つて居りまするので、茲に一二の辯護的の言葉を申上げますれば、例へば亞米利加の棉花を日本が買つて來て、紡績を造つて支那朝鮮に商ふといふ場合に、或は亞米利加のそれと或る場合には多少衝突を惹起さぬとも限りませぬ。又亞米利加の人々が人造生絲を製造して、成るべく日本の絲の澤山這入らぬやうに御心配なさるといふことが或は生ずるかも知れぬけれども、それらの事は商賣上御互にあるべき筈で、世の中に新しい利益を進め便利の方法を講ずる此の新進の時代に於ては、御互左樣なことを攻究するのは最も努むべき所であらうと

思ふ。況や亞米利加は吾々の師匠である。弟子の發達は師匠の喜ぶのが當然である。又弟子は師匠に負けまいと思ふのは何れの世の中でも當り前であるから、必ず是等の點に於て亞米利加と日本が利益の衝突を來すことの無いといふことは、私の茲に斷言する所でございます。

相互に聊も不利益の生ずること無し

前に述べ來つたる理由に依つて見ましても、亞米利加と日本との未來は國交上に於ても又は貿易の關係に於ても益〻親密を加へるとも、聊も御互に不利益若くは不愉快の生ずる筈の無いといふことは、明言し得らるゝことゝ思ひまする。定めて臨場を下された諸君も、私の申上げることは當座の御世辭でなく、眞實に御同意を表して下さることであらうと思ふのでございます。

實は今夕は、前にも申上げました通り、極めて寛いで御互に所謂肝膽相照して御話を願ひたいと心得ましたのでございます。而して吾々より申上げますよりも、寧ろ遠來の佳賓の御說を澤山伺ひたいといふ希望であつたのです。故に食卓の演說として斯樣に長たらしいことを申上げるは、諸君の前座として長過ぎたやうに考へますけれども、日本の事態を申上げませぬと、諸君の御演說の材料を作るに不足がありはせぬかと斯う考へました爲に少し長く饒舌を致して、諸君の御演說下さる妨を致したのは如何にも恐縮に堪へぬ所でございます。併し今晩の時刻は別して時計を長く致しますから、諸君は充分なる御抱負のある所を御申聞け下さることを希望して已まぬのでございます。終に臨みて私は盃を擧げて遠來の諸君の御健康を祝します。（明治四十一年十一月廿日、有志銀行者の米國實業家招待會席上に於て）

九〇　慈善事業と中央慈善協會

閣下竝に諸君。今日茲に中央慈善協會の發會式を擧行致すに就きまして、發起人より御案內を申上げて、皆樣の御參同を請ひ、多數の御來集を得て、此の發會式の盛典を擧げ得られまするのは、發起人一同の光榮此の上もございませぬ。發起人の評議に依りまして、私は茲に總代として發會の辭を述べまする光榮を荷ひます。愚見を陳述する前に、先づ第一に閣下竝に諸君の賁臨を辱うしましたことを、發起人一同に代つて感謝いたします。

本會を設立いたしまする趣旨は、既に御手許へも差出してございまする趣旨書

に其の要旨は記載してございまするで、諸君は御了知下されたらんことゝ思ひますけれども、斯かる多數の御會同を期として、尙ほ更に趣意書に敷衍して二三不肖の考へて居りまする事を茲に陳述致し試みたいと存じまする。

世間の同情に俟たねばならぬ

元來一つの事柄を企てまして其の進行を圖りまするには、當事者から考へますと、世間が充分同情を表さねば其の事柄は完全に進み、穩健に擴張は仕兼ねるものでございます。例へば茲に草木を植ゑる。この草木が自ら肥料を吸收して繁茂して參りまするけれども、尙ほ太陽とか雨露とかの助に依つて倍繁茂して行く如きものである。また言葉を換へて一例を申すならば、少しく理由は違ひますけれども、試みに演劇のことに就いて譬へるならば、劇道に當る者は看劇者に敎へられるといふことを能く申します。故に慈善事業の如きも社會に慈善事業の感念が强くなつて、其の慈善事業の方法を充分に熟知され、其の指導を受けるに於て初めて、慈善事業が發達もし完全の域に達するであらうと思ふのでございます。故に斯かる事柄は其の當事者自身が精神を籠め、久しうして屈せぬといふことは論を俟ちませぬけれども、唯單に其の當事者の黽勉のみで其の事業が充分に効を奏するといふものではない。即ち、社會の太陽の光、社會の雨露の恩が、其の黽勉を大に增長せしむるのでなくてはいかぬと思ふのでございます。蓋し此の中央慈善協會を設立するといふことも、望むらくは此の社會をして慈善といふものは如何なるものであるか。慈善の性質はどう解釋して宜しいか。慈善の所作に就いて一般に目も肥え、耳も進みましたならば、其の事業も必ず進むであらうと思ひますので、中央慈善協會の將來は、自らも進み社會も進むといふことに進路を取りたいと祈念いたすのでございます。

慈善事業の意義

第一に申上げて見たいのは、此の慈善といふ事業でございます。私は歐羅巴の學問に甚だ疎いので、之を英語に若くは獨逸語に解釋して申すことは出來得ませんけれども、漢籍で覺えて居りまする所では、孟子に『惻隱之心、仁之端也』或は又『所謂人皆有不忍人之心者、今人乍見孺子將入於井、皆有怵惕惻隱之心』とある。總て以物を愛するといふ至情からそこへ發動して、捨て置けぬというて之を救濟するは、蓋し自然の至情であらうと思ふのであります。これは甚だ嘉すべきことである。即ち人の性は善なるものであるから、其の善なるものが或る困難の有樣を見、或る

窮迫の事に遭遇すると、身を殺いてまでも之を救はねばならぬといふ感念を惹き起すのであつて、寔に美事と申してよい。又佛敎の眞理は存じませぬけれども、喜捨とか施與とかいふ事柄は私をして解釋せしむれば、詰り人の窮苦を憫み困厄を救ふといふ趣旨からして、吾にある物をそこへ捨てゝ顧みぬ。其の困厄を救ふ爲には之を與へて吝まぬ。尙ほ前申した惻隱の心と殆ど働は似た者でなからうか。又發動の機會も同じものゝやうに想像されるのでございます。て何れの說も最も喜ぶべきものである。さりながら其の喜ぶべきもので、嘉すべきではございまするけれども、唯單に『惻隱之心、仁之端也』で、或る場合には努めて喜捨せよ、困難を見たら力めて施與せよといふだけであつたならば、それは己の心は慰むるであらうが、他の方面に働き掛けた曉に如何なる結果を見るかと云ふことを、もう一つ考へて見たいのでございます。若しも惻隱の心が過ぎて喜捨施與に偏したならば、惰民を作るといふことにならぬとは申されぬのである。己自身の心に於ては誠に滿足するのであるが、其の結果は決して善事とも美事とも申せぬやうな有樣になることは、世間往々其の例を見ることである。果して然らば此の慈善といふことに就いては、唯單に申す惻隱の心と喜捨の情ばかりで、必ず世に益するといふまでに屆くかといふことは、斷言いたし兼ねるやうに思ふのでございます。

組織的經濟的慈善

自己の心を慰むるに於ては甚だ宜しいけれども、世の公益を爲すといふ點に至つては、蓋し是は滿足と申せぬやうに考へるのでございます。殊に此の世の中が富も增し文明も進んで行けば、窮迫は先づ減じてよいといふ一通りの解釋は生じますするけれども、是は殆ど其の一を論じて其の二を究めぬ說に相成るのでございます。文明が進み富が增すほど貧富の懸隔が甚しくなるといふことは、洋の東西を問はず時の古今を論ぜず、事實がそこへ證據立てゝ居る樣に思はれます。現に此の短い期間我が帝國の首府たる東京に於て一例を擧げて申しましても證明されるのである。東京市の人口が百萬乃至百二三十萬の時代、富の程度も今日よりは遙に下級にあつた明治二十年頃の有樣と、二百萬以上の人になつて富の程度も數倍增したる今日と比べましたならば、貧困の人の數が如何なる差を爲して居るか。養育院へ行つて御覽なさると直ぐ分る。總計て五六百人であつたのが今日は千六百餘人の入院者がある。蓋し此の養育院の千六百の入院者は、皆養育院の

みの力で救つて居るのではございませぬ。養育院の力で救ふのと、東京市から特に費用を出しまするのと、又東京府から費用を出すのと各種ございますが、其の貧困者は一の養育院にして尙ほ三層倍になつて居る。左樣に貧困者が殖えたが、東京は甚だ貧困に陷つたか。否、東京は大變に富んで居る。富も增した、文明も進んだ、貧困者は多くなつたといふならば、卽ち文明が進み富が增せば、貧困者が殖えるといふことは、私の言葉が誣言でないことが分るかと思ふ。而して慈善の事に付いて近頃追々に世の中に此の美擧を唱ふる人が多くなりましたのは、我々多少其の事に關係いたして居る者の最も喜ばしく感ずる所でありますけれども、併し少しくこれは差障りの言葉に相成るか知れませぬが、前に申す通り唯惻隱の心とか或は喜捨施與といふ其の一に依つて發動されただけの慈善の方法は、決して此の組織的經濟的に働かれて居らぬといふことを、殘念ながら申上げざるを得ぬのでございます。殊に慈善には、隨分口汚く例を論ずるといろ〳〵ございます。斯かる多數の御集りの席で申すは少しく憚ることでございまするけれども、惡くすると時々見ることでございますから、序ながら陳述いたしますが、思付き慈善といふのがある。人にいはれてひよつと思付いて慈善をする。これは惡いことは無いがちやんと統一して統計を取られぬ。或る場合には澤山やつたり、或る場合には少しもやらなかつたり、また必要の者にやらずして不必要の者にやつたりする。これを思付慈善といふので、決してこれは組織的經濟的慈善とは申せぬと私は思ひます。また名聞慈善といふのもあります。さまで親切に此の困難を救はうといふほどの深い念を有たずにまあ乃公の顏で只も置けまい。斯うしてやらうといふ。そんな慈善であればこれを名聞慈善と稱さねばならぬのでございます。慈善心の無いのに比べては勝ることは萬々である。併しながら、前に申す組織的經濟的に此の名聞慈善が働けるかといふと、殘念ながら否と御答する外は無い。其の他また慈善の惡例を擧げると種々ございますが、まあそれ等は皆略しましても、どうしても此の慈善といふことをして眞に有効ならしむるには、經濟的慈善たらざるを得まいと思ふのでございます。て此の中央慈善協會が果して其の眞理を見開き、其の必要の事が履行せられるや否やは今日期し兼ねますけれども、中央慈善協會の發意は、蓋し此の慈善をして如何にも道理正しく、組織的に經濟的に進

慈善政治とも相俟つて行かねばならぬ

歩擴張して行きたいといふ考てございます。

今一つ申上げたいことは、此の慈善事業といふものは、勿論仁愛の情慈悲の心から發動して實地に行ふに過ぎませぬからして、全く個人的のものに相違無い。さりながら、既に組織的にと希望しますると、政治と相俟たなければ充分なる効果は得られまいと思ひます。維新以後、慈善事業も追々進んて參りましたけれども、蓋し急を先にして緩を後にするは世の政務を處するの常てある。如何に大政治家と雖も、先づ必要の事から先に料理してござるといふことがあるから、比較的此の慈善の事柄などに付いては、政治上からは後廻しに相成つて居ると申さねばならぬと感ずるのてあります。然るに既に必要を認められて感化法も布かれました。又此の感化救濟に付きましては、此の程來講習會も開かれて、今日來會の多數の方は、其の講習の爲に御參集の御人々てある所を以て見るも、卽ち政治上此の慈善を必要視して、慈善に就いて追々に施設せられる所あるの氣運に會したと申して宜い。斯かる場合にこそ前に申す個人々々の發動の善心が、丁度この政治上の施設と相俟つて之を調和して行くことてあつたならば、更に宜しきを見るてあらうかと感ずる次第てございます。是此の中央慈善協會の最も重要の時機なりと考へた所以てございます。

中央慈善協會設立の經過

要點は前に陳述いたしました二三に止まりますが、茲に此の中央慈善協會の今日發會式を擧げるに至つた經過を簡單に申上げて此の辭を終らうと存じますが、元來前に申上げましたる趣意からして、本會の如き機關をどうか成立いたしたいといふことは、識者間に從來唱へられて居つたことてございます。偶〻三十六年に大阪に於ける內國勸業博覽會の開設に際して全國の慈善事業大會が開かれました。其の會合は二日間てあつて、其の出席者中から我が國の慈善事業同盟會といふものを組織しようといふ提案もあつたのてございます。大阪に於ける慈善事業に關係ある人々が其の席て委員選任の事を委託されて、委託を受けた大阪慈善團體から委員を上京させたところが、其の當時東京て救貧防貧事業等に關する制度を其の筋て研究されて居つた。て同情を表する朝野の諸氏が、東京及び此の附近に於て慈善事業に從事する人と謀つて、創立委員若干名を推薦して、其の創立に關する一切の事を委託しました。其の委員諸氏は爾來數回評議をして、三十七年

に愈〻東京市に於て大會を開かうと考へつゝあります時に、恰も三十七八年の大戰役が起つた。故に其の發表を見合せて、唯戰時中には慈善研究會の名を以て戰時に於ける救濟事業の統一等のことを發表し、其の戰爭の爲に影響を蒙る細民の狀況を調査して、これを救濟するといふ方法を盡するだけに致して居りました。爾來歲月を經て追々に時機の熟し來つたことを認めました爲に、殊に今回政府で感化救濟事業の講習會を開催されて、此の事業の經營者諸君が上京になつて、長い間其の方法に就いての講習を受けられる頗る好い時機と考へまして、前に申す三十六年から經營いたし來つた事を茲に愈〻發表いたして、此の會を產み出すことにしたが宜しからうといふ事に一決いたした次第でございます。此の會の要點は既に趣意書が諸君の御手許に差出してございますから定めて御一覽下されたであらうと考へます。而してそれに附加へて、二三言私の重要と感じまする愚見を陳述いたしました。而して今日に至りました經過は前來陳述いたした通りでございまするで、仰ぎ願くは最初に申上げました通り、此の會をして大木たらしむる程に繁茂せしむるは卽ち此の太陽の光、雨露の恩でございます。一般に社會が、此の會を充分に必要視し、且つ之を誘導して下さらねば、決して此の會が大に發達することは出來ぬのであります。未だ至つて幼弱でございますから、吳々も充分此の會の御哺育を滿堂の諸君に懇願いたします。

（明治四十一年十月七日、國學院大學に於て開會せられたる中央慈善協會の發會式にて）

九一　經濟時事談

善果と惡果

何時も同じやうな事を申すやうですけれども、所謂烏兎匆々で又一年を過して、例によつて明治四十二年の經濟界に對する意見の御尋を受けるやうな時機に迫つて參りました。全體同じことを繰返すのが人間の免かれぬことであつて、別段に新しい有樣がこゝに現出しようとは思はぬのです。併し『年々歲々花相似』といふも『歲々年々人不同』ですから、本年は本年として多少又變つた有樣が生ずるのであらう。又生ぜしめなくてはならぬ。而して其の變つた有樣は、總ての人の心掛が宜しければ善い有樣が現はれて來るし、又惡しければ反對に惡い有樣が現はれて來るから、どうしても一般の國民が年を迎へると共に、良い仕方を以て善い

事が現はれて來ることを勉めねばならぬと思ふのです。是は總て人間萬事を指して云うたので、吾々の本領たる實業界ばかりを申すのではありませぬ。政治家でも、教育界でも、其の他外交界も、軍事も、總て今申す道理は皆含蓄して居るだらうと思ひますが、次に聊か自分の本領に就いて申述べようと思ふのです。

日露戰爭の及ぼせる影響

昨年の冬も本年の經濟界に就いての意見の御尋に對して、銀行通信錄紙上に申述べたやうに思ひます。其の時には財政に就いて非難攻擊を强めて申したやうに覺えて居るのです。其の時の觀念は、どうしても此の財政の仕組では、殆ど日本財政經濟の安全を保てぬてはないかといふ位までに懸念しました。今日も其の事を再び茲に繰返す必要があると思ふのです。詰り明治三十九年は、約めて云ふと日本の總ての方面が少しく熱に浮かされて、かるはづみの行動が多かつたと言はねばならぬやうに思ひます。三十七八年の大戰爭から日露兩國の間で俄かに消費した金額が五六十億にもなりましたらうが、其の數字は細に知らぬけれども、戰爭の爲に費した費額を計算するならば決して政府が直接に費した者ばかりではない。少くとも政府直接に費した額が、日本だけでも二十億に近いとすれば、彼は我より增して居るに相違無い。又其の他に國民が戰爭關係で費消したる金額といふものはなか〳〵容易なものではない。それは全く通常の生活以外の費消であつたから、其の費消に對する供給が無くてはならぬ。其の供給は取も直さず物を增すので、例へば國民の平素の需要が十であつたものが、戰爭の爲に俄に二十になつたとすれば、それだけが丁度國民の富が增した如き有樣を爲すので、爲に其の本國たる日本は勿論他の國々へまで其の需要を進めて行つた。鐵も買入が增したであらう。銅も買入が增したであらう。石炭も增したであらう。セメントも增したであらう。煉瓦も增したであらう。總ての物の需用が增して行つた。其の增して行つたのは價を增すことになる。價を增すことになれば供給を加へることになる。そこで景氣を大變に上騰せしめた。是は自然の勢である。暫時のことだとさうなりませぬけれども、それが一年も續くと、戰爭の關係であるといふことを知りつゝも、隣の店で之に應ずる供給をずん〳〵遣れば、我が店がそれに劣るとどうしても市場に勢力を失ふ。信用も減ずるといふ譯になるから、勢ひ增設を圖らなければならぬ。增設ばかりてはない。新規の計畫も生ずる。それで

平常の入用といふだけの設備てなしに、不相當なる設備が、日本のみならず全世界に行はれたといふことは免かれぬ勢てあつたらうと思ふ。

輕佻浮華と眞摯著實

殊に日本は三十九年の夏から秋へ掛けて、盛んな勢て其の有樣が膨脹して行つた。そこて諸株式などが限り無い勢を以て進んて行つたけれども、それは虛勢てあつて固より永續すべき性質のものてないから、直ちに四十年の初めにはこれが崩れて來た。所が實業界の虛勢の極く膨脹して居る頃に政府も亦虛勢が膨脹した。三十九年の豫算の定め方といふものは、私共細い數字を茲に記憶して居つて、此の點が多い此の點が不相當だと指示する程詳密に存じませぬけれども、總ての方面に向つて如何にも過當てあつたと思ふ。其の病根がずつと繼續して四十年四十一年に至り、遂に斯の如くに各方面に衰退を惹起したのは、全く原動に對する反動てあつて、能く考へて見ると識者を俟たずして知り得べきことてある。吾々が三十九年に於て其の事を前知し得なんだのは所謂凡夫の悲しさて、注意の到らなかつたのを悔むの外無いのてす。併し私一人がさういふ不注意てあつたならは、洵に面白ない譯てあるけれども、惡くいふと日本全體を擧げて皆目前の有樣に

眩惑されて、全體の實力の觀察に少し見誤りがあつたと言はねばならぬのてす。然るに昨年の秋頃からして誰も彼も其處に注意して、どうしても經濟界も斯かる浮氣の有樣てはいかぬから、努めて眞摯實著にせにやならぬといふことになつて虛構の組立は自然と皆破れてしまつた。又中にはまんざらの所謂泡沫てないものまても、餘り過度の施設てあつたとか若くは其の仕組の鞏固てなかつたものは、成立たんとして破れてしまつたものが幾らもあります。現に私共關係して居たものても、此の種のものが兩方の指を折る程あるのてす。經濟界の總てを擧げて云うたら、殆ど枚擧に遑あらずといふ有樣てございませう。併しながらそれが宜かつたのて、無理に之を成立たせたら益〻苦しむのてあつたに相違無い。取も直さず自然の良知能が人の健康を保つのと同じことて、例へば胃の働きが惡いと自然と口に食物がまづくなつて來る。其の働きの惡い時に無理に食物を入れたら大變胃を害するに相違無い。是は卽ち自然の良知能てある。

安全瓣無き蒸氣汽鑵

然るに政府の方てはさうてなかつた。悲しい哉それは法律て極めるものだから、惡くすると自然以外の、例へて謂はゞ蒸氣の安全瓣のないやうな有樣がある。

餘りに過度に吹出すやうになると、自分の力で蒸氣を洩らして其の破裂を防ぐといふのが安全瓣の働きである。經濟界にあつても愈〻惡いと思へば、不體裁でも何でも自ら止めてしまふけれども、政府の方は豫算で定めて法制で行ふから、實力は自然が拵へるのではない。一國としては同一であるけれども、併し取るものと使ふものとは全く境遇も違ふし資源も違ふからして、如何に民間が困難であつても、極めてあるものだけは遣り遂げて行かなければならぬ。遣り遂げて行かうといふに就いては誅求も加はつて來る。惡く申せば近頃課税に就いて、至つて綿密に至つて誅求の烈しいのは、暴政でもなく惡政でもないけれども、勢ひさうせねばいかぬといふ必要から仕組まれるので、隨分、一方から言へば商賣は段々衰退するに反して所得税は段々高くなる。實に苦しいといふことは私屢〻聞く所です。是等も三十九年頃の膨脹制度の結果と言はねばならぬ。併し先づ幸に昨年の秋頃から各地で注意して苦情の聲が高かつたのが、自然と政治界にもそれだけの感動を與へたものと見えて、不幸にして前の内閣(西園寺)に於ては之を改正するに至らずして罷められたけれども、今の内閣(桂)が成立と同時に、其の方に念慮を餘程強く持たれたやうに察せられる。

公債整理

而して桂公の大藏大臣となられて以來別して其の方に念慮が強く、第一に公債の整理といふことに力を用ひられるやうに見えます。現に其の事に就いては、吾吾銀行者に向つても斯くする意念だといふことは、先頃の交換所の集會の時にも御自身は出られなかつたが、逓信大臣を代理として公債に對する政策を明言され此の事は最早實施されつゝあるので、今年の豫算にも多分其の趣意を以つて組立てられてあるのであらうと思ふ。私はまだ細に豫算の内容を見た譯ではありませんけれども、政府の意見の固く定つたのと、また昨年來民間でも過度なことは總て止めて、戰爭以前の有樣に復するといふ考で、誰も彼も其の念慮を強めて、それらに就いて整理した所もあつて、相俟つて此の公債は大に氣勢を恢復した。獨り内國で恢復したのみならず海外にも響いて、日本の今日の財政は唯無暗に軍備を擴張するとのみ誤解され、爲に餘程疑惧の念を抱かれて、其の疑惧の念は財政上から及ぼして經濟界にまで不安心を加へられたといふ有樣であつたが、是等は寧ろ經濟界の人が濡衣を著せられたのである。自分の働き以外に財政が無暗に

膨脹して、殊に軍備に力を入れたから、兎角日本は平和を望まない國柄であるといふやうな誤解を來したのであらうけれども、中には惡意を以て誹謗を加へた新聞紙なども間々あつた。それらの誤解から、經濟界の考も斯うであらうとか、斯ういふことも安心が置けないとかいうて、種々なる點に誹謗を受けたといふことが事實あつたが、それらは前に申す公債の整理を堅固に遣らうと覺悟せられたことは、卽ち政費の膨脹を緊縮せしむるといふことになつて、それが卽ち財政のみでない經濟界にも慰安を與へて、丁度前と反對の事實が一般の人氣に現はれて來たやうに思ふのです。

税制整理に就いて

これで此の一段は聊か安心のやうてあるけれども、併し吾々は假令銀行者としても、是で以て國家は極く泰平無事、唯此の內閣を謳歌するとばかりとは申されないと思ふ。元來私は税制の整理も決してどうても宜いと思つた譯ではないのです。戰爭に際して餘儀無く設けた税が殆ど一億五六千萬圓ありませう。是は決して永續すべき主義を以て課したのではないのだ。戰爭の爲に已むを得ず課したのである。其の中には所謂惡税といふものも隨分多いやうてある。是等のものは相當の整理をせねばならぬやうに思ふ。吾々銀行者が昨年から今日まで幾つも注文を言はぬといふものは、斯かる紛糾の場合に種々の企望を一時に云うたならば、總て行はれないやうになりはせぬか。故に先づ其の一を擧げるやうにしたいと思うて、公債の事に第一重きを置いたのてある。公債に重きを置くのは、税制の整理はせんても宜い意味のやうに人が銀行家を觀察するならば、それは誤解てある。吾々も戰時税に就いては、相當なる時機に於て相當なる改正をしたいものてあると云ふ考を持つて居る。又一方には四十四年には、今の協定税率を改訂し得るやうな年限に達して居る。是も餘程考へて極めなければならぬのてある。故に此の税に對する問題も、今日甚だ重要てあると考へねばならぬやうに思ふのです。今俄かに處分せねばならぬとまてには申さぬけれども、決して此の儘て繼續すべきものてない。否、直し得るものは徐々に直して往きたい。新聞紙抔ては頻りに三税廢止論を唱へて居るが、私共其の三税の高がどれ位て、政府が斯くすれば廢止し得るといふ數を擧げて比較攻究をしませぬからして、それまてに判然したことは申兼ねるけれども、蓋し此の三税は何れ整理すべきものてあるといふこ

とは、矢張同意を表して居る。更に私共の氣遣ふのは輸出入の不權衡である。是が矢張三十九年からの惰力が殘つて居る爲であるか、若くは軍備其の他の爲にどうしても輸入の方が勝つ勢が強いのか。此の點は餘程攻究して見ねばなるまいと思ふ。それはなぜかといふと、もし實際稅關の計算に現はれる通りであるならば、どうしても常に外國から借金をして、さうして其の借金で以て貿易のバランスを償つて往かなければならぬやうになつて來る。此の點に就いては多少計算上の誤謬がありはしないかと思ふ。成るべくは政府と民間とで力を合せて、もう少し叮嚀の調査が出來はしまいか。稅關のバランスだけに上つて來るのが眞の數字であるならば、どうしてもそれだけの貨幣が此方から出て行かなければならぬ。加ふるに外債の元利を拂ひ、一方からは會社の社債が這入つて來るとか、又は相當なる約束の下に一時の借入金が這入つて來るといふやうな差引勘定もあらうと思ふけれども、併しどうも出るものは入るものよりは多くはないかと思ふのです。貿易のバランスが一箇年に七千萬圓多ければ、七千萬圓の金が自然減つてしまはなければならぬ。若しそれが事實であれば、戰時中政府の心配で海外に正貨を貯へてあるものも必ず限がある。其の金が盡きたならば、遂に日本銀行の兌換券は其の基礎を危くするといふことまで懸念せねばならぬやうに思はれる。是等に就いては餘程注意して實況を調査して、其の覺悟をして往きたいものと思ひます。或は表面に現はれる計算より、多少輸出入の不權衡が少くないといふことがありはしないかと思ふ。例へば稅額を得る爲に輸入の金額を多く積つて輸出の計算が少ければ、事實は稅關の統計に擧がるより其の差額が少いといふ勘定が生ずるものではなからうか。嘗て目賀田氏が、運賃やら何やらを加へると稅關の表に現はれる割合よりもつと減ずると言はれたことがある。それらも吾々ばかりで調査は出來ぬことであるが、大藏省とも能く諮つて十分なる計算をして見るが宜からうと思ふのである。

調子附くは惡癖なり

それからどうも御互日本人は官も民もさういふ嫌があるけれども、一寸すると直ぐ浮かれるといふ傾きがある。少し景氣が好いと直ぐに調子に乘るといふ弊が多いと申さなければならぬ。少し頭が痛むと直に大病人のやうに思ひ、少し工合が好いと、直に一杯飲んで花見に出掛るといふやうな傾きがありはしないかと

思ふ。此の小康に就いて直に又調子附くといふことは好ましくないのです。一例を擧げて言はうならば、東洋拓殖會社の株式申込てす。私はあゝいふ實力は各地に持つて居るまいと思ひます。丁度あれは南滿洲鐵道株式會社の雛形で、彼は千倍以上此の方は三十幾倍てすから大分其の間に相違はあるけれども、併し其の有樣が少しく相類して居る所がありはしないか。僅に公債の價が少し回復すると直樣さういふ有樣が現はれて來る。御覽なさい、株式申込を受けた銀行に就いて。私の銀行が少いからそれて苦情を云ふのてはないが、多額の申込を受けた銀行が果して信用の厚い有力の銀行てあるか。其の申込の少いのが信用の無い力の弱い銀行てあるか。どうも私はさうばかりは言へぬやうに思ふのてす。若し之が反對てあつて、澤山申込まれた方が弱い銀行てあるならば、即ちからはづみの調子が其處に現はれたものと、どうしても言はなければならぬのてす。すると諺にいふ『喉下過ぐれば熱さを忘れる』國民てあると、御互の同胞てあるけれども責めなければならぬ。堪へ性の少い、記憶力の乏しい國民てあると、斯う言はなければならぬやうになる。そこて私は言ふ、『年々歳々花相似、歳々年々人不同』といふ故人の詩の如くに、花を同じからしめるのも人が其の美しく咲かせるので、自然から云へば花は花自身に咲くのだから、人の力はどうても宜いやうなものてすが、併し吾々經濟界の花は唯雨露の惠ばかりて咲くものてはない。其の雨露の惠といふのは、即ち吾々の働きが雨露てあるのてあるから、吾々の働きが惡かつたならば經濟界の美しい花は咲かぬのてある。さうして見れば年々人が同じてなければ、花も必ず同じくないのてすから、美しい花を咲かせようと思へば良い培養をなさなくてはならぬ。どうぞ此の四十二年は右の覺悟を以て十分の勉勵をしたいものてあると思のふてす。（明治四十二年一月發行の『銀行通信錄』に掲載せる談話筆記なり）

九二　法律と實業家

閣下、諸君。今日の當倶樂部の晩餐會には司法大臣及び司法部の諸閣下の尊臨を請上げました。幸に皆樣の御臨場を辱うしましたのは、當倶樂部の爲め此の上も無い光榮てございます。私は此の倶樂部を代表致して大臣及び臨場の諸公に先づ謝意を申上げます。

法官銀行者相互情意の疏通を欲す

此の倶樂部は吾々銀行者だけの寄合でありますから、諺にいふ『我が佛尊し』て、打寄りましても同じ色だけで、自ら井蛙の見の嫌がございまして、社會のことは自然疎くなる、世間が狹くなるといふ虞がございます。況や銀行者は常に錙銖の利ばかり爭つて、得手勝手が強いなどといふ世間からの批評がございますから、成るべくたけ見聞を廣くし、所謂他山の石で琢磨も加へねばなりませぬ。故に抑〻此の晩餐會に他の方面の珍客を御招して、愚說も述べ又名說も伺ふといふことが此の倶樂部に取つて大なる利益と存じ、今夕は茲に司法部諸公の尊臨も請上げました次第でございます。殊に吾々商賣人は、司法部の方々とは甚だ御會話もしくは御討論を致す機會が乏しうございます。獨り今日に於いてゞはございませぬ。昔からして兎角商賣人と法官の方々とは、甚だ情意の疎隔を來す弊があつたと思ひまする。でどうぞさういふことは將來追々に排除して行かねばならぬと思ひます。併し其の由つて來る原因がどういふ點にございまするか。自ら習慣の然らしむる所も大なりと申さねばならぬてございませうけれども、もう一つは吾々共の司法部を見上げる所、又司法部の方々の商賣人を御覽なさる所、或は此の情意の通じ兼ねるといふ所があるてはなからうか。殊に吾々の法律の眼を持たぬ者から考へますると、或は人の之を運用することの惡いのか、又は法の未だ十分熟さぬのてあるか。兎角に吾々が法律を見ると、總て理窟が多いとのみ感ずると同時に、法官の方々が吾々を見るのは反對に、唯利益にのみ拘泥するといふやうに見られるてはないか。是を以て兩者の意思の相一致せぬことが時々生じはせぬかと虞れるのてございます。殊に此の劃一の制度からして、人といふと何れも同じ、やうに御看做になるといふやうなことは、尙更に其の疎隔を强める虞がありはせぬか。是等は成るべくたけ取除くことに常に御注意を願はねばならぬことゝ私は考へます。

法律に疎き吾人の指導を乞ふ

詰り申すと、此の商工業に從事する者殊に銀行者などは法律の精神が乏しく、法律上に心の用ひ方が少いといふことは、自らを責めねばなりませぬが、之と同時に法律に從事の方々が成るべく吾々共と說を御闘はせ下され、又足らざる所は敎へて下されて、努めて經濟と法律とを密著して進むやうにならなければ、眞正の國家の富强は致し兼ねることてございますまいか。吾々は平生さういふ所に憂を持